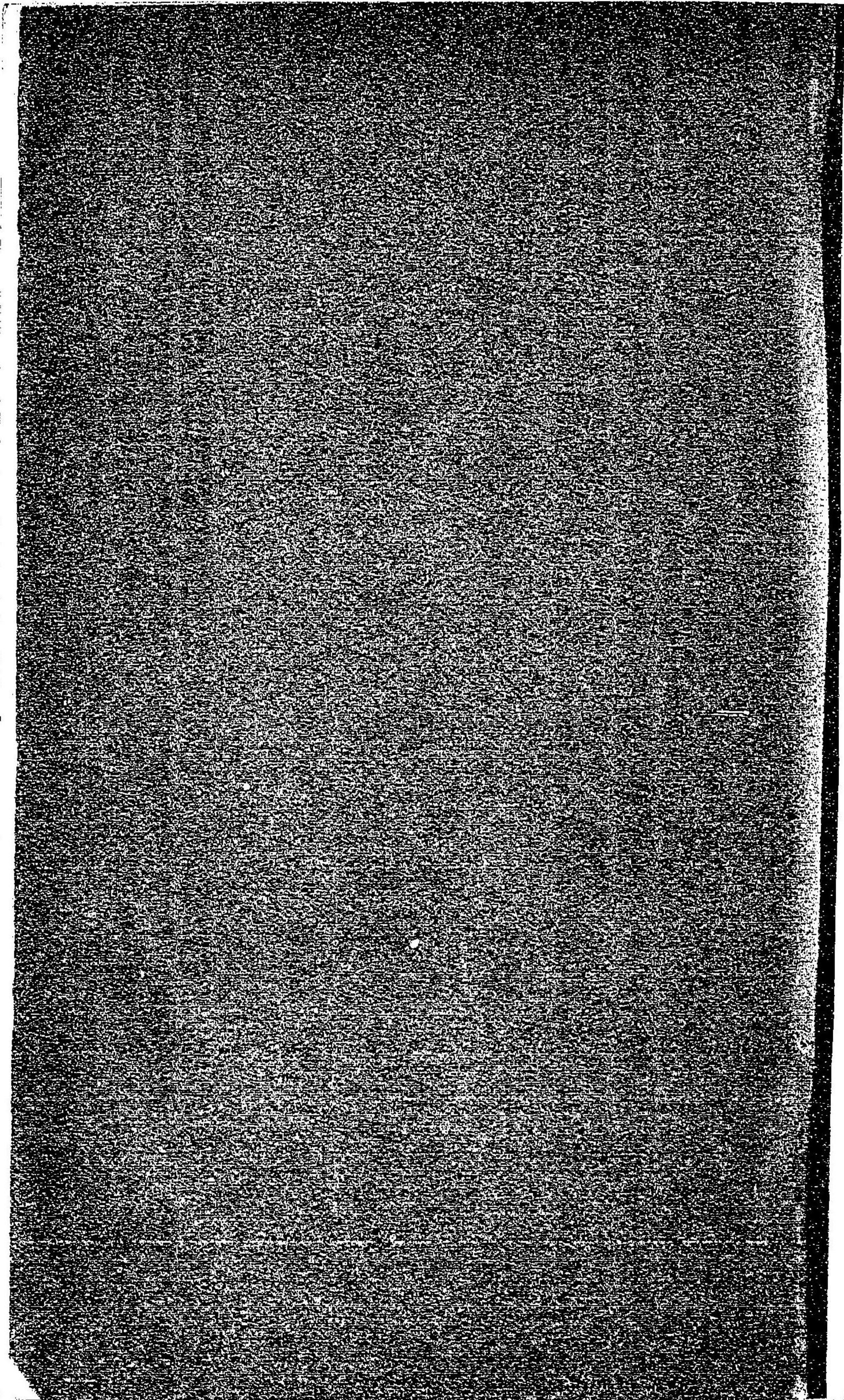


164
374

理內 獨案



庫
4





先づ此處を

讀み玉へ

學問の花と
 申じますれハ誰でも詩歌俳句な
 りませぬ併志私の考へまするに
 へまするが成程是等も學問の花
 の様には考へ
 りませぬ併志私の考へまするに
 詩歌俳句
 の類て
 ありまして頽白の老人はいざ知
 らず有爲の青年諸君にハ何の役にも立ちま
 すまいと思はれます(ヒヤ〜)
 蓋文明と申まます事は吾人に幸福と利便と

序

を興ふる手段が發達したといふ意でありま
して詩歌俳句などの虚文の學術が進歩せり
といふ事ではありませぬ試に活眼を開きて
現時の有様を見玉へ海には汽船なるものが
ありまして萬里の波濤も易々と渡航し陸に
は電信鐵道などいふものがありまして千里
の通信往來も雜作なき事でありまして若し是
を昔日に比較するなれば果して如何で有り
ませう實に今人の幸福と利便とハ古人の夢
にだも見ざる處であります是等の幸福や利

便を作り出したる原因物は何でありますか
詩歌俳句の餘澤で有りませうか決して左様
とは思はれませぬ全く他の實益ある學問の
功力であります是れ私の詩歌俳句の類を以
て實のなき仇花と申したる所以であります
(ヒヤ) 然らば何をか實益ある學問なりやと
申しますすれば私は大聲理化學なりと答へん
と欲します實に理化學の社會に必要なるは
宛も食餌の人体に必要なが如くであります
してこれなければ社會は衰弱疲勞久しく絶

食せる人の如くで迎も獨立獨行する事は出來ませぬ汽船や電信鐵道より其他一切文明の道具たるものは如何なるものにてても理化の原素を含まざるものはなく理化の應用より成らざるものとはありませぬ故に其國をして文明の國となじ己も亦文明の一人民たらんと欲せらるゝ青年諸君は實に此學の研究を措きて他に勉むべき學科はありませぬ是れ私の詩歌俳句の類は頌白の老人言は社會の隱居役たる族の慰物で他日有爲の

諸君には全く無益なる學問であると申したる理由であります(ヒヤク)斯く説き來りますれば學問の花とじて價値あるものは實に理化學を措きて他には決してありませぬ是れを全美として有益なる結果を得べき唯一の眞花であります故に理化の書籍は日に月よ其數を増加し今日よありまじては中々汗牛充棟どころでは有りませぬ併し惜哉何れも皆學術的に解釋して是を讀み是を味ふに些少の愉快といふものが有り

ませぬ理化學は貴重かるだけ夫丈高尙の學科で有りますが故に學理にのみ走せて解釋を下じましては利益を與ふる事なきのみか却て面倒なる厭ふべき一種の學科とならんと致します是れ私をして此書を編纂せしめたる激因で有ります此書題して理化獨案内と申します蓋は玄妙高遠の學理を一も洩さず残す所なく研究せんと致しまするは到底此小冊子の企て及ぶべき事でありませぬ學問の花たる理化學中特

に又珍奇にして快味多き花とも稱すべき事共を集め歡樂の内知らず識らず諸君をして理化の高尙悠遠なる原理を悟らしめんと考へより一種諧謔的の手妻として説明する事と致しました勿論世上に有觸れたる道理なき笑ふべき手妻の比では有りませぬ悉く私が多年經驗の成績より編み出したるもの語を易へて申さば悉く皆學理を應用したるものゝみで有りますれば一讀一試以て其誤りなきを知り玉へ(ヒヤ) (拍手喝采)

終りに至り一言申置くべき事は元來此書は
 一理化學を應用して一種の手妻と致したる
 事ゆへ往々劇薬を用ゐ極めて危険なる仕方
 も少く有りませぬ去れば夫等の實驗は必ず
 諸君が學校に於て遊戯の折か左なくば理化
 學修業の際などに教師諸君の立合監督を願
 ひ共俱に研究して過失なき様注意せられん
 事私か滿腔の希望で有ります

明治廿七年一月

中外史識

理化獨案内

目錄

○ 第一	水上ヲ一面ニ燃ス法	一丁
○ 第二	白紙ニ書畫ヲ隱見スル法	四丁
○ 第三	噴水ノ法 其一	五丁
○ 第四	竹筒鉄砲	七丁
○ 第五	投ケタル錢ヲ取戻ス法	九丁
○ 第六	紙製風船ノ製法及扱方	十一丁
○ 第七	錢或ハ針ヲ浮ヤス法	十四丁

目錄

○ 第八	空鑊ヨリ砲聲ヲ發スル法	十六丁
○ 第九	皿ノ水ヲ空クスル法	十八丁
○ 第十	藁人形ヲ躍ラス法	十九丁
○ 第十一	茶ヲ黑色ニ變シ再ヒ返ス法	廿二丁
○ 第十二	噴水ノ二法	其二 廿四丁
○ 第十三	焙出ノ二新法	廿七丁
○ 第十四	玉子ヲ水ニ浮バス法	廿九丁
○ 第十五	遠方ノ人ト話スル法	卅一丁
○ 第十六	清水ヲ白色ニ變スル法	卅三丁
○ 第十七	石鹼玉ノ爆烈	卅四丁

○ 第十八	蝶々どんほヲ永久保存スル法	卅六丁
○ 第十九	火箸ニテ火箸ヲ釣ル法	四十丁
○ 第二十	金魚ノ色ヲ抜キ去ル法	四十二丁
○ 第二十一	日本手妻ノ數法	四十四丁
○ 第二十二	水色ヲ種々ニ變スル法	四十八丁
○ 第二十三	人体ヨリ發火セシムル法	五十丁
○ 第二十四	墨色ヲ抜キ去ル法	五十三丁
○ 第二十五	人形ヲ水中ニ躍ラス法	五十五丁
○ 第二十六	花ノ色ヲ抜キ去ル法	五十八丁
○ 第二十七	走馬燈ノ製法	六十丁

- 第二十八 硝子ニ書畫ヲ現ハス法 六十二丁
- 第二十九 氷菓子ノ製法并ニ夏向キノ飲料ノ事 六十四丁
- 第三十 銅ニテ水ヲ青クスル法 并ニ金銀ノ鑑定ノ事 六十六丁
- 第三十一 永久噴水ノ法 其三 六十九丁
- 第三十二 燃ヘザル紙ヲ製スル法 七十一丁
- 第三十三 玻璃鏡ノ製法并ニ銀流ノ事 七十三丁
- 第三十四 白雲ヲ起ス法 七十五丁
- 第三十五 五色蠟燭ノ法 七十七丁

四

- 第三十六 寫真箱ノ製法 八十丁
- 第三十七 木葉ノ纖維ヲ取り出ス法 八十三丁
- 第三十八 自然ノ燃燒氣 八十五丁
- 第三十九 土ヨリ金屬ヲ取り出ス法 八十七丁
- 第四十 附屬試験三法 九十三丁
- 第四十 不思議ナル二氣 九十三丁
- 第四十一 かむひーヤトバツたー 九十六丁
- 第四十一 ふらいノ遊戯 九十六丁
- 第四十二 水中ニ雷鳴ヲ起ス法 九十九丁
- 第四十三 青竹ノ色ヲ抜キ去ル法 九十九丁

- 第四十四 井ニ疣ノ事 百〇一丁
 - 第四十五 白晝妖怪ヲ現ハス法 百〇三丁
 - 第四十六 小動物ヲ殺シ再ビ活ス法
 - 第四十七 附屬試験 二法 百〇七丁
 - 第四十八 藍地木綿ノ色ヲ抜キ去ル法 百十三丁
 - 第四十九 癩癩玉ノ製法并ニ雷粉ノ事 百十五丁
 - 第五十 花火線香ノ製法并ニ庭花火ノ數種 百十七丁
 - 第五十一 水素ノ手遊 二法 百廿二丁
 - 第五十二 砂糖ヨリ大火炎ヲ發スル法 百廿三丁
- 合計五十奇術 ○ 餘論 二十五法

理化彙案内



中村外吉著

○ 第一 水上ヲ一面ニ燃ス法



諸君ニ私ハ理化學應用手妻ノ第一著ト致シマシテ茲ニ御覽ノ通リナル大ナル硝子製ノ井ヲ持チ來リマシタ今此ノ井ノ中ヘ水ヲ浪々ト注ギ込ミマシテ斯様ニ金魚ヲ五六尾放シマシタ何ント奇麗デハアリマセシカ處デ私ハ右手ニ捧ゲマスル水藥ヲ此ノ井ヘ惜シクナク注ギ入レマシテ同時ニ左手ニ持チテ居リマスル小豆粒位ノ藥品ヲ投

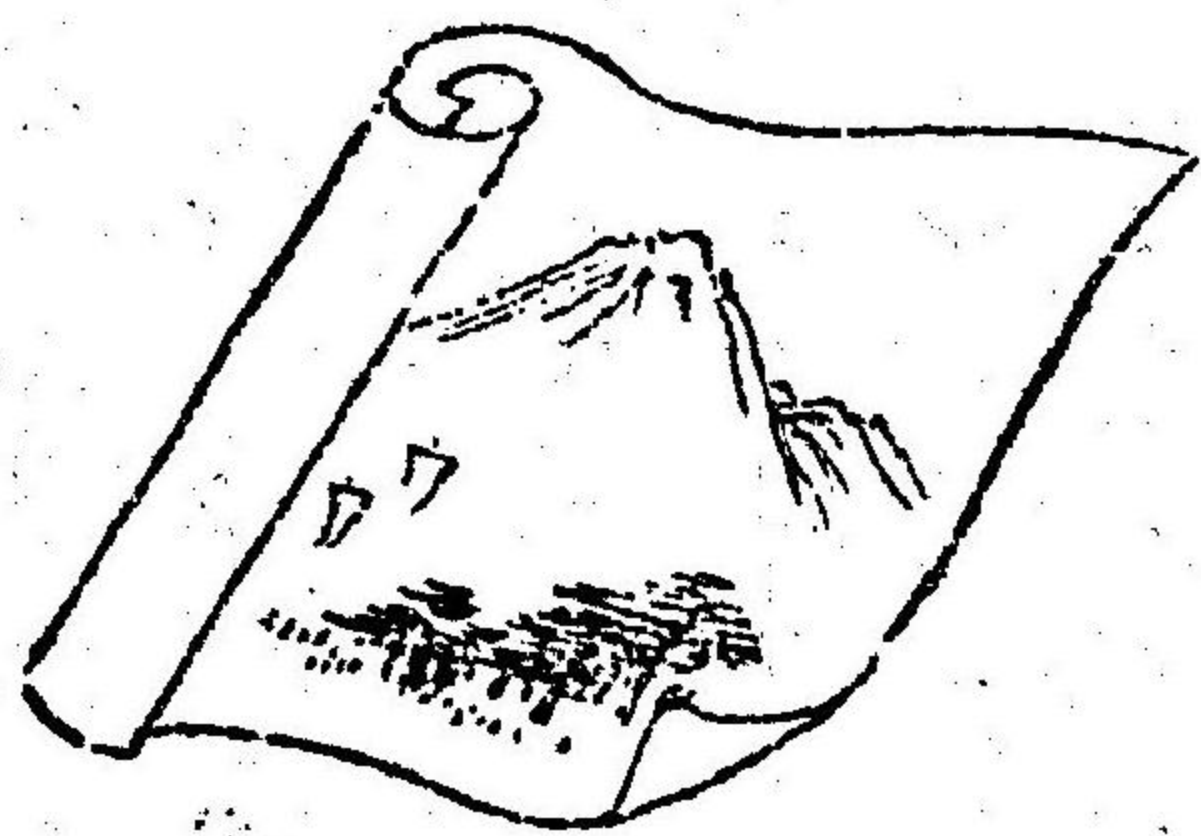
○ 第一 水上ヲ一面ニ燃ス法

マスト水面ハ忽チ火焰ト相成リマシテ宛モ水上ノ大火事
ト云フ鹽梅デムリマス何ント諸君奇々妙々ノ事デハアリ
マセソカ(ヒヤ)加之ナラズ金魚ハ已等ノ住居ノ今ヤ大
火焰ト相成リマシタルコトヲ少シモ感セスカノ如ク矢張
リ悠々閑々トシテ戯レテ居ル有様ハ誠ニ一段ノ見榮ガ致
シマセウ(オイニス)
(理由)前キニ御約束ヲ致シマシタ通り私ハ理化ノ奥妙ナル
學理ヲ手妻的ニ説明シテ諸君ニ聊カ理化應用ノ活潑ナル
有様ヲ知ラセント欲シ升精神デムリマスニ由リ今此ノ奇
妙ナル水上ノ大火事チ一本ノ摺附本モナクシテ引キ起シ
マシタル理由ヲ説明致シマセウ一体此ノ右手ニアリシ水
藥ハあるこゝろ樟腦ヲ以テ製造致シマシタル混合液ニ
ムリマスガ御案内ノ通りあるこゝろハ遙ニ水ヨリ輕クア

リマシテ靜カニ水上ニ注クトキハ決シテ水ト混スルノ要
ナキノミナラズ燃ヘ易キモノデムリマス次ギニ樟腦ハ如
何デアルト御尋デムリマセウガ樟腦モ矢張り一種ノ燃燒
物デアリマシテ且ツ水面ニ浮ブモノデムリマス(成程)ソコ
デ此ノ水藥ハ甚ダ燃ヘ易キモノ、ミニテ作レルヲガ分リ
マシタレバ私ハ如何ニシテ此水藥ヲ燃ヤセシヤニ付テ一
言致シマスガ即チ私ガ先キニ左手ニテ投込ミマシタル小
粒ノ藥品ハぼつたしゆむト申ヤシテ此モノ水ト相觸レマ
スルキハ直チニ分解シテ發火スル極メテ危險ナル藥品デ
ムリマスルニヨリ此燃ヘ易キ水藥ヲ入レ同時ニぼつたし
ゆむチ投シマスルキハ忽チ斯様ニ水上一面ノ大火焰ヲ發
スル譯デムリマス(了解々々)

○第二 圖書ヲ白紙ニ隱見セシムル法

爰ニ一枚ノ白紙ヲ持參致シマシタガ何カ種仕掛ガシテアルト諸君ハ御考ヘナサレマセウガ決シテ種仕掛ハアリマセヌ否有ルニモセヨ決シテ諸君ガ看破スル一ガ出マセヌ能々御手許ニ於テ御味吟ヲ願ヒ舛(成程アリマ)然ルニ今私ハ之ヲ火鉢ノ上ニ於テ稍暫ク焙リマス
 下忽チ斯(ナシ)ニ美麗ナル青色ノ山水ガ現ハレ舛(ナシ)焙出ニハ相違御座リマセヌガ通常ノ焙出ト一樣ニ御考ヘナサレマシテハ甚ダ困リマス通常ノ焙出ニハ決シテ斯ル美麗ナルモノハム
 然マセヌノミナラズ今之ヲ口ニ當テ

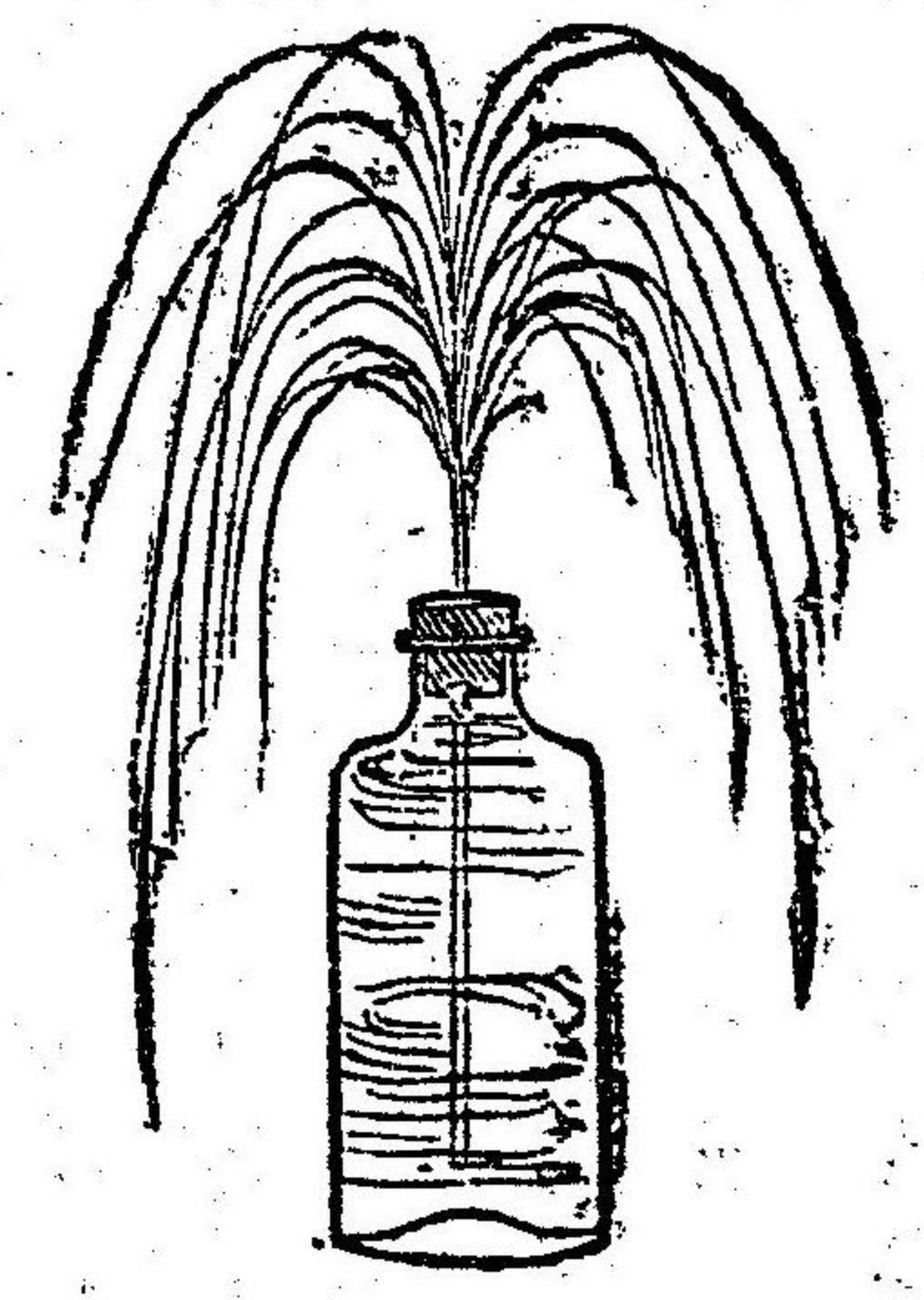


合ヒマシテ斯様ニ呼氣ヲ吹キカケマスルキハ忽チ山水ハ消ヘテ元ノ白紙ト相成リ舛(成程)因テ亦コレヲ火ノ上ニ出シマスト已前ノ如ク再ビ然トシテ山水ノ形ガ現ハレ呼氣ヲカクレバ消ヘ焙レバ顯ハレカケレバ消ヘ焙レバ亦出ルト云フ様ナワケテ幾度モ同シ事デムリマス何ント是デモ諸君ハ通常ノ焙出ト御考ヘナサレマスカ(一)
 (理由)サテ右ノ焙出新法ハ別ニ六ヶ敷理由ガ有ルノデハムリマセヌ唯火氣ニ逢フテ色ヲ發シ水氣ニ逢フテ消失スルト云フ奇態ナル性質ヲ有シタル水藥ヲ以テ白紙ニ畫キタルモノデムリマス此水藥ヲ諸君ニ御傳授致シ舛是レ即チ此花こびると液ト申シマスモノデムリマス

○第三 鑷ヨリ水ヲ噴キ出ダス法 其一

○第二 圖書ヲ白紙ニ隱見セシムル法

大ギモ御覽ニ入レマスルハ燻ヨリ噴水セシムル法デムリ
 マスガ私ハ爰ニ斯様ナル細口ノ硝子罎ト并ニ細キ管ヲこ
 るクニ貫キタルモノト持テ來リマシタガ今私ハ此罎ハ
 水ヲ凡ソ三分一斗リ注キ込ミマシテ喉カリト空氣ノ澳レ
 ス様口ヲ致シマシテ借之ヲ咬ヘ
 精力一杯呼吸氣ヲ吹キ込ミ直チニ
 放スキハ眞此ノ通り水ハ數尺ノ
 高サニ噴騰致シ升暑中ノ慰ニハ
 至極適當好良ノモノカト考ヘマ
 ス(ヒヤ)



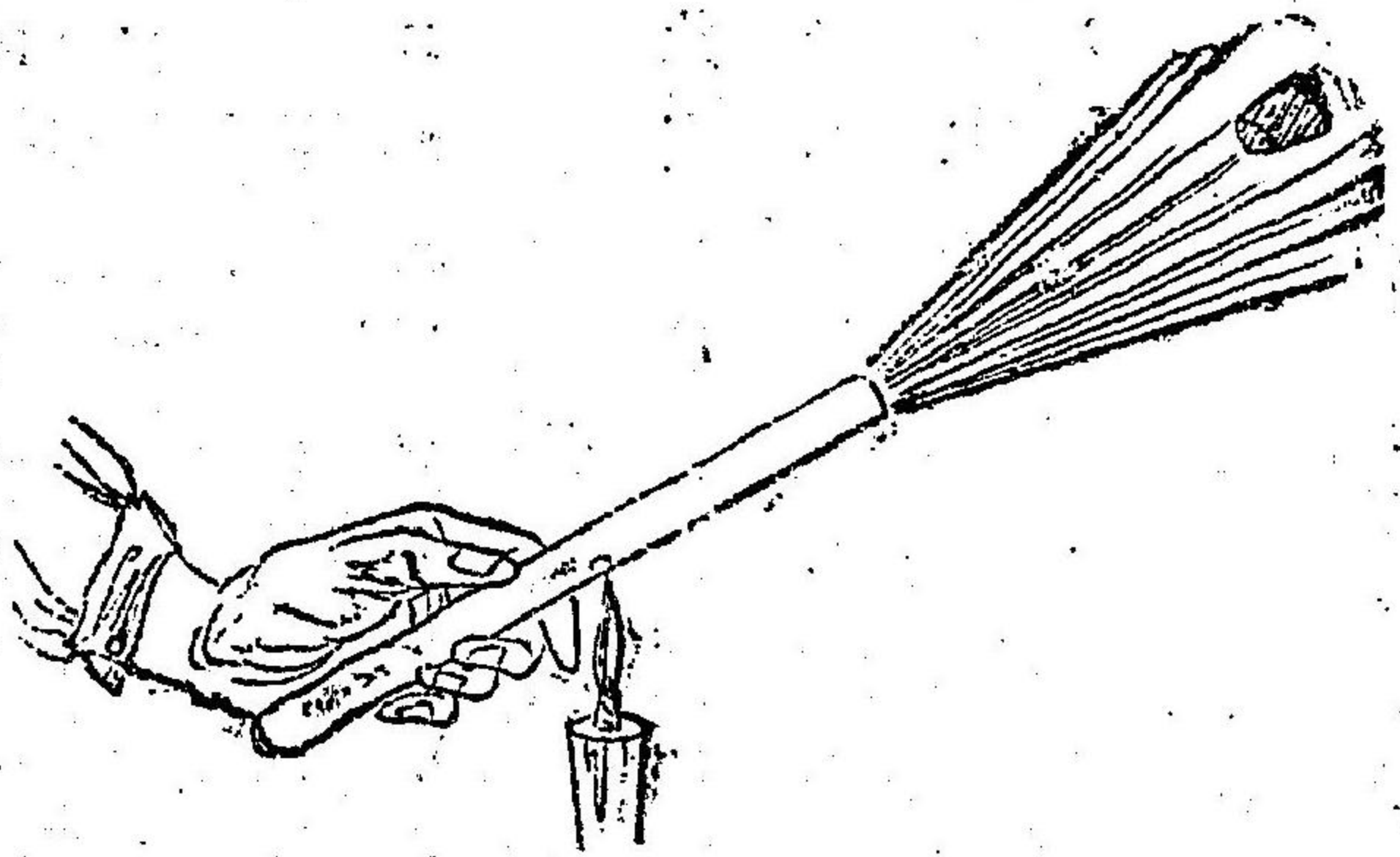
(理由)何故ニ呼吸氣ヲ吹キ込ムキハ罎中ノ水直チニ噴騰スル
 カ外申シマスニ即チ空氣ノ一性質トシテ壓縮セラレマス
 キハ再ビ反撥スル作用ヲ保ツモノデムリマスガ故ニ今管

ヨリ力一杯呼吸氣ヲ吹キ込ミ升キハ罎内ノ空氣ハ非常ニ壓
 縮セラレ升ソコデ直ニ口ヲ去ルキハ忽チ罎内ノ空氣ハ反
 撥シテ已前ノ形ニ復セント致シマシテ其際強ク水面ヲ壓
 シマス壓ヲ受ケタル水ハ反鋤シテ遂ニ管ヲ上リテ噴キ出
 マズ様ニ至ルノデムリマス(了解)故ニ管口ハ小ナレバ小ナ
 ル程空氣ヲ壓スルト強ケレバ強キ程水ハ高ク空中ニ奔出
 スル理屈ヲムリマス

○第四 竹筒ニテ空砲ヲ放ツ法

此度ハ諸君少シク御用心ナサレマシテ豫メ膽玉ノ宿替ヲ
 サセヌ様願ヒ度モノデムリマス即チ私ハ茲ニ竹筒ノ一端
 チこるクニテ閉ザシ他ノ一端ニ節ヲ存シ其側ニ御覽ノ通
 リ小サキ穴ヲ明ケタルモノヲ持テ來リマシテ今私ハ諸君
 ノ目ノ前ニ於テ此竹筒ニ一種ノ氣體ヲツメ込ミマス……

○第四 竹筒ニテ空砲ヲ放ツ法



サテ首尾克氣體ヲツメマシテカラシ
テス様ニころクヲ取リト嵌メ且ツ氣
体ノ逃ゲ去ラヌ様ニ親指ニテ小孔ヲ
押ヘマシテ儲之ヲ燭火ニ近ケマス
ずざん……(拍手喝采)

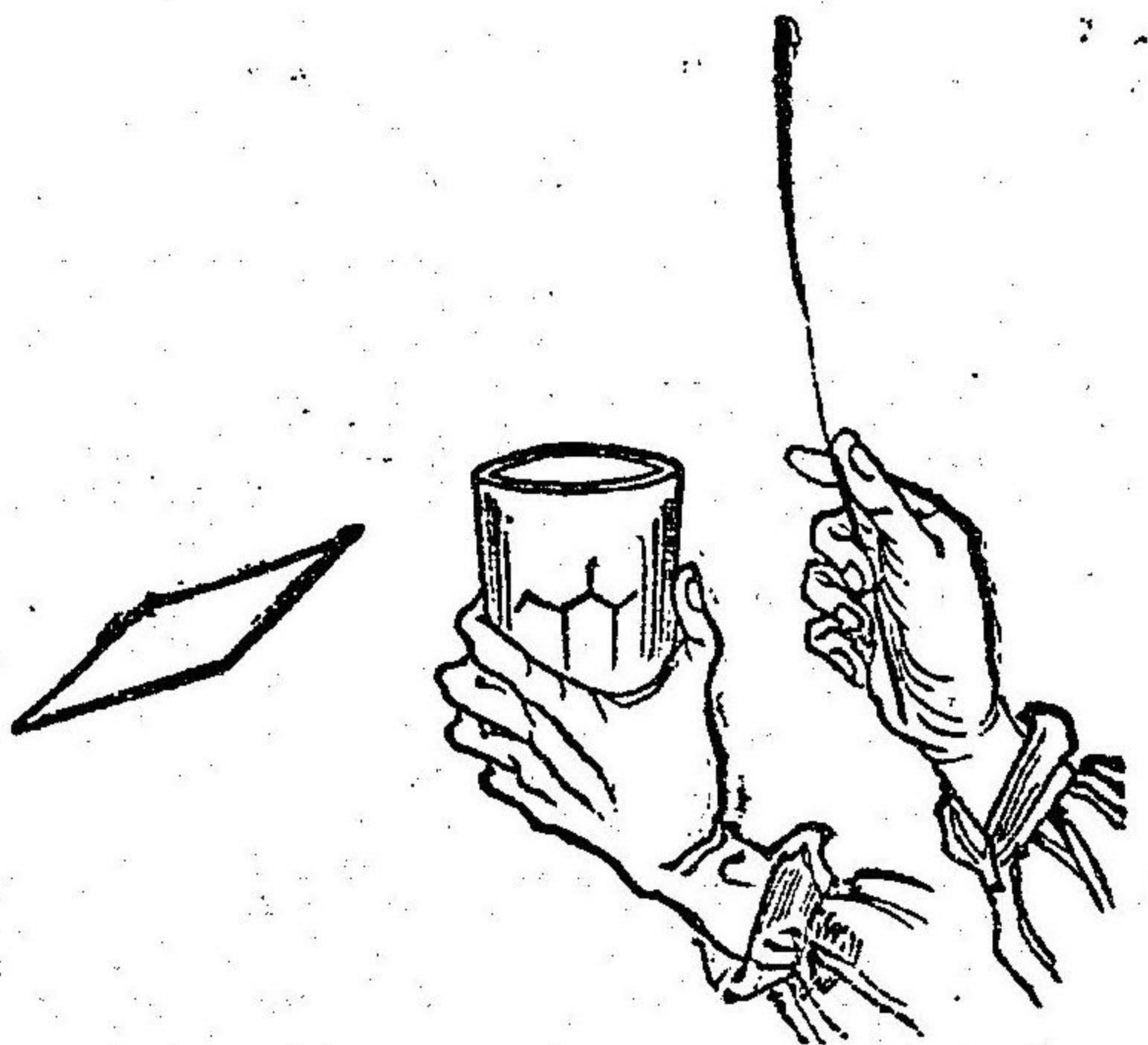
(理由)前例ニ倣ヒマシテ是ヨリ空砲ノ
説明ニ取掛リマスガ此竹筒ニハ別段
理由ノアルベキ筈ハムリマセヌ只之
ニ充タシマシタル氣體コソ燃烈ノ源
因物デムリマス即チ是ハ諸君ノ御案
内アル水素瓦斯デムリマス水素ハ亞鉛
ト稀硫酸ヲ以テ製
出スベキコトハ高等生タル諸君ニ於テハ既ニ御承知ノ筈デ
有リマスルガ一体水素氣ハ空氣ト混在スル時ハ極メテ危

険ナル爆烈性ヲ有スル者デムリマスニ因リ私ハ此理ヲ應
用致シマシテ鐵砲ヲ製シタルマデ、ムリマス(成程)因テ私
ハ此レヲ名ツクルニ水素鐵砲ノ四字ヲ以テセント致シ升
不適當デハ有リマス(贊成ヒヤ)

○第五 投ゲタル錢ヲ手元ニ取戻ス法

一度投ゲタル錢ノ手元ニ戻ルベキ筈ハ決シテムリマセヌ
ガ唯私ハ巧ニ手際ヨク理學ヲ應用致シマシテ諸君ノ眼ヲ
欺マント企テマス儲私ハ爰ニ茶碗ト一枚ノ方形ナル厚紙
ト及ビ一錢銅貨ノ三品ヲ所持致シマスガ今此ノ厚紙ヲ以
テ茶碗ヲ蓋ヒマシテ其上ニ銅貨ヲノセ棒ヲ以テ此ノ紙ト
共ニ叩キ投ゲ舛ヾツ——(ソラ其處へ飛)御覽ノ如ク見事銅貨ハ
紙ト共ニ飛ビ失セマシタガ私ガ戻レ——ノ號令ヲ掛ケマ

○第五 投ゲタル錢ヲ手元ニ取戻ス法

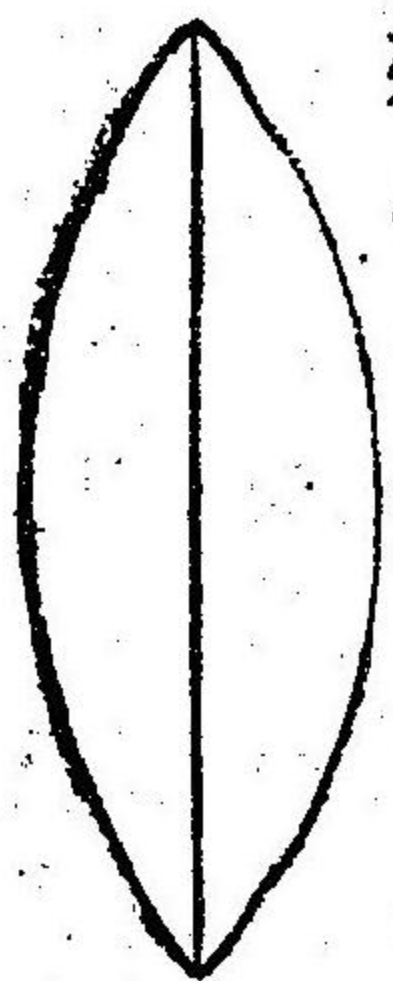
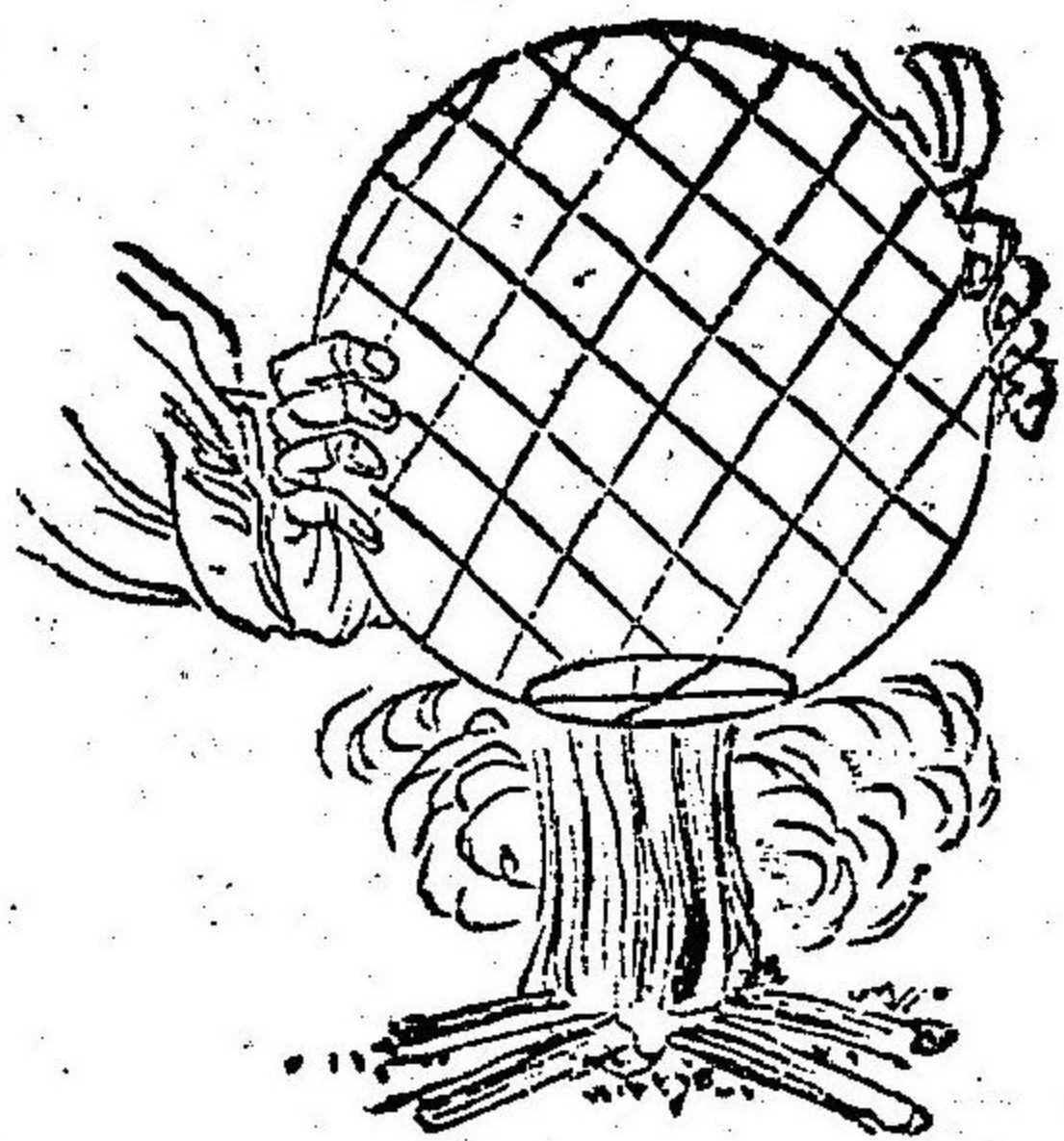


スト忽チ茶碗ノ内ヨリ銅貨ガ飛ビ
 出シマス(大笑)
 (理由)至極不思議ナル様デハムリマ
 スガ銅貨ハ決シテ始メヨリ飛メダ
 ノデハナク全ク茶碗ノ内ニ潜ミ居
 ツタノデムリマシテ紙ノ飛ビタル
 爲メ矢張り飛ビタルカノ如ク見ハ
 マデムリマス何故其様ナル旨イ工
 合ニ往クカト申シマスニ是レ即チ
 兼テ御承知デモムリマセウガ習慣力ト申シマシテ一度運
 動シタルモノハ其運動ヲ續ケントシ静止スルモノハ永久
 静止スル筈ノモノデムリマスガ故ニ紙ハ今叩カレタルガ
 爲メ其方向ニ運動ヲ致サナクテハ成リマセヌガ種メチ急

速ナル場合デムリマスカラシテ其運動ヲ上ナル銅貨ニ傳
 エルヲガ出来ズシテ銅貨ヲハ其儘ニ置キ去リニシタル譯
 アムリマス(トウカ連レテ往ツテ矣レ玉ヘ)ヒヤ〜

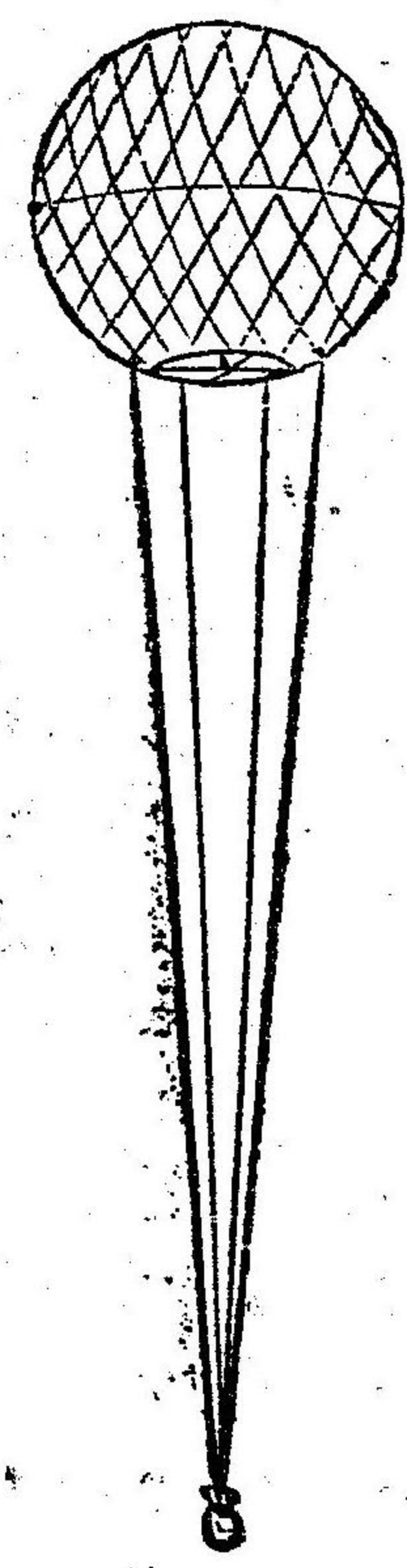
○第六 紙製風船ヲ飛バス法

紙製ノ風船ヲ飛バス何ノ秘術ガアル雜作モナキナリト
 ハ定メテ諸君ノ御考ヘデムリマセ
 ウガ(勿論)中々左様容易ナ譯ニハマ
 イリマセヌ尤モ二三間ヤ四五間位
 ノ高サニ至ラシムルヲ如キハ實
 ニ雜作モナキナリデムリマセウガ遠



○第六 紙製風船ヲ飛バス法

ク空際ニ至リ遂ニ肉眼ニテ視ルヲ出来又程上ヲナクテ
 ハ何ノ慰ニモナリマセヌ(ヒヤ)故ニ私ハ諸君ニ其御傳授ヲ
 致サント考ヘマス先製方ヨリ御話申サソニ第一風船ハ丸
 シ紙ヲ張り合スガ肝要テムリマスガ丸ク張り合スニハ
 斯様ナル形ニ截チテ此ノ兩邊ハ糊ヲツケ張り合シマス
 ハ殆ソト正圓即
 チ茲ニムリマス
 ガ如キ風船ヲ作
 ルヲ出来マス
 其丸形ノ囊出来上リマシタレバ其一方ヲ斯様ニ切り抜キ
 マシテ細キ針金ニテ十文字ヲ拵ヘ之ヲ張り付ケマス次ギ
 ニ此底ヨリ斯様ニ長キ細糸ヲ以テ四方引ヲ作り此ノ先
 小石ヲツケマス(何ノ)斯様ニ致シマセスト空中ニ於テ風ノ



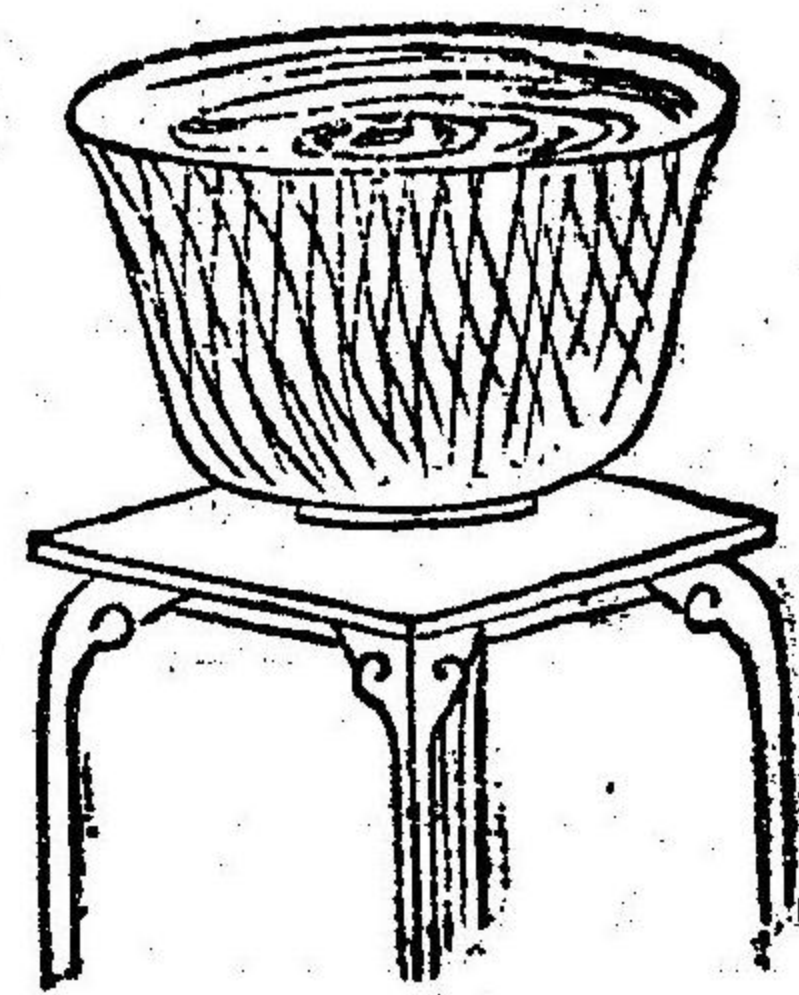
爲ノぐる風船ガ回ハリ燒ケ落ツル恐レガムリマス全
 ク此ノ用意出来マシタレバ傍ヘニ樹木ナキ廣ヤカナル庭
 ニテ薪ヲ焚キ火ヲ熾ニ致シマシテ其上ヘ風船ヲ當テ合ヒ
 マスル片ハ充分ニ空氣膨脹シテ風船ハ斯様ニ正圓ニふく
 れマス其處テ兼テ用意シテアル石油ヲ含マシタル布切ヲ
 十文字ノ處ニ結び點火イタシ手ヨリ放チマスル片ハ多少
 ノ風ニ恐レズ飄々翻々トシテ登リ遂ニハ高ク空間ニ入り
 テ見ヘヌ様ニナリマス(了解々々)
 (理由)風船ノ製作法并ニ放チ上グル法ヲ御話致シマシタル
 ガ是ニハ別段深キ理由ノアル譯デハムリマセヌ只焚火ニ
 テ焙ルト云フ事ガ一ノ大切ナル一デムリマシテ是ハ空氣
 ニ熱氣ヲ與ヘ充分ニ輕ク且ツ膨脹サセン爲デムリマス若
 シ是ヲ爲サヌニオキマシテハ決シテ高クハ昇リマセヌ次

ギニ石油ヲ濕シタル布片デムリマスガ世ニハ往々あるこ
 ーるヲ用ユル人ガムリマスケレト石油ヲ遙ニ上等ト考ヘ
 マス其故ハあるこト申スモノハ非常ニ強キ熱力ヲ持
 チテ居リマスケレト炎ノ見ハ難キト少シモ瓦斯ヲ吐
 キテトノ不都合ガムリマスガ石炭油ハ極メテ澤山ノ油煙
 チ吐キ出シマシテ此ノ油煙ハ余程風船ノ上リ方ヲ助ケマ
 ス且ツ炎色ノ赤ク見ユルカラシテ危険ノ一モムリマセヌ
 (謹啓)

○第七 錢或ハ針ヲ水面ニ浮バヌ法

錢ヲ水上ニ浮バヌノ法ハ決シテ今日ノ新法ニアラズ日本
 在來ノ古メカシキ手妻ナリト諸君ハ御考ヘナサルハカハ
 知ラザルモ理學ヲ應用シタル者デアレバ一言御話ヲ致シ

升サテ私ハ爰ニ青錢一文ヲ持テ居リ升ガ此并ノ中ニ水ヲ
 波々ト滿タシマシテ靜カニ此錢ヲ入レ升ト斯ク如ク波々
 水片ノ水上ニ浮ブガ如ク決シテ沈ムトガアリマセン(御手妻)水
 キニ針ヲ以テ試ミマスモ矢張り右同斷デムリマス錢ハ水
 ヨリ重キモノナルニ斯ク易々ト浮ビ更
 ニ沈ムトナキハ是亦奇妙ト云フノ外ハ
 アリマセヌ(ヒヤ)

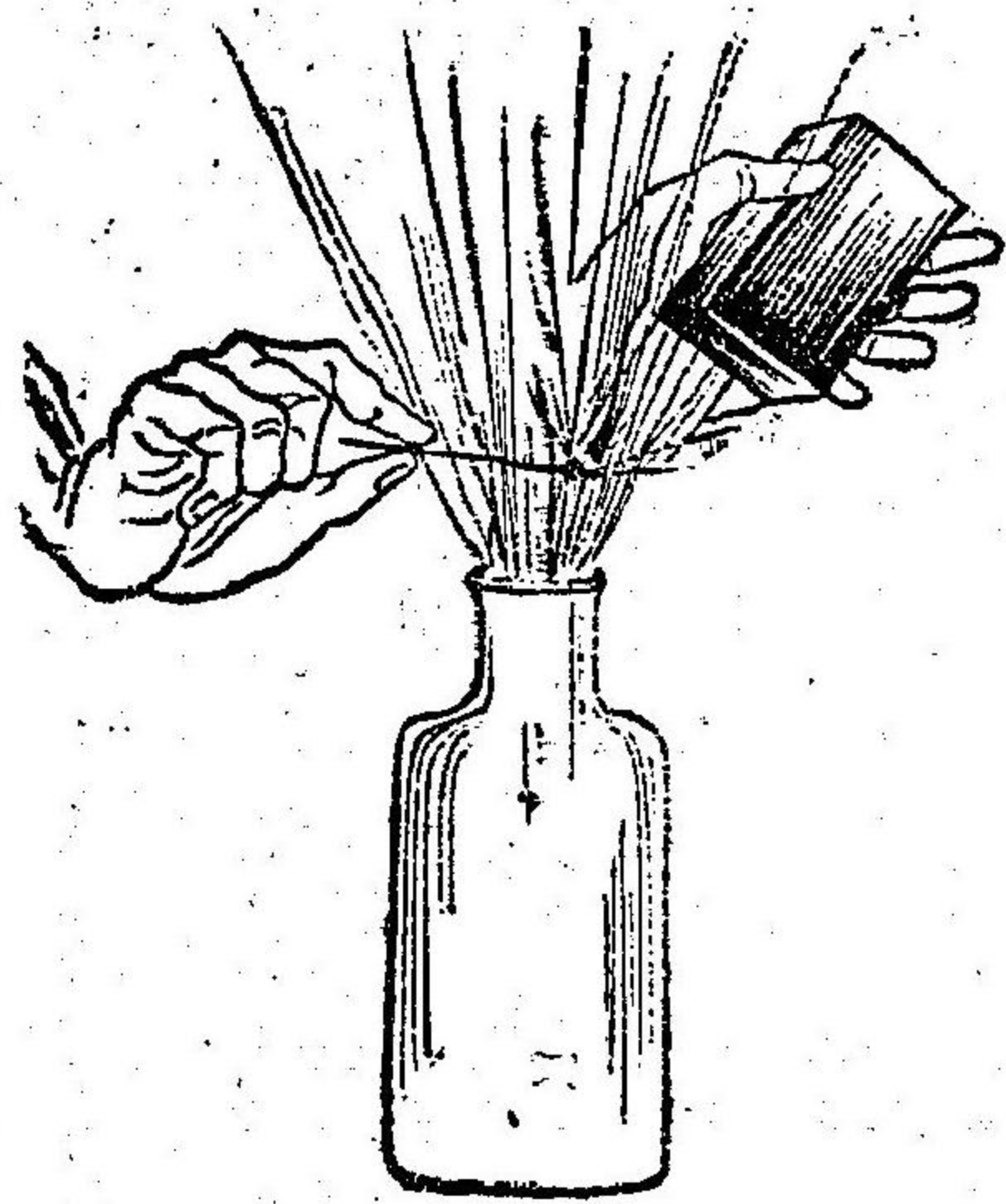


(理由)今此理由ヲ説明致シ升前ニ錢ヲ諸
 君ノ御回覽ニ供シマスガ此錢ハ御覽ノ
 如ク一面ヲ甚タ平滑ニ磨ギスマシテ有リマスガ是レ錢ノ
 目方ヲシテ成丈少クセン爲ニテハナク油ヲ能ク塗りツケ
 ノガ爲デムリマス(成程)油ハ御案内ノ如ク水ヲ反撥セル性
 質ヲ有スル者デアリマスカラシテ錢ハ決シテ沈ムト出

來マセヌ針ト雖モ矢張り其理由ニハカハリマセヌ日本流ノ古手妻中ニモ往々學理ニ適フタルモノモ無キニシモ非ステムリマセウ

○第八 空壇カラ砲聲ヲ放ツ法

第三回奇術ノ試験ニ置キマシテ私ハ豫メ諸君ニ膽玉ノ引



越チサセヌ様ニト御注意ヲ願ヒマシタガ故ニ左程驚カレタル御方モムリマセンデシタガ今一回ト云フ今回ハ中々水素鐵砲位ハ一デハムリマセヌ私ガ爆鳴トシテ諸君ニ御覽ニ入レ升モノ、内凡ソ是程強烈ナルモノトチハムリ

マセヌ去レバ後テ耳ガ聞ヘヌ様ニナツタ杯ノ苦情ナキ様願ヒ度フデムリマス却説私ガ爰ニ諸君ノ御覽ニ入レマスルハ只是レ透明ノ一瓶ニ過ギマセヌガ今ヤ摺附木ノ火ヲ移シマスレバ轟然タル一發鼓膜ヲ震シノ心地ガ致シ升ソレヤせん……………(拍手喝采)(イヤ大變)

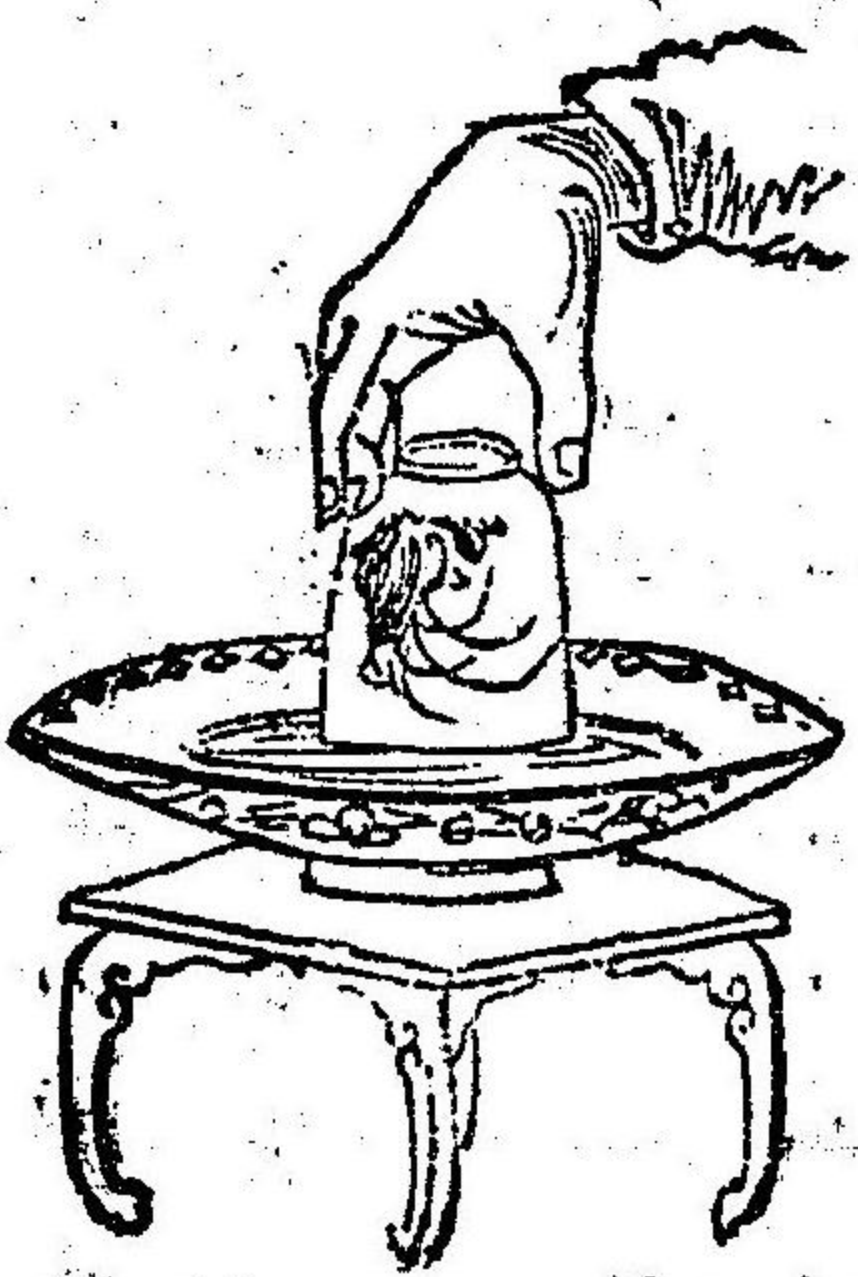
(理由)例ニヨリ私ハ此奇妙ナル空壇ノ理由ヲ諸君ニ説明スルノ勞ヲ惜ミマセヌ透明無色何モ種仕掛ノナキカノ如ク見ユル此壇モ決シテ種仕掛ノナカロウ筈ハムリマセヌ只肉眼ニテ見ルヲ得ベカラザルノミデムリマス(ヒヤク)蓋シ此壇中ニハ無色ノ二瓦斯ヲ混合シテ充タシタルモノデムリマス其瓦斯トハ何ゾヤ即チ一ハ水素トテ既ニ諸君ノ御覽ニ達シタルモノト今一ハ酸素ト申シマシテ鹽酸加里ヲ以テ製出シタル瓦斯デムリマス此兩素ヲ水ニ酸一、割合

○第八 空壇カラ砲聲ヲ放ノ法

多以テ混合致シマスルハ無双強烈ノ爆鳴氣ト相成リマ
ス下ハ今茲ニ諸君ノ目撃セラレタル通りデムリマス(圖説)

○第九 皿ノ水ヲ空ナスノ法

次キニ御目ニ掛ケマヌルハ日本在來ノ手妻デムリマスル
ガ聊カ學理ニ叶ヒマシタル點モムリマスレバ御採用ニ相
成ル下トナリマシタ(大笑)惜茲ニ
持チ出シマシタルハ平タキ皿ト
并ニ一個ノ茶碗デムリマスガ今
私ハ水ヲ波々ト此皿ハ注ギ込ミ
一喝茶碗ヲ以テ蓋ヒマヌルハ
水ハ一滴ヲモ殘サズ此茶碗ハ吸
ヒ込マレマスル事先此ノ通りデムリマス



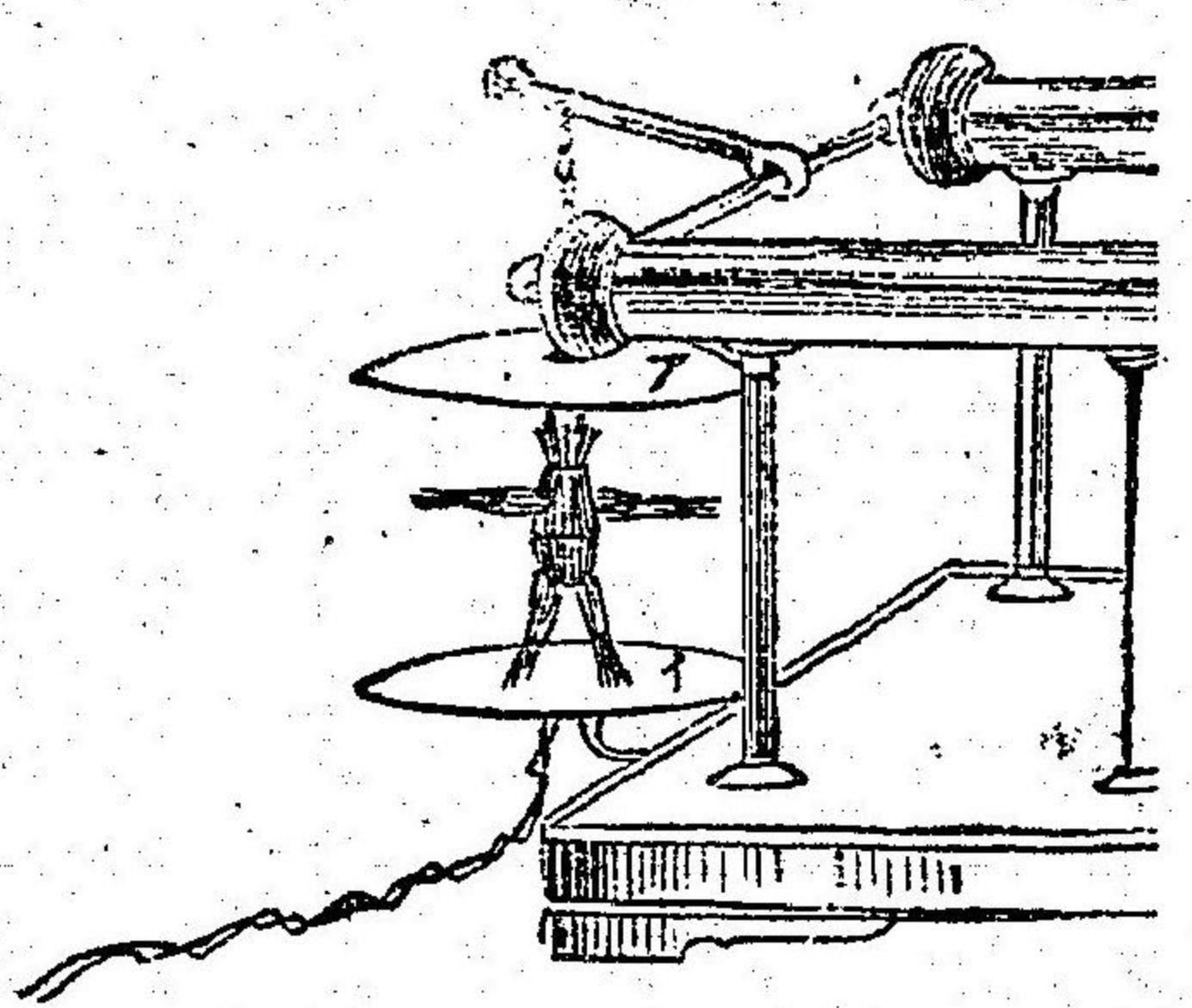
(理由)最初私ガ茶碗ノ中ニテ何ヤラ怪シキモノヲ燃シマシ
タルガ諸君ハ定メテ一種水ヲ吸ヒ込ムベキ性質ヲ有スル
處ノ藥品ナラント考ヘラレタデムリマセウガ決シテ左様
ナル藥品ヲ燃シタル譯デナク全クハ紙ノ一片デムリマス
何故紙ヲ燃スルハ茶碗ガ水ヲ吸ヒ込ムカト御尋モムリマ
セウガ茶碗ノ中ニテ紙ヲ燃シマヌルハ御案内ノ如ク熱
ノ爲メ茶碗内ノ空氣ハ膨脹致シマヌルガ故ニ忽チ皆外ハ
逃ケ往カント致シ舛其時隙サズ水中ハ倒立致シマヌルハ
外部ノ空氣水面ヲ壓シ水ハ爲ニ茶碗内ノ真空ハ入り込
ム譯デムリマス(成程)

○第十 藁人形ヲ躍ラスノ法

諸君ヨ諸君ハ藁人形ノ無生活物ニシテ無生活物ノ自在ニ

○第九 皿ノ水ヲ空ナスノ法

躍り廻ハル心キ管ノナキトハ勿論御案内ノデムリマセ
 ウガ私ハ今爰ニ斯様ナル小サキ薬人形ヲ持チ出シテ之ヲ
 (ア) (イ) ナルニ枚ノ金属板ノ間ニ置キ静ニ此發電機ノ把手ヲ



回轉致シマスルト忽チ生キタルモノ
 、如ク上下ニ躍リマスルヲ此ノ通り
 デムリマス生活チ有セザルモノト申
 シマシテモ手段ニ由リテハ猶生活物
 ノ如ク運動サセルヲガ出来マス(ヒヤ
 ー)

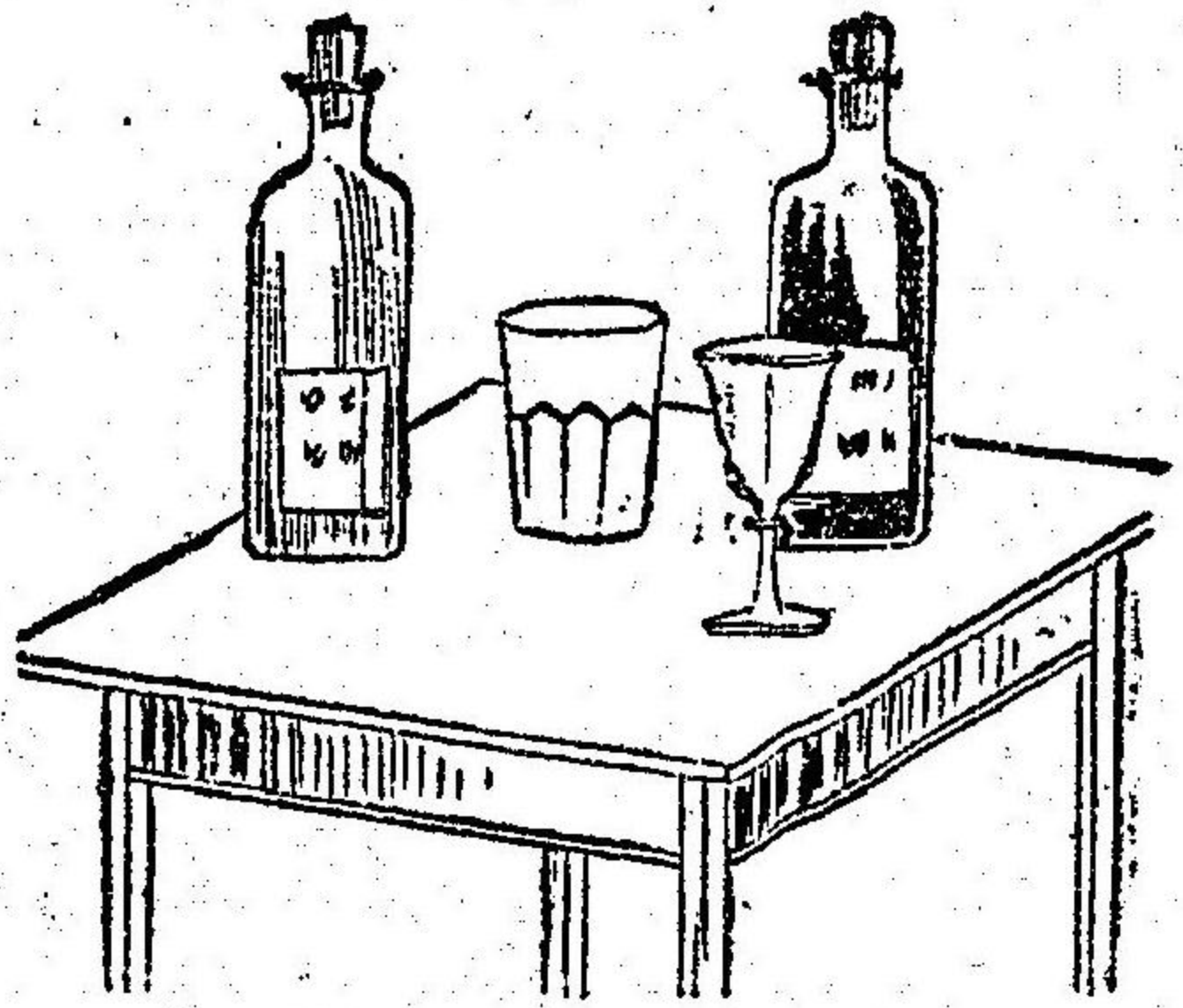
(理由) 諸君ハ高等小學ニ日々通學セラ
 レ理學モ御研究ノ事デムリ升ガ(勿論)
 是ハ即チ摩擦電氣ヲ利用シタルマデ、ムリマス先ツ最
 初此把手ヲ回轉致シマスレバ忽チ電氣ハ(ア)板ニ集リマシ

テ下ナル薬人形ヲ引キツケ升其處デ薬人形ハ飛ビ上リテ
 (ア) 板ニ頭サツツ、ケ升ト電氣ハ人形ノ全体ニ傳ハリ升一
 体異種ノ電氣ハ相吸引シ同種ハ互ニ反撥スルト申シ升
 ハ電氣ノ性質デムリマスガ(然レバ)故ニ(ア)板ノ電氣ト人形ト
 ハ同種ノ電氣ヲ有スルカラ致シマシテ忽チニ人形ハ反撥
 セラレテ(イ)板ノ上ニ飛ビ下リマス其處デ(イ)板ハ直チニ人
 形ノ電氣ヲ受取りマシテ鎖ヨリ地下ハ逃ガシマス去レバ
 人形ハ電氣ヲ失ヒ元ノ空阿彌トナリマスカラ(ア)板ハ再ビ
 之ヲ引キツケマス引キ付ケラレテ電氣ヲ受ケマスヤ否ヤ
 亦ハぢかれマス斯様ナル理由ニテ一上一下人形ハ宛ガラ
 生キタル如ク跳躍致シマシテ電氣ノ流通スル限リハ止ム
 一ガ有リマセヌ(了解々々)

○第十一 茶ヲ黑色ニ變ジ再ビ元へ返ス法

次ギニ御覽ニ入レマスルハ茶ノ變色并セテ其元ニ返スノ奇術デムリマス儲私ハ此水呑ノ内へ極メテ濃キ茶ヲ凡ソ半分斗リ注ギ込ミ同時ニ斯様ナル一種淡青色ノ土塊ヲ熱湯ニテ溶解致シ此ヲ茶ノ内ニ雜セ加ヘマスルキハ先此ノ通り黑色ノ液ト變シマス(ヒヤ)

因テ更ニ無色ノ水藥ヲ此黑色ノ液ニ注ギコミマスルキハ忽チ今マデ見ヘシ黑色ハ何處ヘカ消散シ盡キマシテ再ビ茶ノ黄ナル本色ニ立テ返リマシタ向ント奇妙デハムリマ



セヌカ(感服々々)

(理由)サテ先ツ第一ニ茶ヲ黑色ニ變セシメタル原因物ハ何カト申シマスニ此ハ綠礬俗ニ青明礬ト稱スル處ノ藥品デムリマスガ此青明礬ハ其内ニ多量ノ鐵分ヲ含有致シマシテ此鐵分ハ何デモ滋味アル物ト混合致シマスルキハ忽チ黑色ニ變ズル性質ヲ有スルモノデムリマス其處デ濃キ茶ハ御案内ノ如ク滋味ヲ有スルモノデムリマス柄シテ此綠礬液ヲ注ギ入レマスルキハ必ズ黑色ニ變シマス次ギニ無色ノ水藥ヲ投シテ元色ニ復セシメマシタルガ此水藥コソ度々御聞ニ達シマスル硫酸デムリマス一體硫酸ハ極メテ劇烈ナル分解力ト酸化力トヲ有スルモノデムリマスガ故ニ一時黑色ニ變シタル茶モ此ノ強劇ナル藥品ニ分解セラレテ再ビ其本色ヲ呈スル譯デムリマス御了解ニ成リマシ

○第十一 茶ヲ黑色ニ變ジ再ビ元へ返ス法

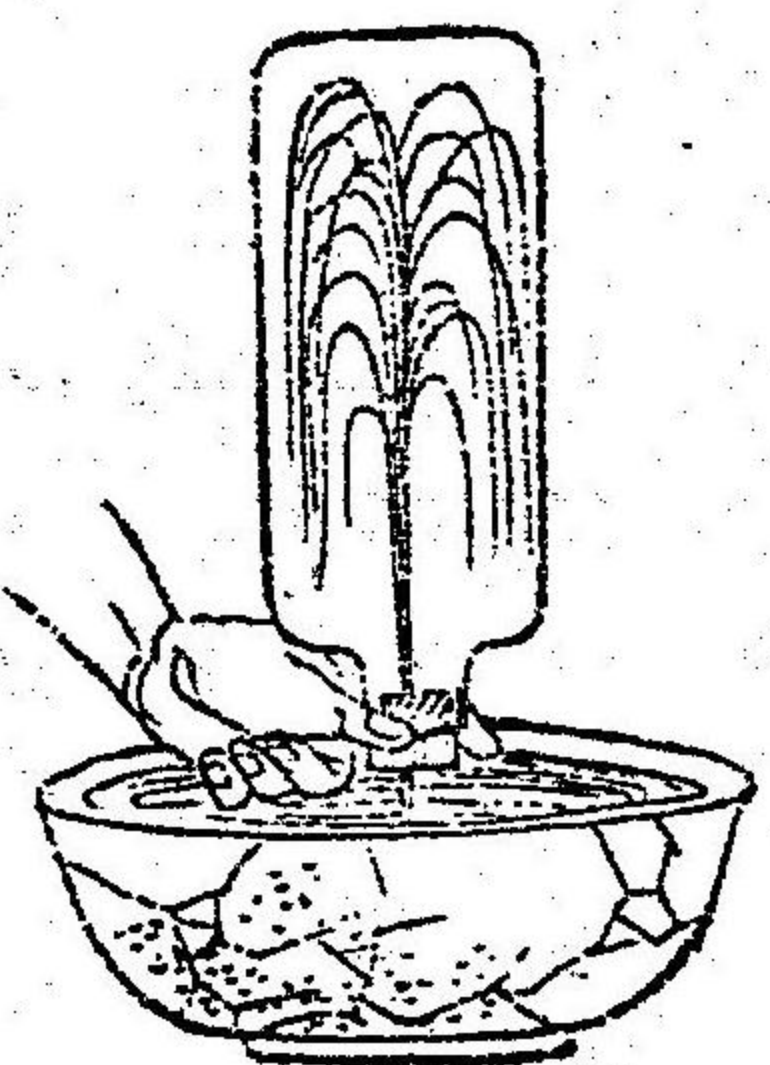
○第十二 噴水ノ二新法 其二

私ハ前ニ一回噴水ノ御話ヲ致シマシタルガ彼ハほんノ小
供マシデ極メテ積ラヌ法デムリマスルガ理化思想ノ余



程進歩シテ來マシタル諸君ニハ右
ノ如キ噴水法ハ既ニ面白ガムリ
マセス因テ私ノ今御覽ニ入レント
スルハ極メテ目ヲ驚カス噴水ノ二
新法デムリマスル(ヒヤ)先ツ第
一法ハ斯様ナル勉メテ丈夫ナル徳
利ニ七分斗リ水ヲ滿タシ一小管ヲ
以テ貫スキマシタル木栓ニテ取カ

リト閉ザシ儲此ノ通り表へ上リタル薬罐ノ内へ入レマス
ルキハ水ハ直チニ數尺ノ高サニ噴出致シマス何ント諸君
簡便ニシテ而カモ愉快デハムリマセヌカ
猪亦次ギニ持チ出シマシタルハ同シク噴水ノ一法デムリ
マスルガ此度ハ外部へ噴水イタヌノデハナクシテ此ノ罐
内へ此レナル赤色ノ水ガ噴キ出ツル仕掛ケデムリマス殊
ニ奇態ナル此ノ赤色ノ水ガ噴キ出ツル
ト同時ニ青色ニ變化スルト云フ事デム
リマスそらく青ク成ツタ何ント
諸君是ク奇妙ノ第一ト云ハザルヲ得ナ
イデムリマセウ(拍手喝采)
(理由)斯ル珍奇ノ噴水法モ能ク學理ヲ考へ來リマスレバ決
シテ不思議ト云フノ價値ハムリマセヌ即チ第一法ノ噴水

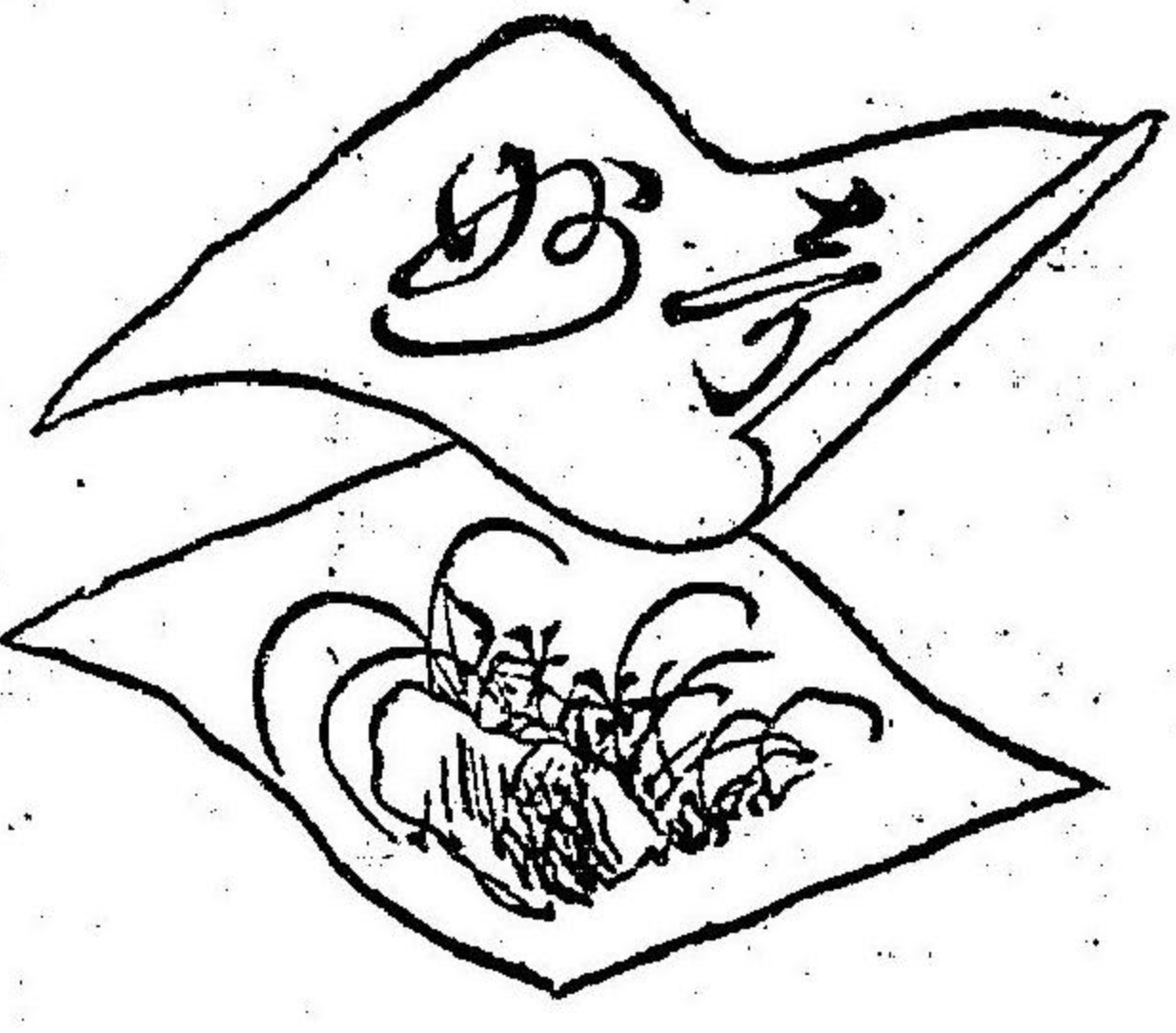


ハ全ク熱ノ作用ヲ應用シタルモノニ過キマゼン德利内ノ
 水ハ藥罐内ノ熱湯ノ爲メ忽チ非常ニ膨脹イタシ將ニ德利
 チモ碎カントスル勢ト相成リマスルヒ一方ノ管ヨリ逃ケ
 道ノアルチ知リマシテ我先ニト噴キ出ツル譯デ御坐リマ
 ス(成程旨)次ニ空瓶ノ如ク見ヘマスルガ決シテ空瓶デハムリ
 マセヌ此内ニハ安母尼亞ト申シマシテ無色ナル瓦斯ヲ滿
 タシテムリマスル一體此ノ瓦斯ハ非常ニ水ニ溶解スル性
 質ヲ有スルモノデ一容ノ水ハ七百倍ノ安母尼亞ヲ吸收ス
 ル割合デアリマス故ニ安母尼亞ノ水ニフレルヤ忽チ吸收
 セラレテ其處ニ必ズ真空チ生シマス柄シテ水ハ氣壓ノ爲
 ニ其真空チ目掛ケテ噴出致シマス而シテ赤色ノ水ガ何故
 青色ト變シタルカト申シマスニ全ク此氣ノ亞爾加里ト云
 フ性質ヲ有スルカラデムリマス尙此事ニツキテ面白キ試

驗モムリマズレバ後回ニ於テ説明致ス精神デムリマス安
 母尼亞ハ如何シテ製出スルヤト申シマスニ是ハ礮砂ト申
 シマシテ氷砂糖ノ如キ藥品ト生石灰ト同量ヲ熱シテ得ル
 モノデムリマス(謹聽々々)

○第十三 焙出シノ新法

爰ニ持チ出シマシタルハ二枚ノ半紙デ
 ムリマス今私ハ是等ヲ火上ニ焙リ何カ
 珍ラシキヲ御覽ニ入レマス尤モ是ハ
 世間ニアリフレタル醬油ナドニテ書キ
 タルモノデムリマセヌ御案内ノ如ク醬
 油ノ焙リ出シハ始メヨリ薄ク文字ノ形
 ガ見ヘマズルガ是ハ決シテ左様ナルヲ



ハムリマセヌ(成程)而シテ見ハレマスル文字モ墨ヲ欺ク黒色デムリマス(ヒヤク)

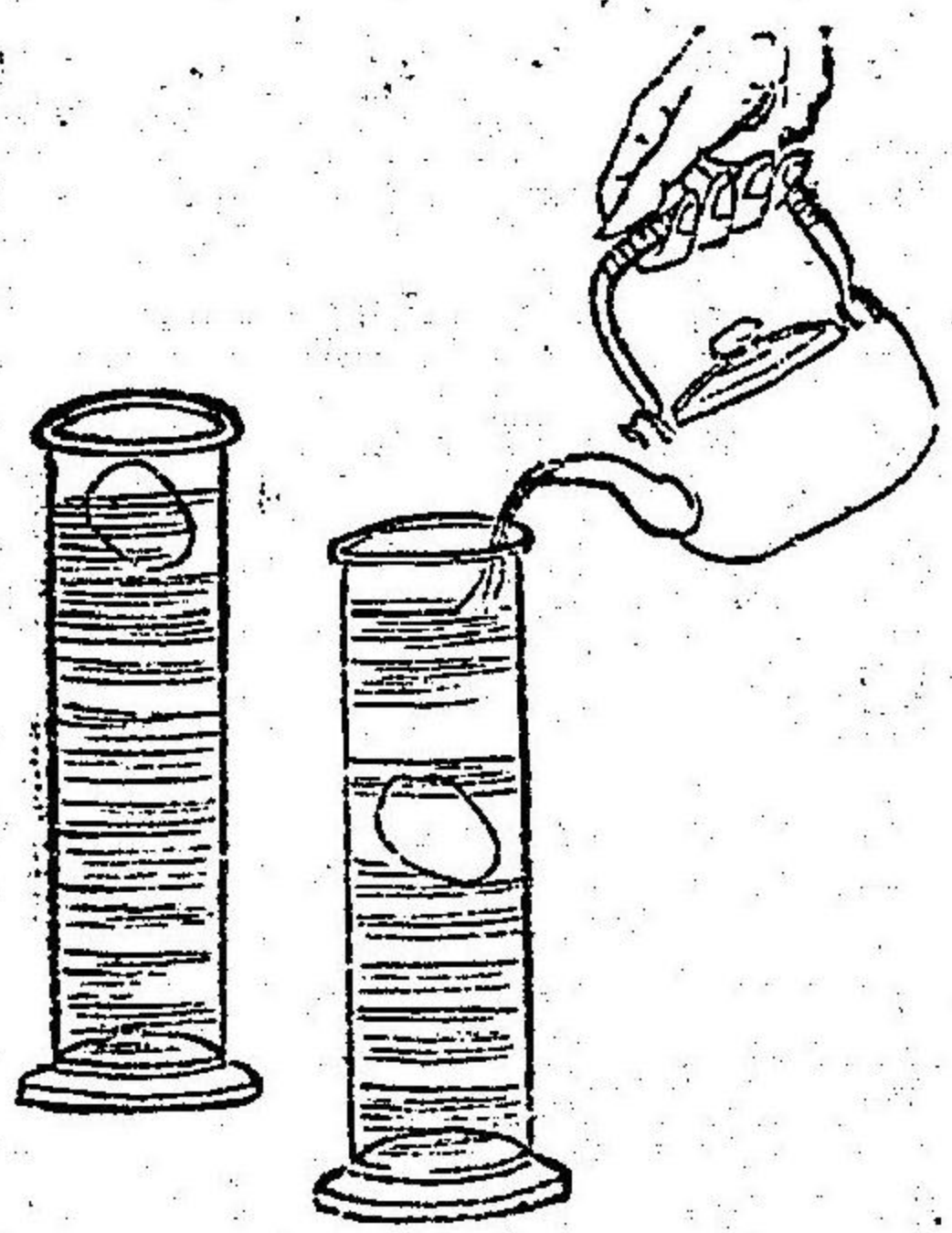
又此ノ一枚ハ黒ニアラズ青ニアラズ鮮麗ナル黄色デムリマス(成程是モ妙ダ)

(理由)サテ此ノ新法焙出ノ藥品ハ何カト申シマスニ一ハ稀硫酸デアリマシテ今一ハ稀硝酸ヲムリマス硫酸ト申シマスモノハ有機質ニ觸レマスルハ忽チ黒色ニ焼ク性質ヲ有スルモノデムリマスカラ極メテ薄キ硫酸ヲ以テ紙面ニ文字ヲ書キ注意シテ乾カシマスルハ決シテ文字ノ跡ヲ止メマセヌガ少シク焙リマスルハ此ノ如ク黒色ニ見ハレ出ルモノデムリマス又硝酸ハ凡テ有機質ニフレルハ忽チ黄色ニ酸化サセル性質ヲ有スルモノデ有リマスカラ此ノ如ク黄色ノ文字ヲ見ハス譯デムリマス勿論此ノ二

ツノ焙出ハ拵ヘテ久シク貯ヘオク都合ニハ參リマセヌ久シキチ經マズルハ其間ニ文字ガ自然ニ顯ハレテ仕舞マス(謹聽々々)(サシク)

○第十四 玉子ヲ水ニ浮バヌ法

玉子ノ水ヨリ重キヲハ諸君ノ御案内ノヲデムリマスガ其重キ玉子ヲシテ易々ト水ニ浮バヌル奇術ガムリマスル併シ日本手妻ニ欺カレタル諸君デムリマスレバ彼ノ玉子ハ決シテ眞誠ノモノデナク紙製カ乃至ハ殻バカリノモノナラント御疑念ガムマセウニ因テ私ハ親シク諸君ノ御手元へ廻ハシ



○第十四 玉子ヲ水ニ浮バヌ法

マシテ御調査ヲ仰ギマス……(成程是ハ)
 眞物ニ決シテ相違ムリマセヌ諸私ハ是ナル水ヲ半バ滿シ
 タル細長キ硝子罎ノ中ニ此玉子ヲ投シマスルニ輕々ト宛
 モ木切ガ水上ニ浮ブ如クデムリマス(ヒヤ)尙是レノミ
 ナラズ土瓶ヨリ清水ヲ注ギ足シマスルトキハ玉子ハ次第
 ニ水面ヲ下リ今ヤ丁度罎ノ眞中ニ止マリ浮キモズ沈ミ
 モヤラズ案思半ノ体デムリマス(大笑)
 (理由)諸御約束ノ如ク此理ヲ御話致シマスルガ夫レニ先チ
 テ誰ニテモ此罎内ノ水ヲ嘗メ試ミテ見玉ヘ決シテ尋常ノ
 水デハムリマセヌ(ア鹽ッパイ)左様勿論鹽ヲ混合シテムリマス
 一体鹽ハ水ノ重サヲ増加サスル者デムリマスガ物体ノ浮
 プハ其水ト同容ノ量ガ水ヨリ輕キ時ハ浮ビマシテ重キ時
 ハ沈ミ重クモナク輕クモナク丁度相同シキ時ニハ其水ノ

眞中ニ止マルト申シマス。ハ理學ノ定則デムリマスガ此
 奇術ハ實ニ其理ヲ應用シテ極上製ノ食鹽ヲ充分水ニ溶解
 シ置キテ通常ノ水ノ如クシ以テ諸君ノ眼ヲ眩シタ譯デム
 リマス(成程感服々々)

○第十五 遠方ノ人ト話スルノ法

遠方ノ人ト話スルノ法ト申上マシタルバ諸君ハ必ず近
 頃發明ノ電話機ト云フモノナラント御
 考ヘデムリマセウガ電話機ハ中々而倒
 ナル器械ヲ要シマシテ席上ノ奇術トシ
 テ御覽ニ入レマスルハ出來マセヌ因
 テ私ハ爰ニ極メテ簡便テ錢入ラズニ遠
 方ノ人ト對話スル法ヲ御傳授申シマセ



○第十五 遠方ノ人ト話スルノ法

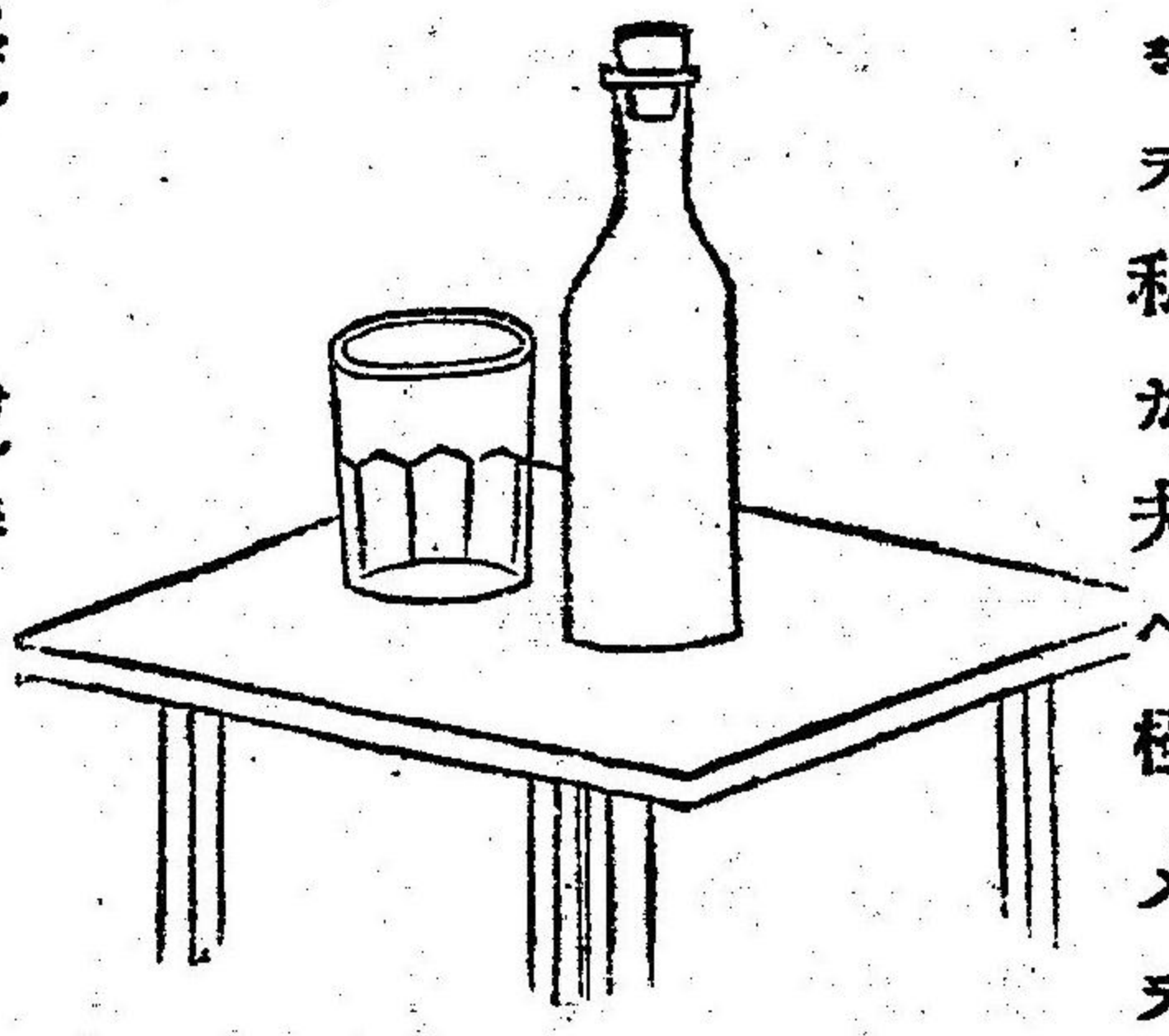
ウ即チ斯様ナル二本ノ竹筒ニ各一方丈紙ヲ張りマシテ真
 中ヨリ十間斗リノ糸ヲツケニツノ竹筒ヲ繋ギ合シタルモ
 ノガムリマス諸君ノ内誰ニテモ一人此竹筒ノ一ヲ持チテ
 糸ニ撓ノナキ様充分ニ遠キ彼方ヘ行キ耳ニ充テ、待ツテ
 居玉ヘ何カ私ガ内証ノ御話ヲ致シマセウ……(君モヤツテ見玉ヘド
 (今度ハ僕
 ガ行カウ)

(理由)諸君如何デムリマシタ何程少サク他人ニハ迎モ聞キ
 取ルノ出来ヌ御話デモ明瞭ニ此ノ雜作
 ナキ器械ニテ話合フガ出来マストハ誠
 ニ不思議ナコデハムリマセヌカ(ヒヤ)〜
 是ノ理ハ全ク電気ノ針金ヲ傳フ如ク話ガ
 糸ヲ傳ハルノデムリマス是ヲ電話器ノ玉
 子ト申シマスモ不適當デハムリマスマイ



○第十六 清水ヲ白色ニ變ズル法

諸此度諸君ノ眼ヲ眩マサント考ヘマスルハ即チ清キ汲立
 ノ水ヲ盛リタル一個ノ水呑ガムリマシテ私ガ夫ハ極メテ
 僅ノ水藥ヲ投シマスルハ忽チ白
 キ雲ノ如キモノヲ生ズルト云フ法
 デムリマスガ歎ヒ深キ諸君ハ必ズ
 此ノ水呑ノ清水ハ決シテ眞ノ清水
 ニ非ズ手ニ取リテ能ク吟味スルキ
 ハ必ズ虚ノ皮ヲ見出ストガ出来ル
 ナラント云ハル、デムリマセウ故
 ニ先ツ御手元ヘ回シマスカラシテ充分ニ御検査ヲ願ヒマ
 ス……(成程コレハ通常ノ水ニ決シテ相違ムリマセヌ去



○第十六 清水ヲ白色ニ變ズル法

レドモ私ハ今斯ノ通り三四滴或ル水薬ヲ投シマヌルキハ
 直チニ水ハ變シテ眞白ト相成リマシタ(イヤコレハ)
 (理由)眞ノ清水ナレバ決シテ斯ル變化チ起スハ出來マセ
 ス清水ト見セカケタルハ其實極メテ微量ノ鹽チ混シテム
 リマス去レドモ舌ノ先デ嘗タ位デハ決シテ見出スガ出
 來マセヌ(一杯クハ)次ギニ投シマシタル水薬ハ硝酸銀ト申シ
 マスモノ、液ニムリマスガ此ノモノハ何程僅カノ鹽分ト
 雖モ忽チ化合シテ斯ル白色ノ雲チ起シマスガ故ニ化學者
 ノ常ニ鹽分ノ有無ヲ試驗致シマスキニハ必ず利用スル所
 ノモノデムリマス(分ツタ)

○第十七 石鹼玉ノ爆烈

爆烈ト申シマス言葉ヲ御聞キナサレマスルト諸君ノ顔色

ガ少シク變ニ青ミガ、リマス(ノー)然シナガラ爆鳴氣
 已來暫ラク爆烈ノ音ヲ聞キマセヌ柄シテ此度私ハ極メテ
 面白味アル且ツ危険ナキ小爆鳴ヲ御目ニカケマス即チ爰
 ニ斯様ナル硝子燻ガムリマシテ是レニ木栓ヲ固ク嵌メル



1ガ出來マス様ニ致シ此ノ金屬
 ノ薄板二三切チ燻ニ入レ水ヲ注
 ギ而シテ後アル水薬二三滴ヲ加
 ハマヌルキハ忽チ燻内ニ沸騰チ
 起シマス因テ直チニ口ヲ閉ザシ
 びむ管ヲ續ギマシテ其一端ヲ兼
 テ拵ヘ置キタル石鹼水ニ浸シマ
 スルキハ燻ヨリ發生致ス所ノ瓦斯ノ勢力デ宛モ玉屋ノ玉
 チ吹キ出ス通り小玉大玉(大笑)續々ト空中ニ上リマス上ル

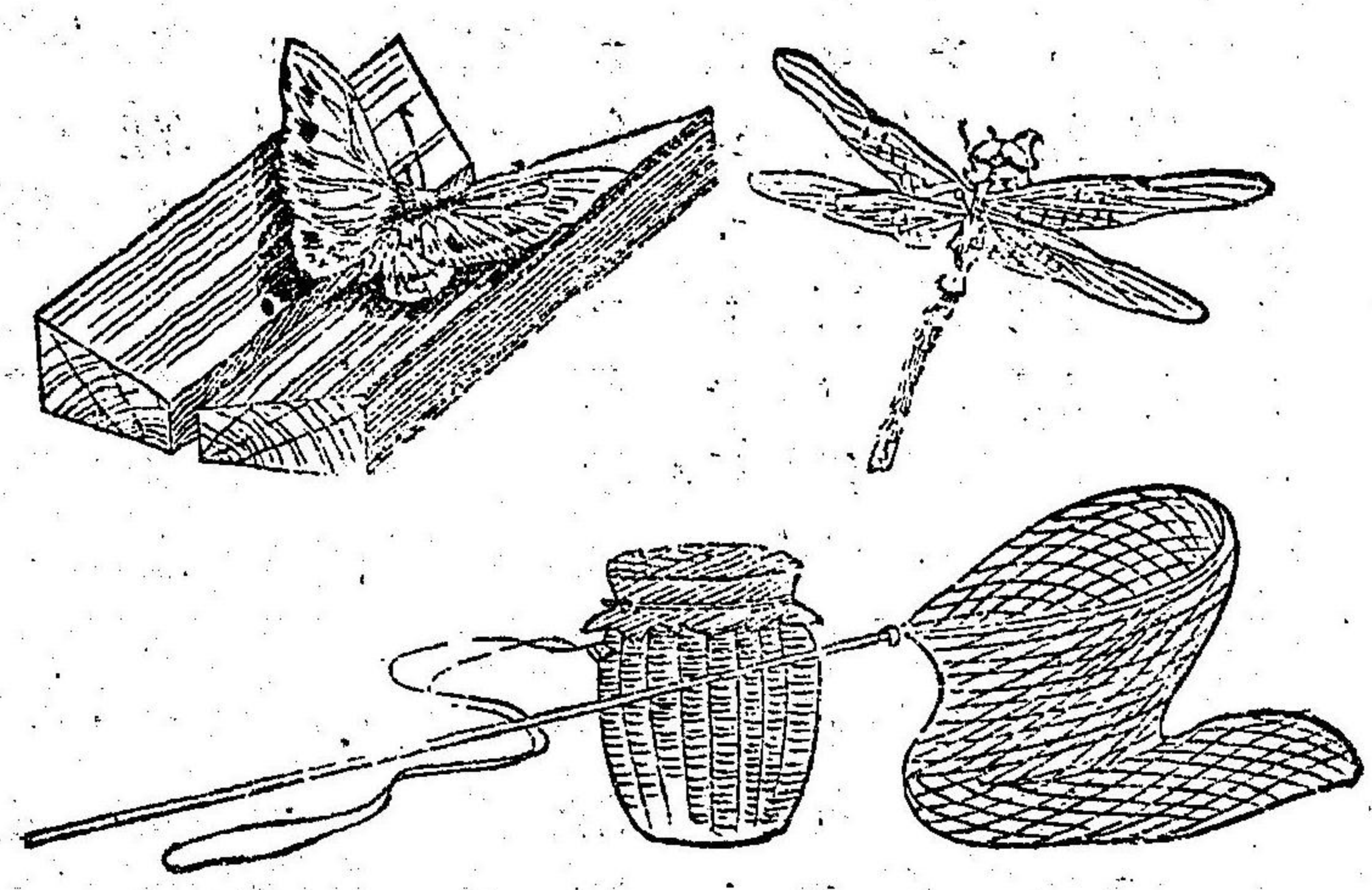
所ノ玉チ一ツ宛蠟燭ニテ送サズ斯様ニ燃ヤシマスルトバ
 ン——ト燃ヘマス(拍手喝采)バン——バン——バン——
 好キナ程熾烈ヲ試ムルヲガ出来マス豈奇々妙々愉快ナル
 一デハアリマセンカ(ヒヤ——)(ツハ愉快ダイ)
 (理由)今此ノ奇術ノ原素タル怪シキ瓦斯ノ何タルヲ御話
 致シマスルガ是レツ先ニ既ニ説明致シマシタル水素瓦斯
 デムリマス薄キ板金ハ即チ亞鉛ヲ注ギ入レタル水薬ハ即
 チ硫酸デムリマス水素瓦斯ハ空氣ト混在スルキハ爆鳴ス
 ルヲ御案内ノ如クデムリマス

○第十八 蝶とんぼヲ何マデモ貯ヘル法

蝶々とんぼや蟋蟀山に囀づるのハ松虫 鈴虫 蠶虫ノ如キハ
 諸君ノ極メテ愛翫セラル、所ノモノデムリ升然シナガラ

彼等ハ各其時節ヲ得テ生活致シ時節ヲ失ツテハ忽チ死シ
 テ終年彼等ヲ坐右ニ置キテ慰ニ供セントスルヲハ逆モ望
 ムヲが出来マスマイ(ル程)故ニ私ハ手妻ノ一法ト致シマシ
 テ諸君ニ彼等ヲ久シク貯ヘ置ク方法ヲ御話申上マセウ此
 ハ畜ニ歡娛ノ爲ノミニ非ズ全ク博物學研究ノ階梯ト存シ
 マス今茲ニ私ガ曾テ採集致シマシタル蝶々とんぼヲ御覽
 ニ入レマシテ惜其順序ヲ御話致シマセウ(美語ハ(生キテ居ル)
 蝶々とんぼノ貯藏法ヲ知ラント致シマスルニ先チマシテ
 是ヲ捕集スル術ヲ一通リ心得置クヲハ肝要カト存シマス
 レハ茲ニ簡單ニ辨シマセウガ第一ノ必要ナル道具ハ袋即
 チ捕集網デムリマス是ハ成丈長ク大ニシテ且ツ輕ク柔カ
 ナルヲ貴ビマス其處デ通常紗或ハ立絹ナドヲ用ヰマスル
 ガ是等ノ布ハ價モ高直デムリマスカラシテ諸君ガ試用セ

○第十八 蝶とんぼヲ何時マデモ貯ヘル法



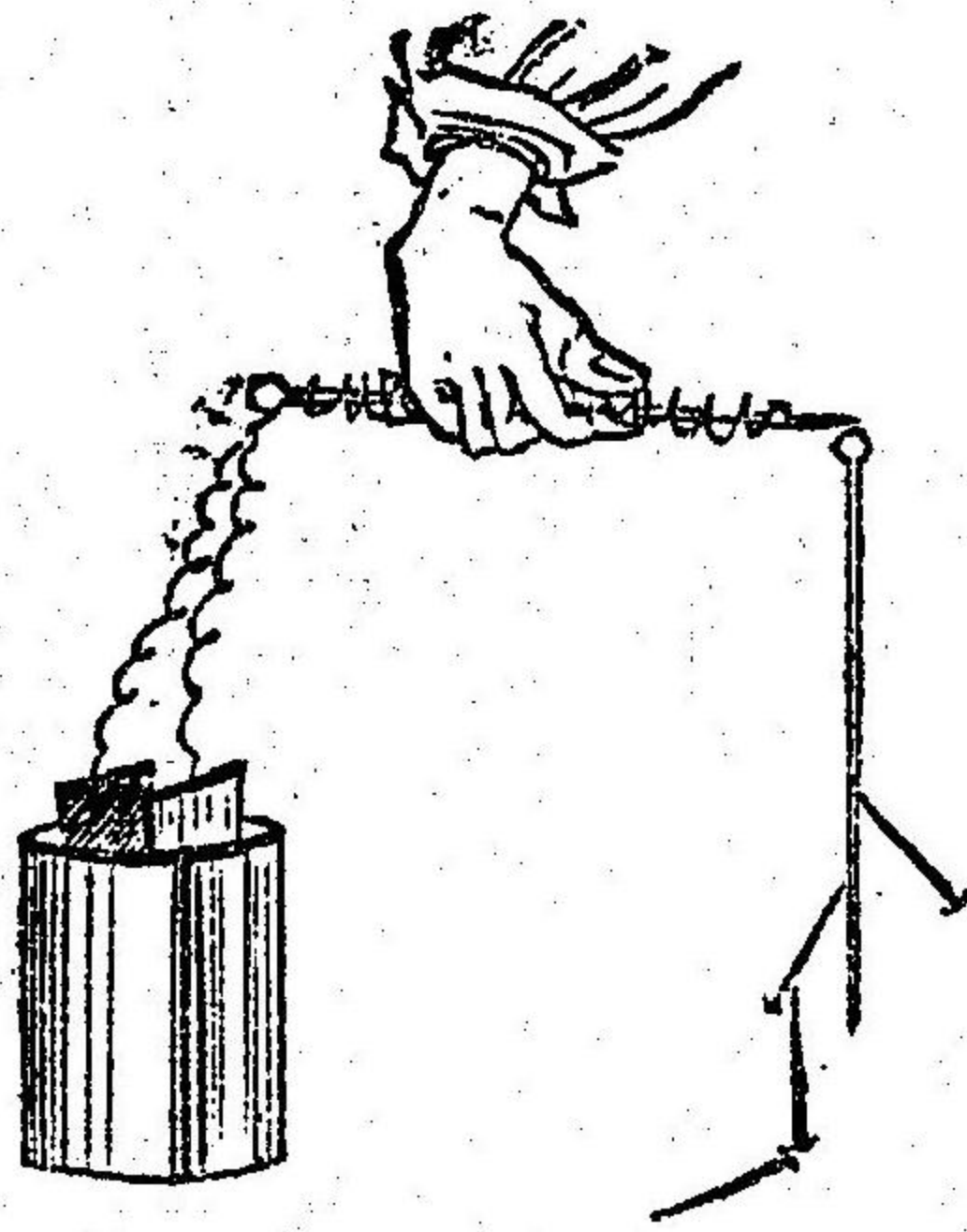
三十八
 ラル、ニハ不適當デアリマス
 故先ツ並ノ蚊帳布ノ切位ニテ
 深サ二尺口徑六七寸斗リナル
 圓キ袋ヲ拵ヘ口ノ所へ針金ヲ
 サシ其餘ヲ以テ適宜ノ竹ニ差
 シ込ムベキ様ニナシ次キニ
 ノ小形ノモノヲ擇ビマシテ是
 ニモ蚊帳布ヲ口ノ處へ結び付
 ケ以テ捕り入レタル羽虫ノ逃
 ゲ去ラヌ様ニナシ置キ儲好ミ
 ノ羽虫ヲ捕ヘタレバ成ルベク
 羽ニ觸レヌ様注意シ巨指ト人
 指トヲ以テ輕ク羽ノツケモト

ヲ押へ旅ノ内ニ入レマシテ歸宅ノ後又前ノ如ク丁寧ニ
 宛取り出シテイノ如キ挾ミ臺ニノセ針ヲ以テ羽ガヒノ處
 ヲ背ヨリ腹ヘカク貫キ數匹ノ虫ヲ正シク並ベサテ其後ニ
 徐カニ殺虫藥ヲ注ケルノデムリマヌル殺虫藥ニハ動物ニ
 ヨリ青酸加里或ハ礬石杯種々ムリマヌルガ蝶々をんぼ位
 ノモノニハてれば油ノ方却テ便利ニシテ且ツ扱ヒ易ク
 アリマヌてれば油ヲ塗ルニハ使ヒ残りノ水筆ヲ能ク洗
 ヒマシテ先ツ蝶々ノ口ノ邊ヨリ次第ニ体ヘカケテ幾度モ
 塗ルノデムリマヌ併シ羽ニハ塗ル必要ガムリマセヌ塗レ
 バ却テ美ヲ傷フノ恐レガムリマヌル(謹聽々々)甲蟲類ノ如
 キモノハ能ク乾シ固メテ箱ニ藏メマヌルキ樟腦ヲフリ掛
 ケ置ケバ宜シクムリマヌル

○第十八 蝶々をんぼヲ何時マテモ貯ヘル法

○第十九 火箸ニテ火箸ヲ釣ル法

永ラクノ演舌ヲ厭キモナサラズ御聞下サレマシテ私モ至
 極満足ニ存シマス其處デ此ニ持チ出シマシタルハ二本ノ
 鐵火箸ヲムリマヌ勿論只今火鉢ノ中ヨリ引キ摺リ出シタ
 ル譯デムリマヌレバ決シテ種仕掛ノ有ロウ筈ハムリマセ
 スカ今私ハ此ノ二本ノ火箸ノ内一本ヲ撰ビ出シマシテ斯
 様ナル工合ニ管ヲ嵌メ次ギニ針金
 ナリテぐるくト縛リ上ゲマス(免
 レヤ)縛リ上ゲマシタル針金ノ先キチ此
 ノ側ハニムリマヌル磁製ノ壺ヨリ
 出シタル針金ニ結ビ付ケ却説今一
 本ノ火箸ヲ取りマシテ是ニ近ツク



ルキニハ御覽ノ如ク火箸ハぶら下リ叩キマシテモ中々落
 チハ致シマセヌ因テ更ニ此様ナ小釘ヲ二三本クツケル
 キハ引連レテぶら下リマス(イヤハハ
 奇妙ナ)
 (理由)サテ前例ニ倣ヒマシテ聊カ此理由ヲ説明致シマスル
 ガ諸君モ御賢察ニナツタ如ク火箸ニハ決シテ種仕掛ハム
 リマセヌ只此磁製ノ壺コソ怪ムベキ奴デムリマス一体此
 壺ハ電池ト稱ヘマシテ内ニハ亜鉛ノ板ト木炭ノ棒トガム
 リマシテ之ヲ相互ニ向キ合ハシテ壺ノ内ニ藏メ次ギニ硫
 酸ヲ薄ク水ニ混シ格魯爾酸加里ト申シマス黄色ノ粉藥ヲ
 加ハテ共ニ此壺ノ中ニ注ギ込ミマスルト電氣忽チ發生致
 シ此針金ヲ傳ハリマシテ火箸ノ圍ヲぐるくト回ハリ往
 キマス其處デ火箸ハ直チニ磁石力ヲ引キ起シマシテ斯様
 ニ鐵火箸チくつケル譯デムリマス此度ノ電氣ハ前回藥人

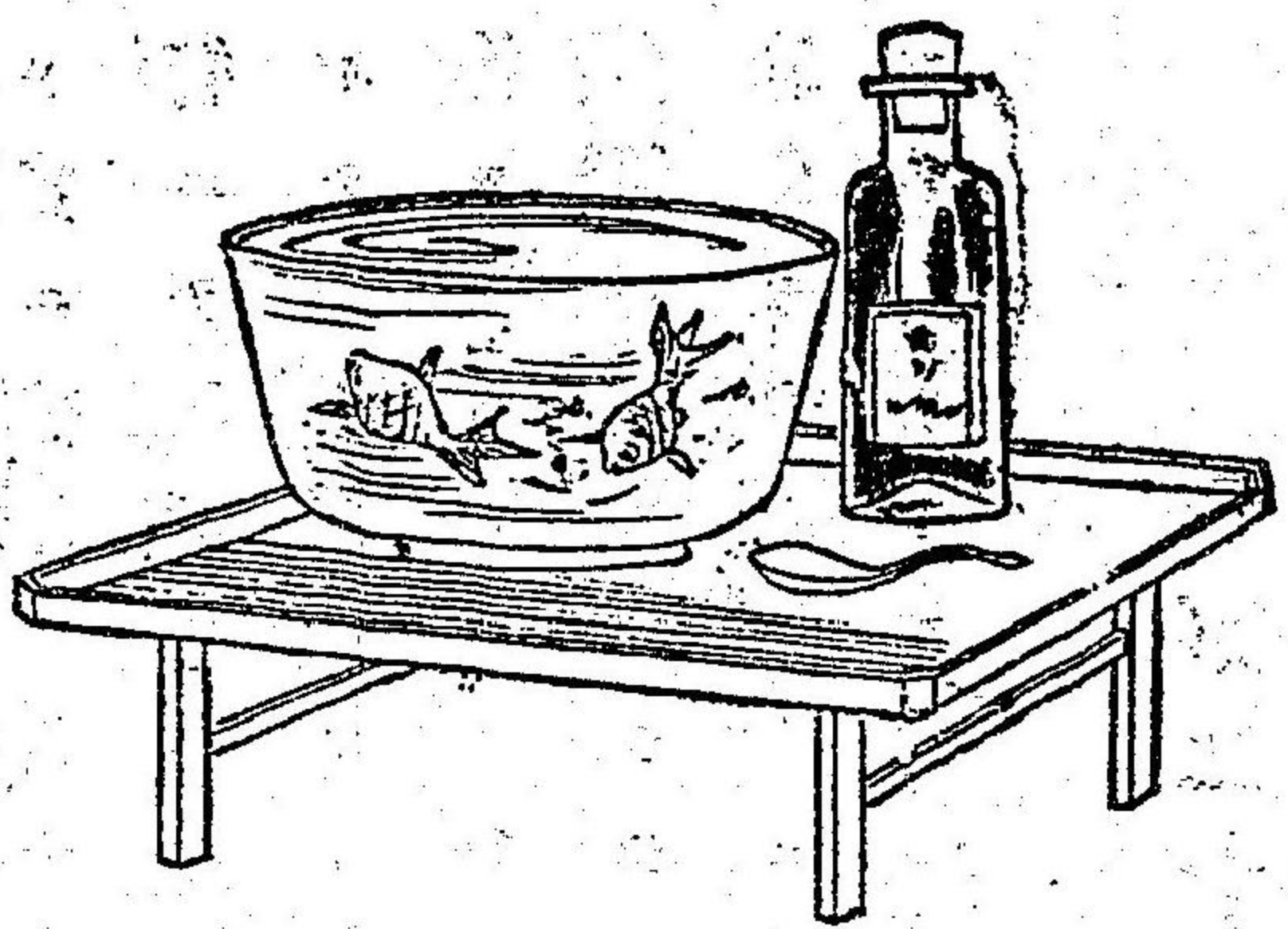
○第十九 火箸ニテ火箸ヲ釣ル法

形ノ時ニ用井タルモノト少シク差別ガムリマシテ是ヲ濕電氣ト申シマス(了解々々(辨士御苦勞))

○第二十 金魚ノ色ヲ拔去ル法

諸君ヨ諸君如何ニ私共ガ理化學ヲ應用シテ珍奇ナル術ヲ御覽ニ入レマスト申シテモ動物ノ色ヲ拔キ去ル程六敷且ツ信ズベカラザルハムリマセヌ勿論殺シテ色ヲ拔キ去ルヲデアリマスレバ左程ノヲデモナク御慰モ自然ウスク有リ升カラシテ私ハ是非共生キナガラ此等金魚ノ色ヲ拔キ去リテ御覽ニ入レマス併シ直様ト申スワケニハ參リマセヌ少クモ二三十分斗リノ時間ヲ要シマス先ツ爰ニ斯様ナル大硝子製ノ井ガムリマス是ニ水ヲ波々ト注ギ込ミマシテ黒赤又ハ班ナドノ金魚ヲ放チマス其處テ私ハ斯様ナ

ル白キ粉藥ヲ投ケ入レマストルガ暫クハ御休憩ヲ願ヒ升其内ニハ遅々ト褪色イタシ升……(イヤ大分變ツテキタコ)(ナルホド色ガ全クナ)



(理由) 諸暫クノ間御休憩ヲ願ヒ升タガ如何ニ金魚ハ矢張り己前ノ如クデムリマスカ(イヤ全ク)左様御覽ノ邊リ孰レノ金魚モ斯様ニ色ガサメテ仕舞マシタ因テ此奇態ナル譯ヲ陳述イタマスマスガ一體此白キ粉藥ハ鹽化石灰トシマシテ市中ニ販賣致シマスル漂白粉ト同一デムリマス併シ通常市中ニ販賣致シマスルモノハ極メテ粗製デムリマスニヨリ斯程マデニ功能ハムリマセヌ因テ私ハ特ニ此ノ粉藥ヲ製造致シマシタ其法ハ先ツ食鹽ト二酸過

○第二十 金魚ノ色ヲ拔去ル法

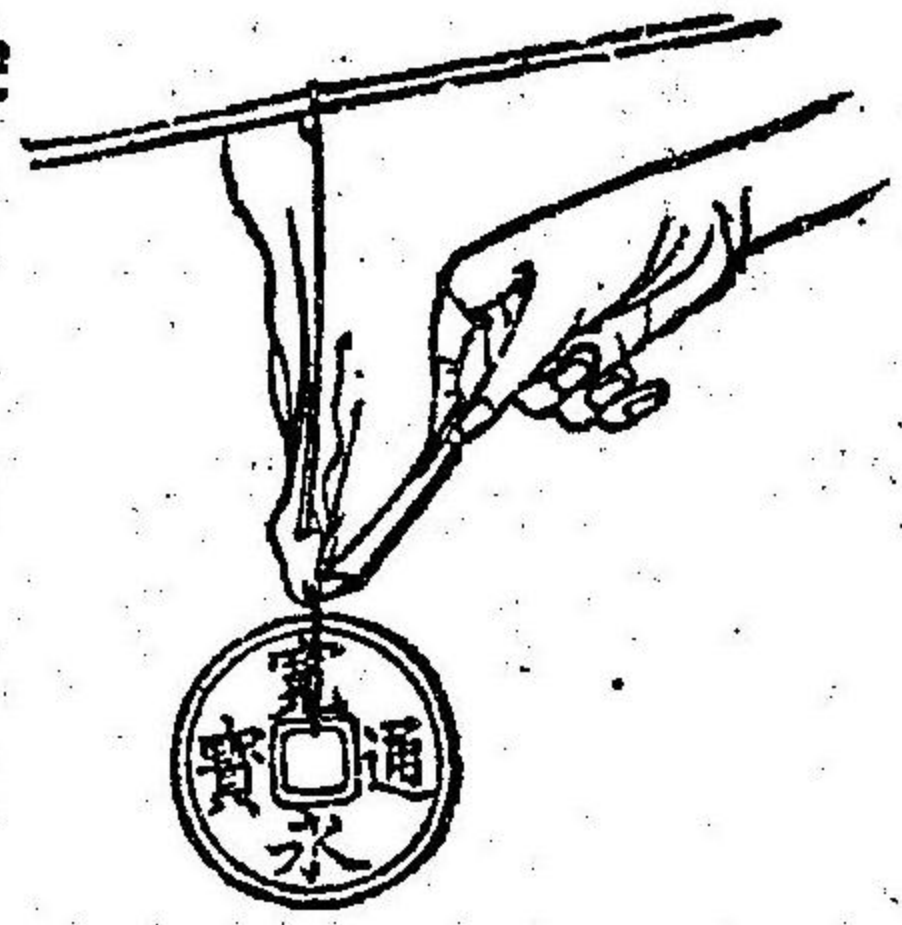
俺トチ等分ニ一樽中ニ藏メマシテ夫ハ硫酸ヲ注ギマヌル
 ト忽チ御案内ノ如ク鹽素氣ヲ發生致シマス此ノ鹽素氣コ
 シ實ニ靛色ノ原因物デムリマス(成程)ソコデ此ノ氣ヲ
 管ニテ石灰中ニ通シマヌルキハ石灰ハ充分ニ此ヲ含ミマ
 シテ即チ漂白粉ト相成リマス諸此ノ藥ハ極メテ強キ靛色
 性ヲ有スルモノデムマヌルガ一時ニ金魚ノ色ヲ返カント
 多量ニ用サマシテハ死ニマスヨリ可成少シ斗リチ入レ
 時間ヲカケ氣水ニ御經驗ヲサレタ方安全ヲ且ツ結果モ宜
 シクムリマス(サングス)

○第二十一 日本手妻ノ數法

諸君ヨ今回諸君ニ御話致シマヌルハ日本在來ノ手妻デム
 リマシテ少シク古臭ト云フ恐ガムリマヌルガ併シ理論ノ

取ルベク或ハ如何ニモ面白味アル法ハ古イ搦トテ棄テル
 譯ニハ參リマセヌ因テ私ハ今二三ヲ擇ビ御覽ニ入レマス
 ル
 第一ニ私ハ硝子ノ方三寸程ノ切ヲ持チ出シマシタルゾ今
 此硝子ヲ斯様ニ直立致シマシテ夫ハ針ヲツケ火箸ニテ硝
 子ノ裏ヨリ差圖致シマヌルキハ針ハ只火箸ノ動ク所ニ從
 テ動キ自由自在ニ硝子面ヲ馳ケ回ハリ決シテ下へ落チマ
 セヌ何ント不思議デハムリマセヌカ(大笑)
 (理由)是ハ別ニ六數道理ノアル譯デハアリマセヌ全ク此火
 箸ニハ磁石性ヲ持タシタルモノデムリマス御案内ノ如ク
 磁石ハ硝子一枚位ヲ隔テマヌルモ能ク鐵ヲ吸ヒツケル勢
 ガムリマヌル
 第二ニ御覽ニ入レマヌルハ不思議ナル糸ノ事デムリマス

ルガ私ハ爰ニ凡ソ五寸位ノ木綿糸ト青錢一文ヲ持テ合セテ居リマス今此錢ヲ木綿糸ニテ結ビ火箸ノ先ヘ吊シ下ゲマシテ情斯様ニ附木ニテ燃シマスルルハ糸ハ忽チ燃ユル



モ錢ハ決シテ落チマセヌ如何ナル譯デムリマセウカ(糸ノ中ヘ針立)(理由)糸ノ中ヘハ決シテ針金杯入レテハムリマセヌ其證據ニハ少シク搖ブリマスルルハ此通り落チテ仕舞イマス(此ハ奇)

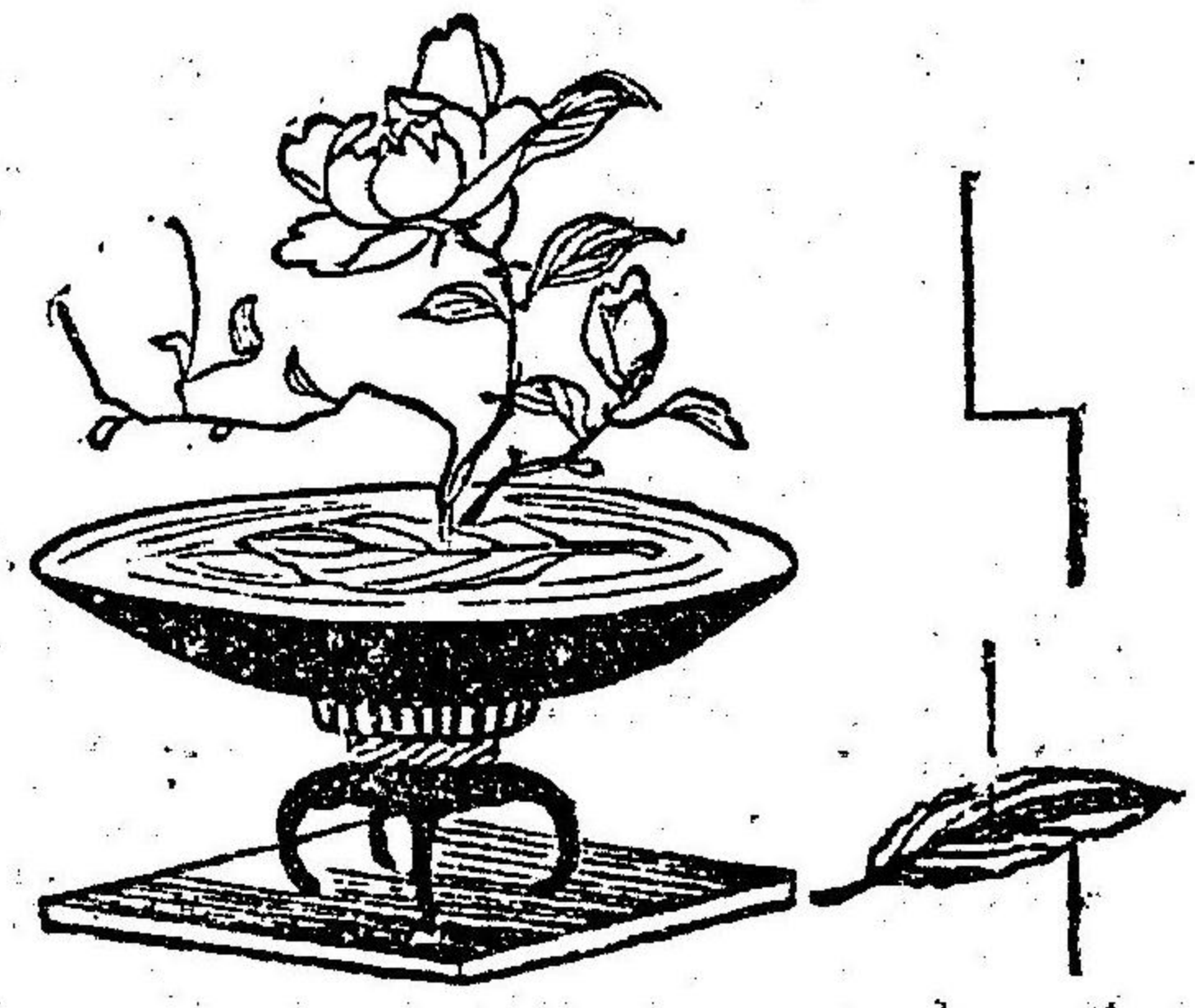
妙故ニ錢ハ至ク燃ヘタル糸ノ灰ニテ持テ堪ヘテ居ルモノニ相違ムリマセヌ是ハ糸ヲ能ク鹽酸ト曹達ノ混合液ニ浸シ置キテ後乾シタルモノデムリマス此混合水ハ物ノ質ヲ縮メ固ムル性質ヲ持テ居リマスルガ故ニ糸ハ燃ヘテモ切レルコトナク灰ハ尙錢ヲ吊シテ落シマセヌ

第三ハ少シモ學理ト申ス分子ハ合ンデ居リマセヌガ唯々

旨ク上手ニ諸君ノ眼ヲ眩マスノミデムリマスル即チ私ガ樂屋ニ於テ拵ヘ置キマシタル活花デムリマスル諸君ヨ此活花ハ僅ニ一枚ノ木葉ノ上ニ其花ヲ留メテ居リマシテ決シテ鉢ノ底ニ枝ガ達シテハ居リマセヌ其證據ハ棒ヲ以テ斯様ニ葉ノ下チ自由ニカキ廻ハスコトが出来マヌル是チ一本花葉留ノ傳ト申シマ

ス(ヒヤ)大笑

是ハ(イ)ノ如ク曲リマシタル針金ヲ鉢ノ方ヘ封蠟カ或ハ松脂ナドニテ附ケ兼テ花枝ヘ錐ニテ小サキ穴ヲ明ケ置キ俵



木葉チ一枚取リテ針金チ藏シ其尖ハ花チ差シ水チ注ギ込ムノデムリマスガ故ニ一見如何ニモ葉ノ上ニ花チ留メタルカノ如ク見ヘマス中々巧ミデムリマセウ此他尙無數ノ下ヲス日本手妻ハムリマスルガ時間ヲ空費スルノ恐レガムリマスルガラシテ是ニテ中止スルヲニ致シマス

○第二十二 青色ノ水チ赤色ニ變

シ再ビ元へ返ス法

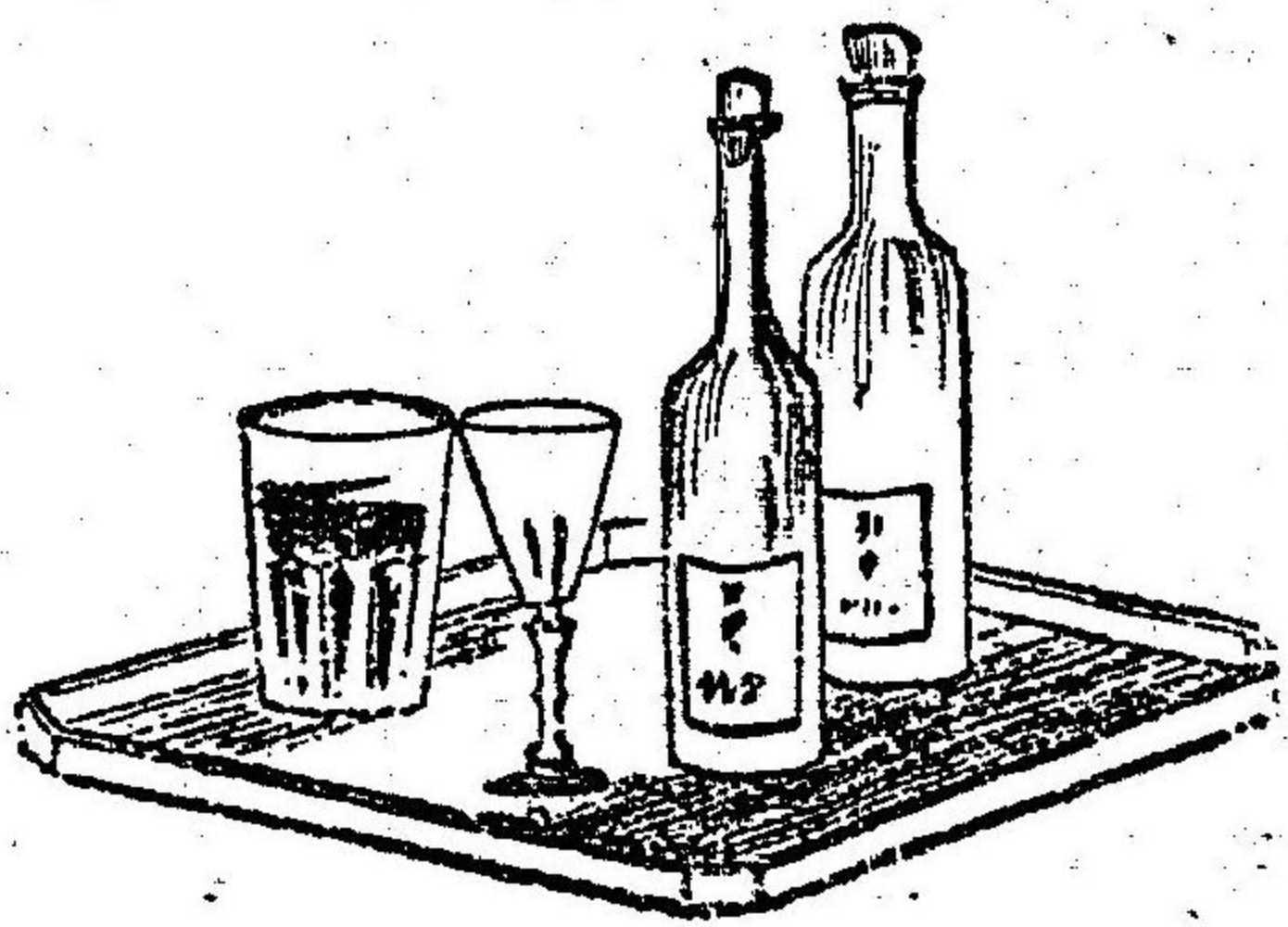
諸君私ハ今爰ニ一個ノ水香チ持チ來マシタ其内ニハ斯ク青キ色シタル水チ半分程盛リテムリマス而シテ此處ニ御覽ノ如ク二本ノ罇ガムリマシテ共ニ同ク様ナル透明ノ水藥チ入レテ有リマスガ今私ハ此一本ノ罇ヨリ水藥少許チ

水香へ注ギ込ミマスルキハ青色ハ忽チ變シテ赤色トナリマスル(ヒヤク)次ギニ他ノ一罇ノ水藥チ前ノ如ク少許更ニ此上へ加ヘマスルキハ赤色ハ見ル

元ノ青色ニ返リマス(イヤク)

(理由)カ、ル變化チ引起サシムル水藥ハ一ハ稀鹽酸一ハ安母尼亞水デムリマス勿論是ハ必ず稀鹽酸ニ安母尼亞水デナクテハナラヌト申ス譯ハムリマセヌ總テノ酸類ハ青色ニ變シ總テノ亞爾加里類ハ赤色チ青色ニ變ズルモノデ酸トハ正反對ノ作用

チ有スルモノデムリマス彼ノ梅干ノ自然ニ赤色チ呈ハシマスノモ全ク梅ノ酸味ガ紫蘇ノ葉ニ及ボス作用デムリマスルヲハ丁度今此稀鹽酸ガ青色チ赤色ニ變シタト同一ノ



○第二十二 青色ノ水チ赤色ニ變シ再ヒ元へ返ス法

理法デムリマス(成程)又蚊ヤ百足ヤ蜂ノ類ハ總テ此酸性ノ
 毒チ有スルモノデムリマスカラシテ是等ノ害虫ニ整レマ
 シタルキニハ亞爾加里性ノモノ即チ此安母尼亞ノ如キモ
 ノラ塗り付ケマスルト直ニ其痛ガ去リマス
 猶水色ヲ種々ニ變化サスル他ノ藥品ガムリマスレバ後ニ
 至リテ一々御話申上ルト致シマセウ(トイッ君ヨ)

○第二十三 人体ヨリ發火セシムル法

次ギニ諸君へ御覽ニ供シマスルハ極メテ奇怪ナルトデム
 リマス即チ手妻ノ道具ト致シマシテ諸君ノ内誰ニテモ一
 人此ノ處へ御出掛チ願ヒ度モノデムリマス去スレバ私ハ
 其人チ以テ一種驚クベキ手妻チシテ御目ニカケマス成丈
 少年キ御方ガ宜シクムリマス(オイ君ハ) (僕ハイヤダ何ヲス) (ルカ知レルモノカ) イヤ決
 シテ

無理ナ忍ロシキヲ杯ハ致シ

マセ又只体カラ火ヲ出シテ

御目ニ掛ケマス斗デムリマ

又(何シダ火ヲ出ス) (弱イト云フナ) (エライ)

(是リヤ大變ダ) (僕ガデルワイ) (君往キタマヘ)

サテ私ハ此ノ勇敢ナル一美

少年チ得マシタカラ是ヨリ

直グニ其奇術ニ取り掛リマ

ス諸君ヨ今此ノ少年チ斯様

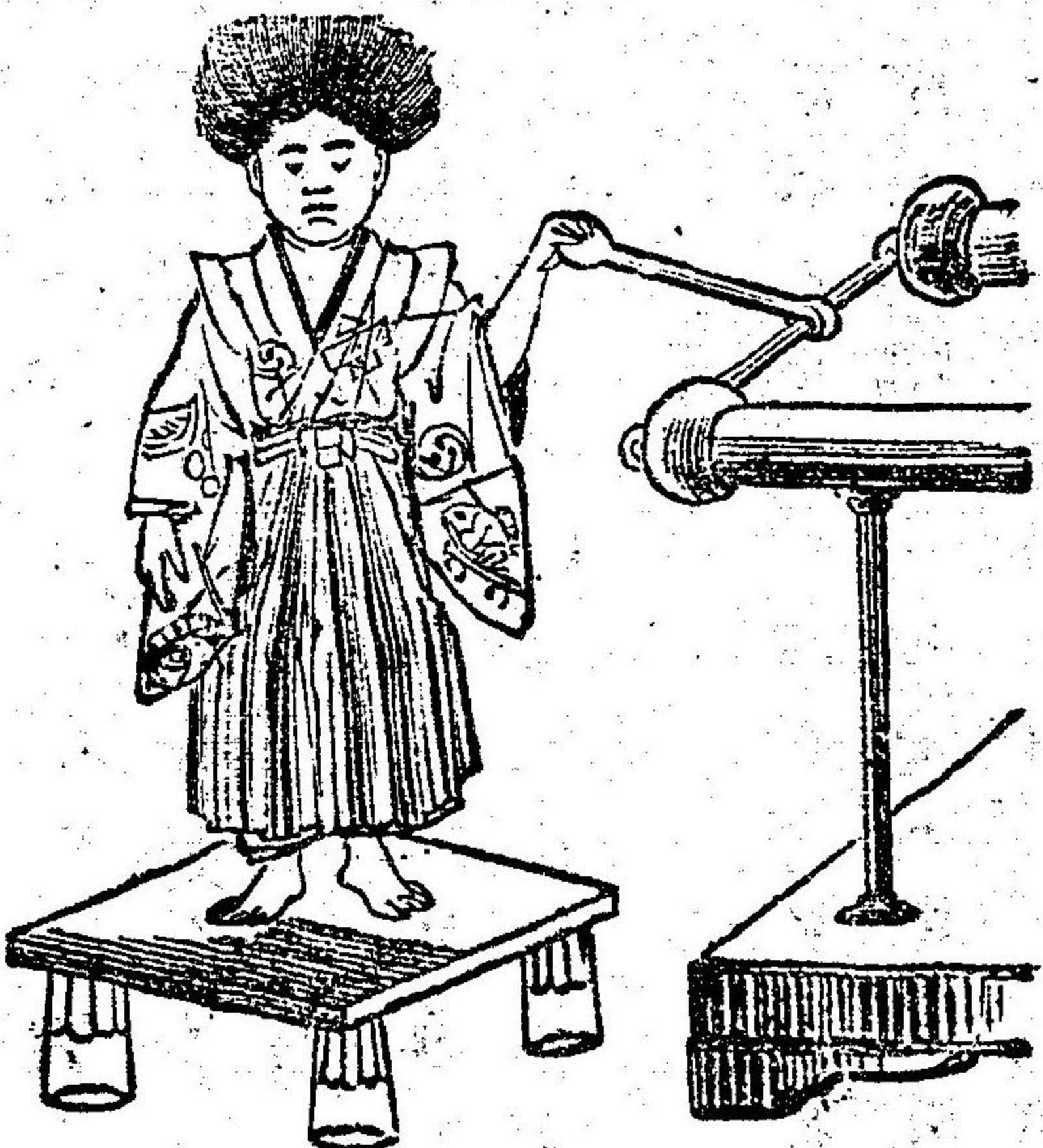
ニ四個ノ水呑ヲ以テ足トナ

シ上ニ一枚ノ板ヲ載セタル

簡單ナル臺ノ上ニ載セマシテ此ノ電氣器即チ曾テ諸君ニ

御目ニカケタル摩擦電氣ノ一端ニ指ヲツケ真直ニ立タセ

マシタ(電氣ヲカケルト) イヤ決シテ痛クハ有リマセヌ指ヲ放スト



○第二十三 人体ヨリ發火セシムル法

却テ痛クアリマス斯ク用意出來上リマシタルレ私ハ靜ニ
電氣ヲ起シマス

諸君ヨ諸君ガ御覽ノ如ク此ノ少年ノ髪ハ悉ク逆立チマシ
テ誠ニ恐ロシク相成リマシタ(イヤ是ハ大變妙ダ)是レ電氣ガ充分体ニ充
チマシタル證據デムリマス因テ私ハ指チ以テ此ノ少年ノ
耳ノ邊リヘ近ツケマスト忽チ火ガ發シマス(イヤ)
諸君ノ内誰カ來テ試ミ玉ヘ……(成程はちりイタ)
諸君是ハ獨リ耳ノミデムリマセヌ何處デモ好次第ニ出マ
ス指ノ先カラばちり額カラばちり今度ハ鼻カラばちり是
ヅ真ノ鼻火(花火)デムリマス(アハ……)(拍手喝采)
(理由)此ノ奇怪ナル鼻火ハ全ク電氣ノ作用デムリマシテ此
ノ少年ヲ載セマシタル臺ユリ實ニ大切ナル道理ヲ持ツ所
ノモノデムリマス何故ト申シマスニ是ノ臺ハ硝子ニテ足

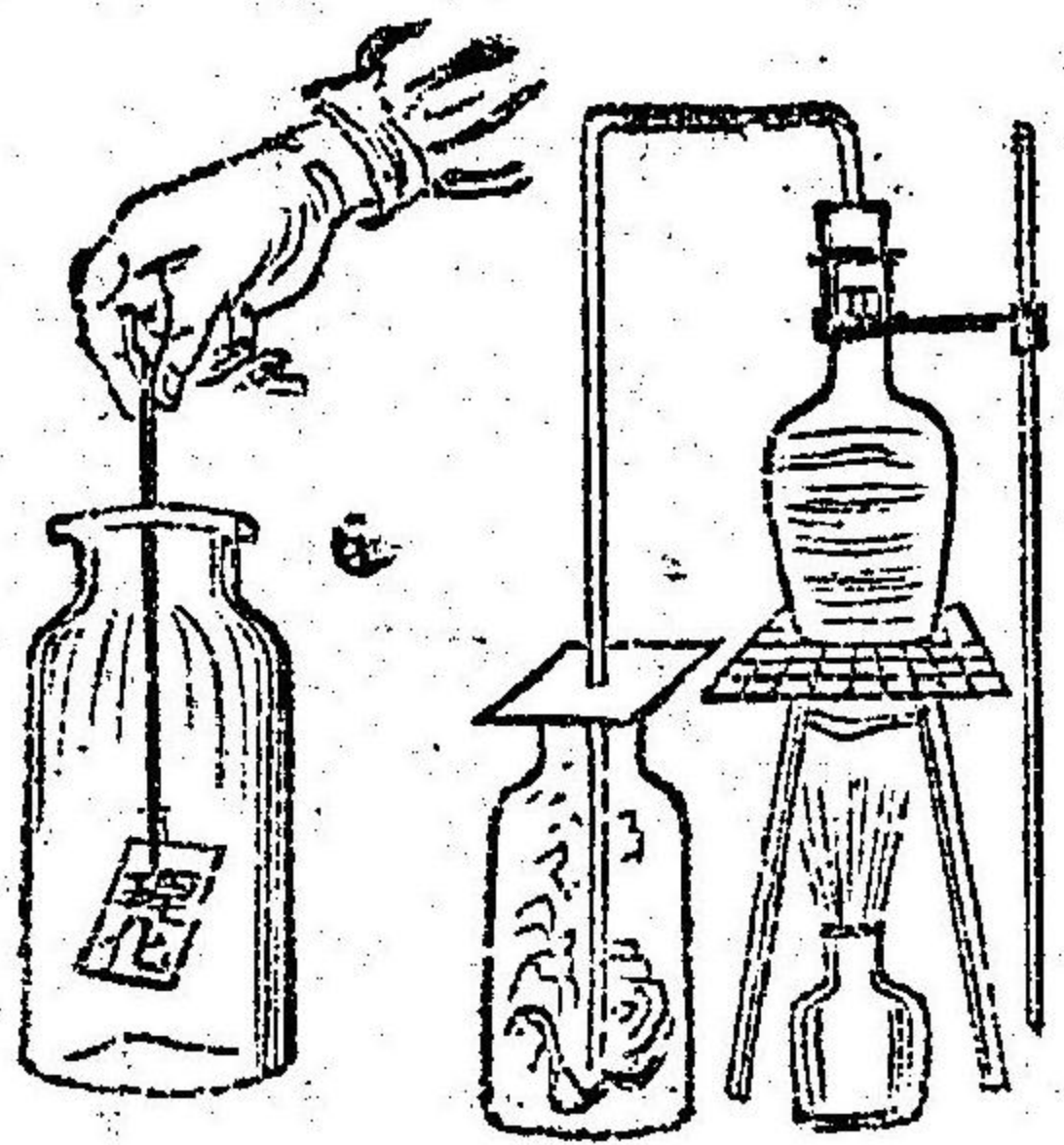
チ作リナ有ニマスガ一體硝子ト申シマスモノハ御承知デ
モムリマセウガ決シテ電氣ヲ導カヌモノデスカラシテ今
此ノ少年ニ電氣ガ傳ハリマスト直チニ足ヨリ逃ケ行カン
ト致シマスケレト硝子ノ水呑ノ爲ニ呢ヒ留メラレ升ガ故
ニ電氣ハ思フ儘ニ身体ノ中ニ充チマス其處デ他ヨリ電氣
ノ傳ハリ易キモノヲ近ツケマスト直グニ体中ノ電氣ハ夫
ニ傳ハラント致シマス(成程)電氣ガ他ハ傳ハリマスキニ少
シク間隙ガムリマストレバ即チ電光ヲ發スルモノデムリマ
ス(了解)

○第二十四 墨色ヲ抜き取ル法

次ギニ御話致シマスルハ墨色ヲ抜き取ル法デムリマス一
体墨ハ極メテ抜き難キ性質ノモノデムリマスルハ諸君

○第二十四 墨色ヲ抜き取ル法

ノ兼テ御案内ノ處デムリマセウガ茲ニ私ハ一種奇態ナル
墨書ヲ拔キ取ル處ノ瓦斯ヲ所持シテ居リマヌル御覽ノ如
ク此玻璃櫃ハ宛モ黄烟ヲ以テ充タサレ如何ニモ奇麗デム
リマヌルガ一度斯ニ蓋ヲ取リマ
スルキハ忽チ厭フベギ臭氣ヲ放チ
マス(或程是ハ)
借私ハ一枚ノ西洋紙ハ墨ヲ以テ理
化ナル文字ヲ書キマシタ是ヲ水ニ
テ濕シマシテ此櫃ニ暫ク下シマス
ルキハ忽チ此ノ如ク消ヘテ跡ダニ



ムリマセヌ何ント奇妙デアリマセンカ
(理由)此劇臭アル黄色ノ瓦斯ハ鹽素ト申シマシテ鹽食トニ
酸過滿俺トテ和シテ玻璃櫃ニ入レ稀硫酸ヲ注ギテ得ル所

ノモノデムリマシテ極メテ褪色性ニ富ミ墨ノミナラズ赤
又紫色ナドノ布ヲモ容易ク抜キ取ル誠ニ奇妙デムリマ
ス尤モ抜キ取ラントスル處ノモノハ豫メ水ニ浸ス一ガ肝
腎デムリマシテ乾キタルマニテハ決シテ功力ガムリマ
セヌ前キニ金魚ノ色ヲ抜キ去ル法ニ於テ御話致シマシタ
ル漂白粉ハ即チ此瓦斯ヲ石灰ニ含マセタル者デムリマス
(謹聽々々)

○第二十五 人形ヲ水中ニ躍ラス法

人形ヲ躍ラスト申シマヌル事ハ是非共電氣ノ勢力ヲ借ラ
ナクテハ出來ナイモノナラント諸君ハ御考ヘ成サレ升ガ
左様ナル面倒臭イヲテナク極メテ簡便ニ誰デモ出來マス
ル法ヲ御話致シ升(ヒヤ)借此人形ハ鐵葉製ノモノデム

○第二十五 人形ヲ水中ニ躍ラス法

リマスルガ是ナル細長ギ大ナル玻璃罐ニ凡ソ水ヲ八分斗
 リ注ギ込込ミ其中へ此人形ヲ投ゲ込込ミマシテ膀胱ヲ以テ塞
 ノナ工合ニ蓋ヲ致シマスルト人形ハ水面ヨリ少シク下ニ
 止マリテ居リマスル其處デ私ガぼん
 ト蓋ノ上ヲ叩キマスレバ人形ハ忽チ
 沈ミ手ヲ放セハ上リマス又ぼんと叩
 クバ下リ放セバ上ルヲ誠ニ奇妙デム
 リマス(アハヒヤ、ハ)

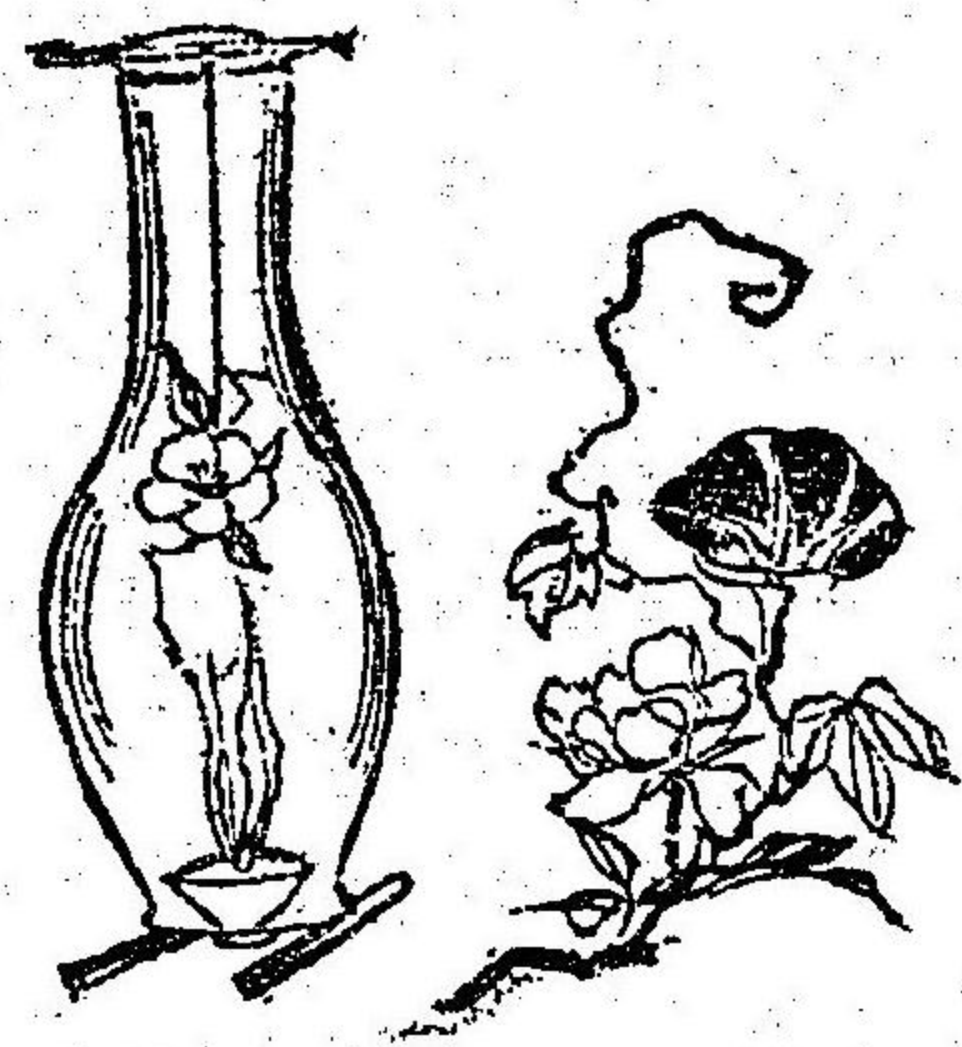


(理由)是ハ實ニ空氣ノ受壓性ト并ニ反撥性トチ應用シタル玩物デムリマス
 ガ御覽ノ如ク初メヨリ殆ント水ニ浮
 パントスル様ニ輕ク製造シテムリマスガ全ク中ハがらん
 デムリマシテ下ニ小サキ孔ヲアケ常ニ空氣ヲ持チテ居リ

マスル儲先ツ私ガ手ヲ以テ此でむ蓋ヲ押ハマスルキハ空
 氣ハ縮マリマシテ水面ヲ強ク壓シ付ケマス壓サレタ水ハ
 忽チ其壓ヲ人形へ傳ヘント致シ人形ノ下ノ孔ヨリ中ナル
 空氣ヲ縮メテ水ガ体内ニ這入り込込ミマス因テ人形ノ目方
 ハ余程重クナル道理デムリ升(成程)是ヲ以テ人形ハ勢
 罐ノ底へ沈マンケレバナリマセヌ併シ私ガ手ヲ放シマス
 ルキハ忽チ空氣ハ以前ノ容積ニ返リマスルカラシテ人形
 モ亦前ノ如ク浮ミ上ル譯デムリマス勿論初メ人形ヲ拵ハ
 マスルキニハ其目方殆ント浮ヒ殆ント沈ムト云フ様ナ
 工合ニ作ルヲガ肝腎デムリマス人形ノ代リニ硝子ノ小サ
 ギ水球ヲ倒ニ致シテ下ニ重ミヲツケマシテモ矢張り同
 ヲデムリマスル

○第二十六 花ノ色ヲ拔キ去ル法

私ノ奇術ハ彌々出テ、彌々奇態ニ學理ヲ應用致シ以テ諸君ノ眼ヲ樂マシメ且ツハ新智識ヲ注入セント勉メマスガ



故ニ諸君モ撓マズ倦マス後ヲ目當トシテ御高覽ヲ願ヒ升長口上ハ止メト致シマシテ早速奇術ニ取掛リマス諸此處ニ持テ出タシマシタルハ極メテ美麗ナル赤色ノ薔薇ト青色ノ朝顔ヲムリマス

(英語イヅツタ)今此二ツノ花ノ色ヲ見事拔

キ去ツテ御目ニカケマス其法ハ即チ斯様ニ水氣ヲ吹キカケマシテ此ノらんぶノはやノ中へ吊リ下ゲ火鉢ノ上ニ持テ出シテ其藥品ヲ燒キ其煙ニフレマスル此ノ通り全ク白色ト相成リマシメテ(拍手喝采)

次ギニ朝顔ノ花ヲ以テ試ミマスルニ其結果矢張り薔薇ト少シモ異ナル所ハムリマセヌ唯青ト白トノ班ト相成リマシメテ所却テ一段ノ見榮ヘガ致シマスル尙ト奇妙テハムリマセヌカ(ヒヤ)

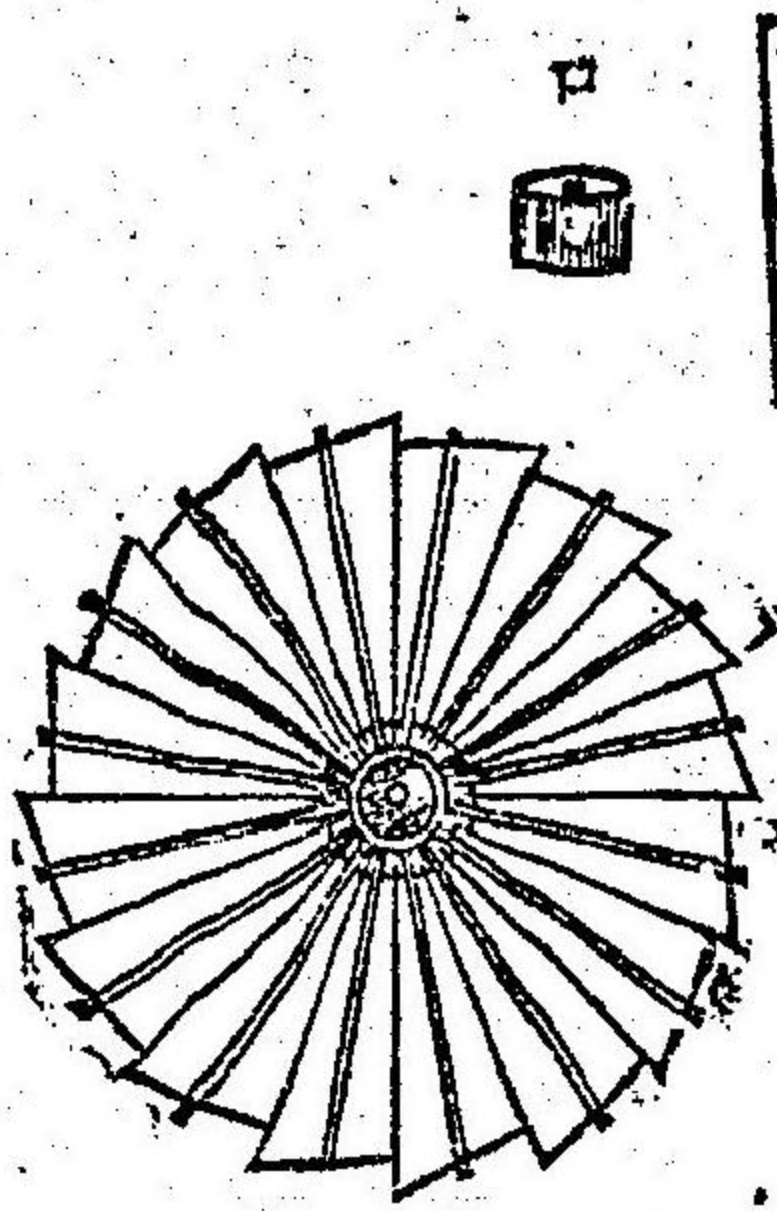
(理由)例ニヨリ此ノ簡單ナル三歳童ニモ容易ニ爲シ得テ實ニ奇態ナル變化ヲ起スベキ理由ヲ説明致シマスルガ諸君モ臭氣ヲ大概御判断ガ出來マシメテ(黄硫磺ノ左様)ハ硫黄ノ瓦斯ニテ色ヲ抜キ去ツヌニ相違ムリマセヌ一ニ硫黄ト申シマスモノハ燒キマスルト臭キ亞硫酸ト申シマス色性)アル瓦斯ト變ズルモノデムリマシテ之ヲ化學者ハ亞硫酸染抜ノ法ト申シマス(成程)此法ヲ以テスルハ薔薇ヤ朝顔ノミニ限ラズ葵ヤ木槿ノ花モ忽チニ褪色致シマスルハ雜作モナキヲアムリマス諸君試ミ玉ヘ(サンク)

○第二十六 花ノ色ヲ拔キ去ル法

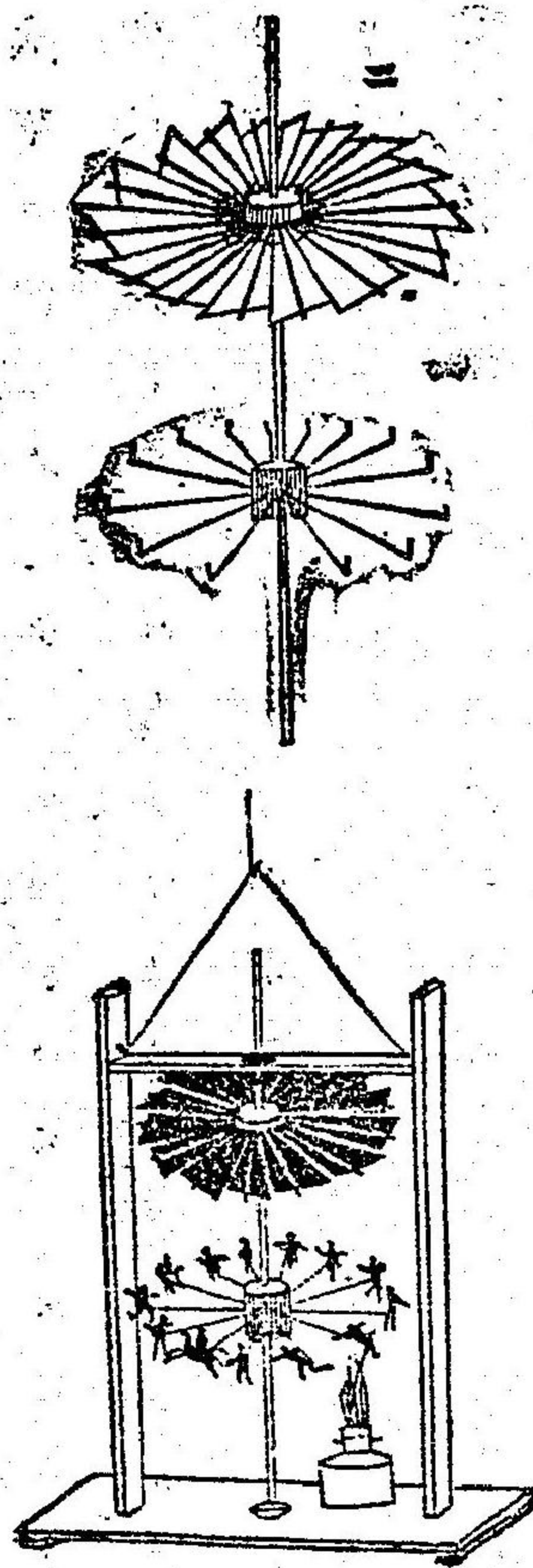
○第二十七

走馬燈ノ製法

夏ノ夕へ軒端へ吊シテ快樂ヲ取り涼サチ覺ユルモノハ風鈴ニ走馬燈デムリマスガ風鈴ハ別段是ト申シマスル六ヶ



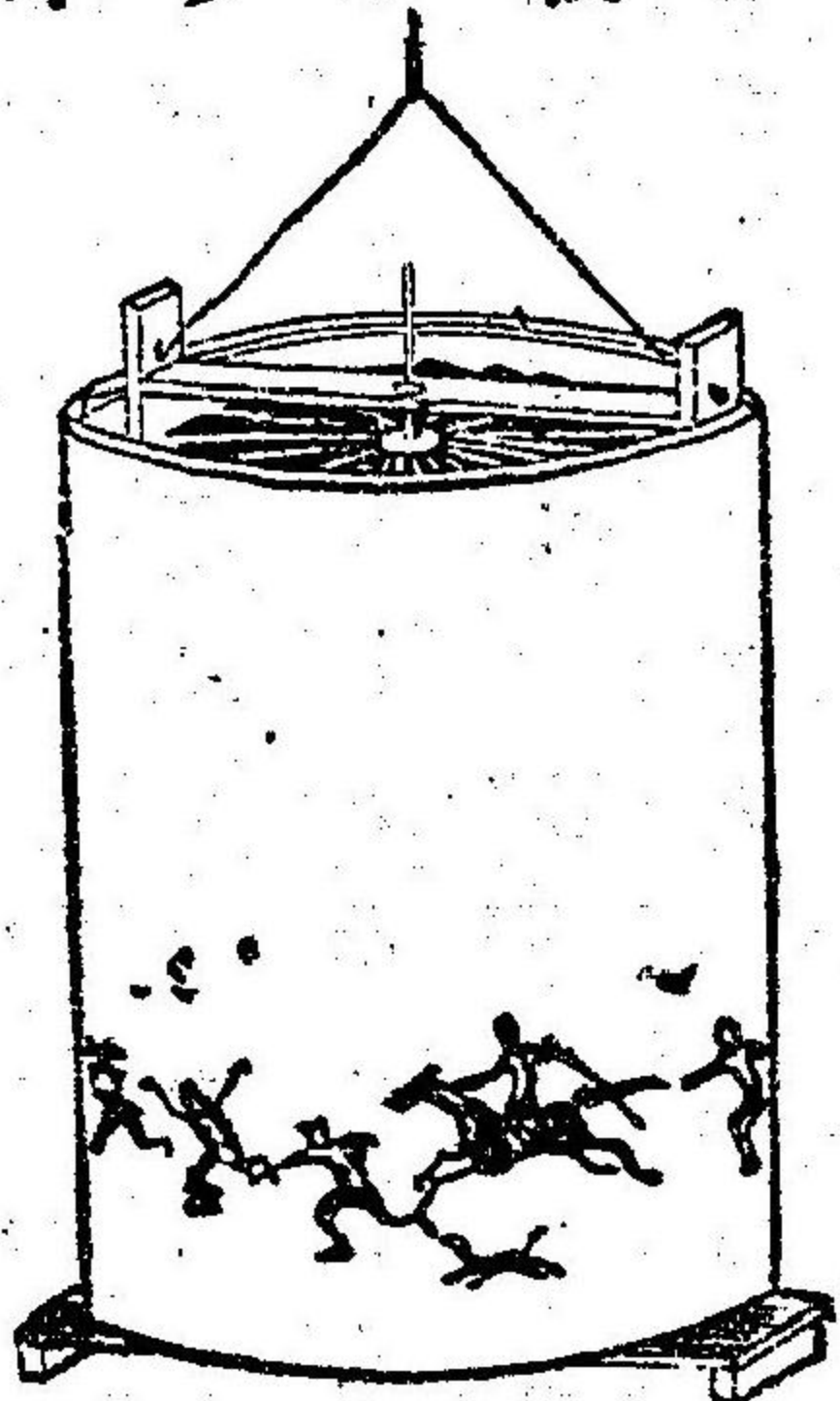
敷製法モムリマセズ亦學理ニ因ツテ云々ト申ス程ノ一モムリマセズガ走馬燈ノ製法ハ中々面倒臭ク且ツ學理ニ叶ツタル點モムリマスガ故ニ今其製作法ヲ御話致シマセウ先ツ走馬燈



チ作ランニハ幅一寸五分長サ四寸程ニ薄板ヲ切マシテ細キ竹骨ニ附

クルフイノ如ク致シ圓徑四分程ノ柔カキこるく様ノ木ヲ切テ(ロ)ノ如キモノヲ作りマシテ其周圍ト中心ニ孔ヲ明ケ次キニ此(イ)ヲ(ロ)ニ差シ少シ重ナル様ニ致シマシテ圓ク輪ノ如キ物(ハ)ヲ(イ)ヲ拵ヘ(ロ)ノ中心ニ細キ竹ノ心棒ヲ通シマシテ之ヲ立テ(ニ)ノ如ク銅ノ針金ニテ車ノあみだノ如ク致シ儲書用紙ヲ黒ク染メ任意ノ畫ヲ描キマシテ是ヲ切り抜キ(ニ)ノ針金ノ先ハ附テ最後ニ此ノ全体ヲ容ル、丈ノ吉野紙ノ如キ薄キ紙ニテ張リタル圓或ハ角あんどんヲ作りテ蓋ヒマスルトキハ完全ナル走馬燈ト相成リマス(了解々々)

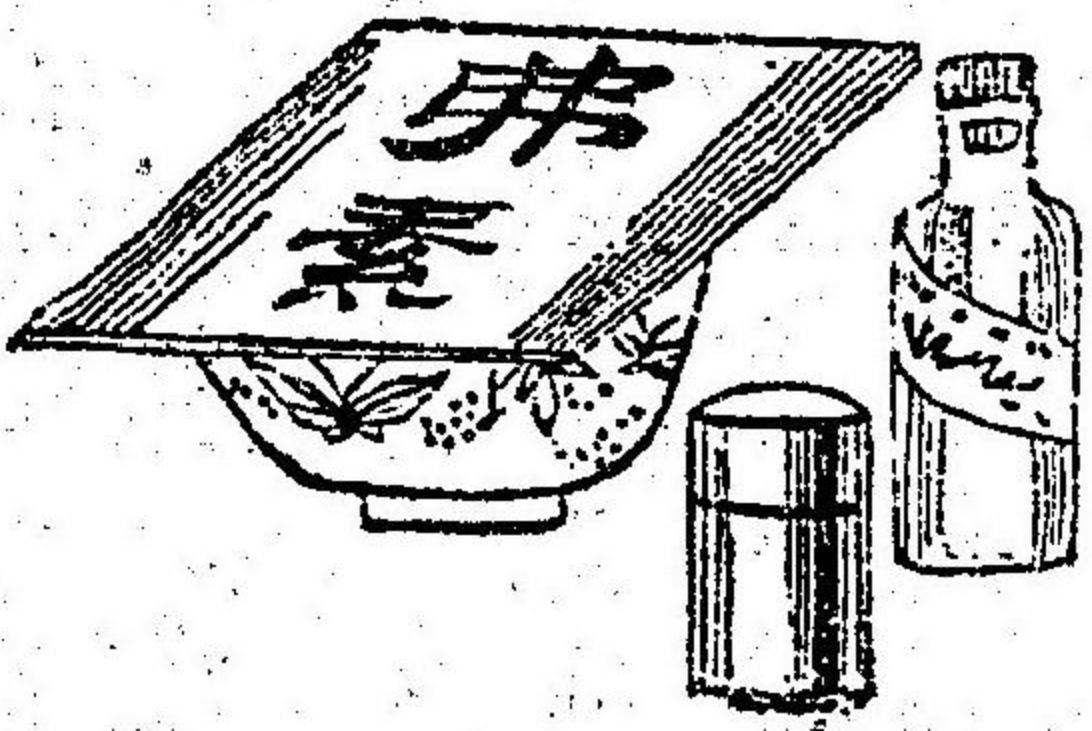
(理由)走馬燈ノ廻轉致シマスルハ全ク燈火ガ空氣ヲ動かカシマスルニ因ルヲハ宛モ風車ノ風ニ於ケルガ如クデムリマ



スガ故ニ凡テノ細工立ハ成ヘク輕キヲガ肝要デムリマス

○第二十八 硝子ニ書畫ヲ見ハス法

茲ニ御覽ニ入レマスルハ硝子ニ文字ナリ山水ナリ勝手ニ
 書キ見ハス奇法デムリマスガ一体世ノ中ニ澤山ノモノガ
 ムリマスマナレモ硝子程硬イモノハ甚ダ
 少クアリマス鐵ノ如キモノヲ以テモ中
 々硝子ハ疵モツケルヲ出來マセヌ
 左程ニ硬イ硝子デムリマシテモ藥品ヲ
 以テ致シマスルキハ容易ニ書畫ヲ見ハ
 スノ出來マスル諸茲ニ持テ出テマシ
 タルハ一個ノ鉛製ノ乳鉢デムリマス是ハ斯様ナル白色ノ
 藥品ヲ收メ次ギニ或水藥ヲ注ギマシテ諸此硝子板ヲ以テ



蓋ヲナシ少シク温メテ取り放シ水ニテ洗ヒマスル時ハ斯
 様ナル文字が見ハレマシタ何ント奇妙デハムリマセヌカ
 (ヒヤ) (弗素ト書イ)

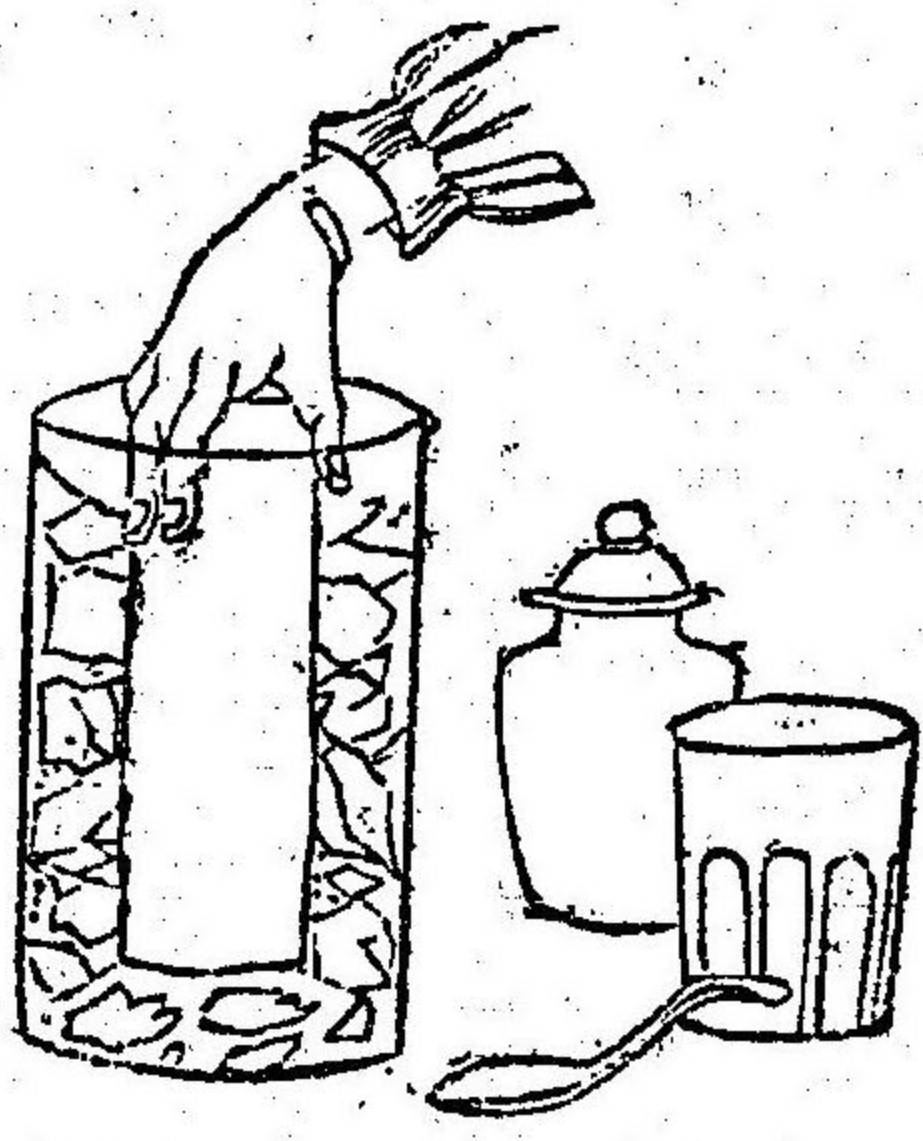
(理由)今此理由ヲ御話致シマスルガ是ハ硝子面ニ見ハレマ
 シタ通り弗素ト申ス極メテ有毒ナル瓦斯ノ勢力デムリマ
 スガ一体此氣ハ硝子ヲ腐敗セシムル力ヲ有シマス柄シテ
 硝子ハハ書畫ヲ見ハシマスルニ是非トモ是ガ必要デムリ
 マス其法ハ鉛ノ皿ハ蝋石ト申ス藥ヲ收メ同時ニ硫酸ヲ注
 キ込ミマスルキハ忽チ弗素ガ發生致シマスル依テ兼テ硝
 子板ハ一面ニ蠟ヲ塗り付ケ針ノ先キニテ書畫ヲカキタル
 モノヲ取り出シテ蓋ヲナシ暫ラク其儘ニ棄テ置キマシテ
 諸硝子板ヲ取り外シ蠟ヲ洗ヒ落スノデムリマス尤モ只今
 ノ如ク温メマスルキハ直チニ瓦斯ガ發生致シマスルナレ

○第二十八 硝子ニ書畫ヲ見ハス法

有毒ノ瓦斯ノフデムリマスガ故ニ諸君ハ蓋ヲシナガラ
二三時間日光ハ焙リツケル方ガ安全デムリマス(謹聽々々)

○第二十九 氷菓子ノ製法并ニ夏向ノ飲料

追々暑氣ガ烈シク相成リマスルニ連レテ冷タキモノヲ好
ムハ誰シモ同シ事デムリマスガ菓子類ニハ冷タキモノト
テハムリマセヌニ因テ熱キ夏日ノ來客ナドアリマスルハ



ノ用意ト致シマシテ氷菓子ノ製法ヲ
御傳授申上マセウ其法ハ先ツ大小二
個ノ鐵葉製ノ茶壺ヲ持チマシテ大ノ
方ハハ氷ノ碎キタルモノヲ入レ夫ハ
食鹽ヲ充分ニ加ハ小ナル方ハハ菓子
ノ材料即チ牛乳カ乃至ハ玉子ナドハ

能キ程ニ三盆砂糖ヲ混シタルモノヲ收メマシテ儲前ノ大
茶壺ノ中ニ入レテがさく掻キ廻ハシマスルハ暫時
ニシテ氷菓子ト相成リマス其味ノ甘美ノナルヲ何ノ位

ムリマセウ(ヒヤイ)

序ニ飲水ノヲ御話致シマセウガ是モ來客ナドハハ氷店
ナドヨリ持チ運バシマシテハ第一不經濟且ツハ品ノ善
惡ノ程モ判然致シマセヌニ因テ寧ろ汲立ノ井水ニテ美味
ナル飲水ヲ拵ヘタル方ガ宜シキカト考ヘマスル其法ハ先
ツ水呑ニ汲立ノ水ヲ盛リマシテ夫ハ三盆ヲ適度ニ入レ次
ギニ鹽酸ノ中へ箸ヲサシテ失ニテ掻キ廻シマスルハ極
上等ノ密柑水ト相成リマス尤モ鹽酸ノ代リニ拘椽酸ナレ
バ又一段ノ香味ガムリマス
旅行用ト致シテ極メテ適當ノ飲料ハ沸騰散一ニシム

○第二十九 氷菓子ノ製法并ニ夏向ノ飲料

ヤト申シマスモノデムリマス是ハ酒石酸ト鹽達トヲ買ヒ
求メマシテ別々ニ紙ニ包ミ置キ入用ノ時出シテ二ツノ水
香ニ適宜ノ水ヲ入レ右ノ兩藥ヲ一ト三位ノ割合ニ溶シ
之ヲ混シマスルハ忽チ劇シク沸騰致シマス其沸騰中ニ猶
豫ナク飲ムノデムリマス(謹聽々々)

○第三十 銅ヲ以テ水ヲ青クスル法

並ニ金銀ノ鑑定法

諸君ヨ爰ニ私ガ御覽ニ供シマスルハ一片ノ銅ヲ以テ清水
ヲ青色ニ變化サスル奇法デムリマスガ此水香ニ注ギアル
處ノ水ハ透明無色更ニ怪ムベキ點ガムリマセヌ併シ今此
一小銅片ヲ投ケ込ミ少シク温メマスルハ眞此ノ通り水
ハ忽チ美麗ナル綠色ト變シマスル(拍手喝采)何ント奇態デ

ハムリマセヌカ

(理由)種仕掛ノナキ水ヲ以テ決シテ斯様ナル怪シキ變化ヲ
起スコトハ出來マセヌ清水ト見セ掛ケマシタルハ其實極メ



テ有毒ナル而モ一度御話致シタルコト
ノムリマシタル例ノ硝酸ヲ水ニ和シ
テ稀釋致シタルモノデムリマスル硝
酸ノ有機質ニ作用シ及ボスコトハ既ニ
御話致シマシタルガ一体此劇藥ハ有
機質ノミデナク金屬ニモ非常ニ其作
用シ及ボスコトハ今此銅片ノ悉ク溶解

シタルヲ以テモ察スルコトガ出來マスル(藥ナリ)
斯ル劇シキ勢力ヲ持テマスルガ故ニ從ヒテ功用モ中々ム
リマス其一ニ御話致シマスルガ金銀ノ純不純ノ如キモ

○第三十 銅ヲ以テ水ヲ青クスル法

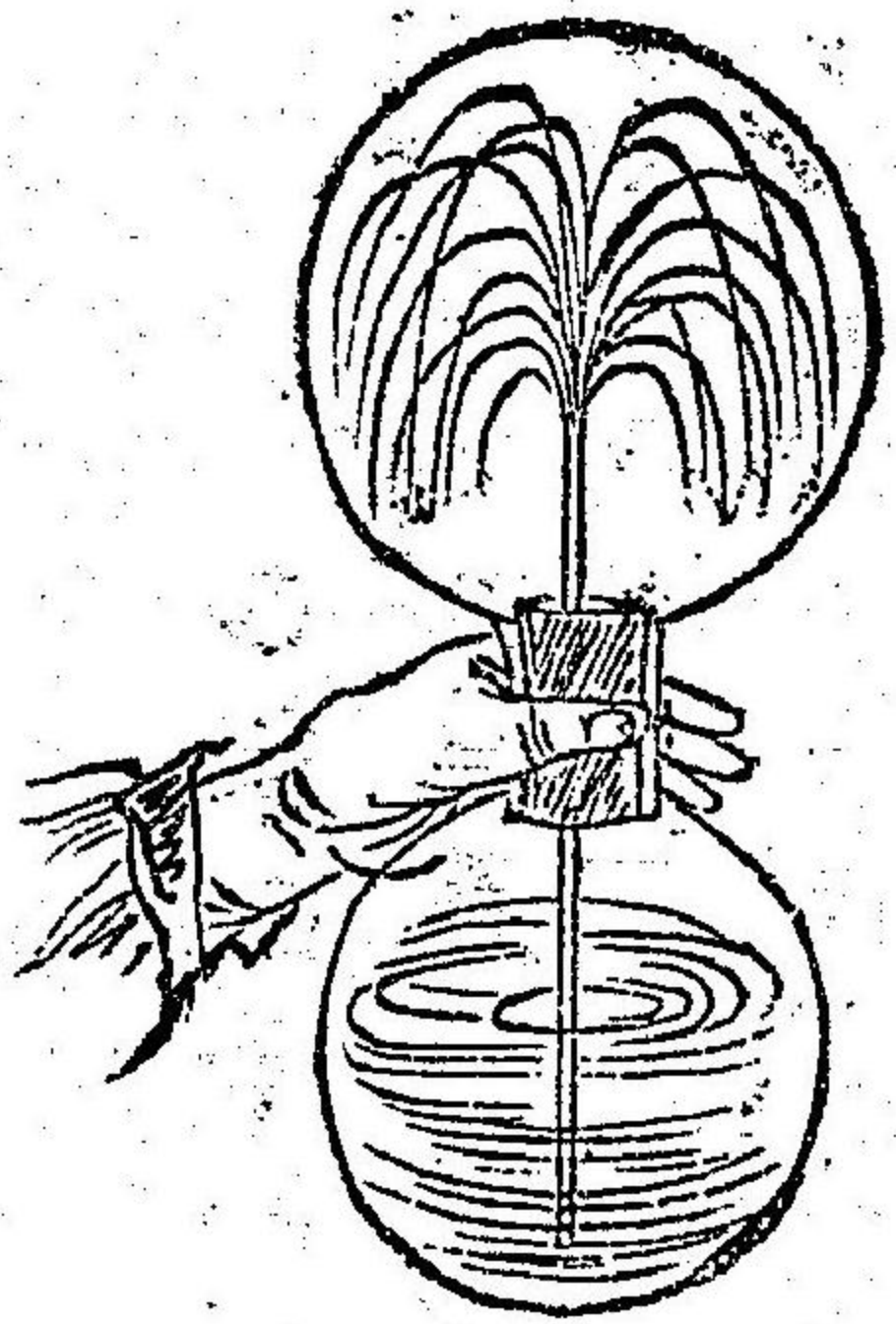
至ク此硝酸ノ爲ニ判定スルヲ出来マヌル其法ハ先ツ試
 ミント致シマヌル金銀ヲ黒基石ニ捺リ付ケ硝酸ヲ注キカ
 ケマヌルキハ若シ純粹ノ黄金デムリマヌレバ決シテ變化
 ハムリマセヌガ混物ガムリマヌルキハ忽チ溶ケテ跡ガナ
 クナリテ仕舞イマス其故ハ金屬ニテ硝酸ニ溶ケヌモノハ
 純粹ノ黄金ト池ニ白金ト申シマヌル貴重ナル金屬ノミデ
 ムリマヌ銀ノ如キハ勿論硝酸ニ溶解致シマヌルガ其溶解
 スルニ自ラ遅速ガムリマシテ純不純ヲ判定スルヲ出来
 マヌル(謹聽々々)

終ニ至リ一言申置ク「ガムリマヌ夫ハ他ノ事デハムリマ
 セヌガ一体極メテ純粹ナル金銀ハ柔カ過キテ實際ノ利用
 ニ相成リマセヌ柄シテ大概幾分カノ銅ヲ混シテ諸種ノ役
 ニ立タセマヌル我日本ノ金銀貨ハ目下世界中ニ於テ最

上ノ地位ヲ有シマヌル程(ヒヤクノモノデムリマヌガ矢
 張り幾分ノ銅ヲ含ソデ居リマヌル其ヲ試ミント致シマヌ
 ルニハ金銀貨ヲ少シク切取りマシテ硝酸中ニ投ケ入レマ
 スルキハ忽チ前ノ試験ニ於ケルガ如ク青色ノ液ト相成リ
 マヌ

○第三十一 永久噴水ノ新法 其三

噴水ノ奇術ニ付キマシテ私ハ既ニ二回マデ御傳授申上マ
 シタルガ今又爰ニ極メテ不可思議ナル噴水ノ術ガムリマ
 ス御覽ノ如ク斯様ナル二箇ノ同シ球形ノ硝子罐ヲ一個ノ
 木栓ニテ連接致シ木栓ノ中央ニハ兩端ノ細ク尖リマシタ
 ル硝子管ヲ以テ貫キマシテ兩罐ノ殆ソド頂點ニマデ至
 如ク作り一個ノ罐内ニハ水ヲ充分満タシタルモノデムリ



マニ儲私ハ此ノ水ヲ入レタル方ノ罐ヲ下ニシ水無キ罐ヲ
 上ニ致シマヌルキハ水ハ忽チ下球ヨリ噴水シテ上球ニ充
 チマヌル其處デ今處ハ之ヲ反對ニ持チ直シマヌルキハ又
 下球ヨリ水ガ噴水シテ上球ニ登リ
 マス幾回ト雖モ決シテ異ナルハ
 ムリマセヌ因テ私ハ之ニ永久噴水
 器ノ名ヲ命シマシテ不適當デハム
 リマヌマイ(拍手喝采)

(理由)此ノ永久噴水ノ奇器ハ至ク空氣ニ關係ヲ持チマヌル
 ガ一体此器ヲ作リマヌニハ先ツ一個ノ玻璃球内ニ水ヲ甚
 ダ少シク入レ他ノ一個ニハ水ヲ滿盛シテ是ニ硝子ヲ貫キ
 マニタル長キ木栓ヲ嵌メ置キ儲水ノ少キ方ノ罐ヲ火の上ニ
 カケテ稍少時ヲ經マヌルキハ御案内ノ如ク熱ノ爲メ水ハ

悉ク蒸氣ト相成リマシテ空氣ハ罐内ヨリ追ヒ出サレマヌ
 其處デ直チニ今一個ノ水ヲ滿盛シタル罐ト接連致シ外氣
 ノ入り込マヌ様ニ封蠟ト云フモノヲ塗リ付ケマヌルキハ
 程經テ蒸氣ハ液体ト相成リ真空ヲ生ヨマヌ因テ下球ノ水
 ハ忽チ其真空ヲ填メント致シマシテ自然ニ上昇致シ又其
 處ニ真空ヲ生ジマヌ斯様ニ上下兩球交々真空ヲ生ズルカ
 ラシテ始終噴水ノ絶ユルハムリマセヌ何ント奇妙デハ
 アリマセヌカ(ヒヤク)

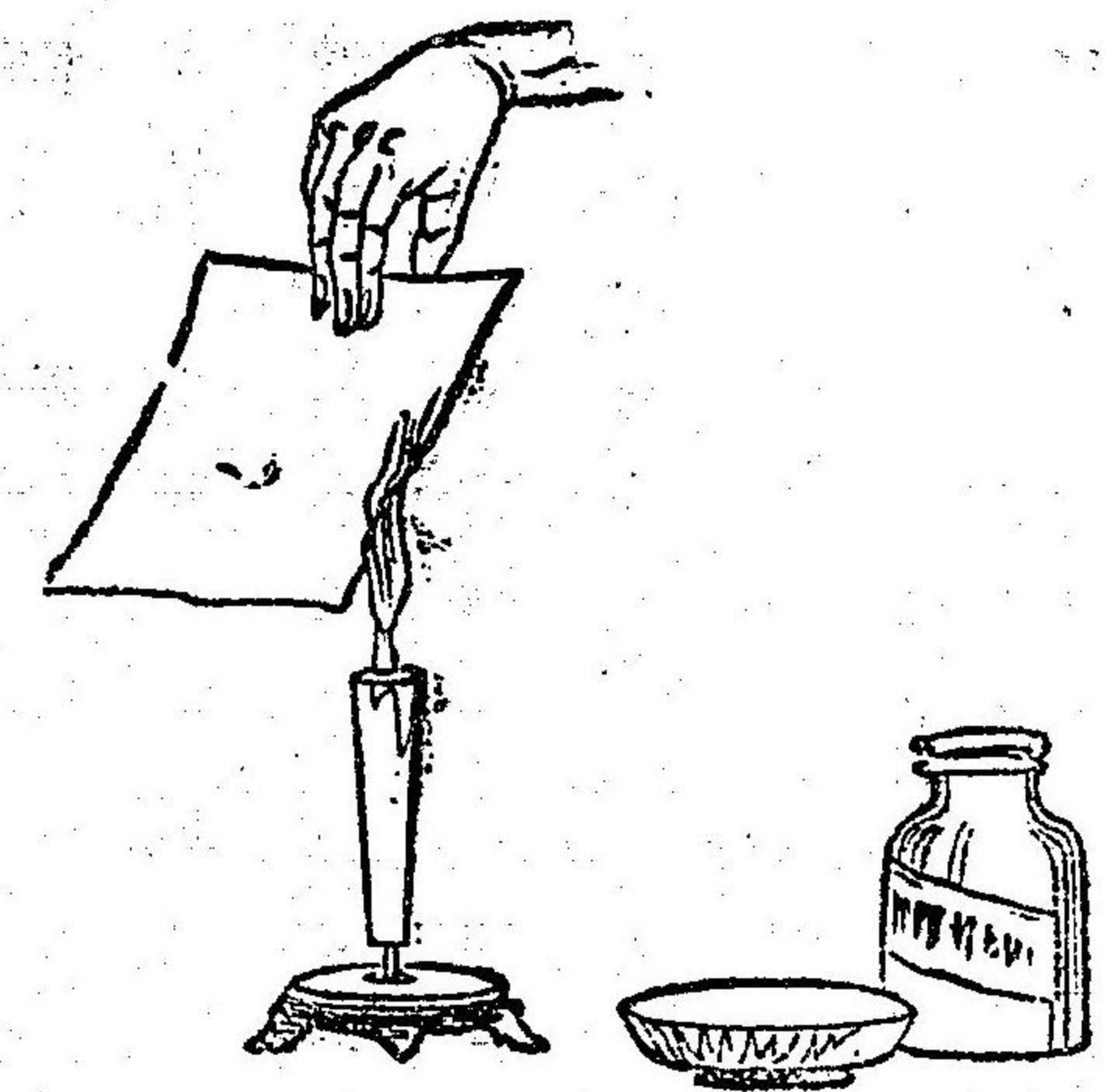
○第三十二 燃ヘザル紙ヲ製スル法

紙ハ素ヨリ燃ユベキ管ノモノデムリマヌルガ學理ヲ應用
 致シマヌルキハ決シテ燃ヘザル紙ヲモ製スルハガ出來マ
 ス勿論石綿ナドヲ製スル様ナ面倒臭イデハムリマセヌ

○第三十二 燃ヘザル紙ヲ製スル法

諸今私が取出シマシタルハ通常ノ半紙デムリマスガ斯様ナル盛ニ焰チ上ケタル燭火ニ近ヅケマスルモ紙ハ依然ト

シテ宛モ薄キ板金ノ様デムリマス何ント諸君不可思議ノ譯デハムリマセシカ(ヒヤク)



(理由)例ニヨリ私ハ此ノ奇紙ノ製法ヲ御話致シマスガ是ハ明礬ト申ス白キ滋味アル藥品ヲ充分濃ク水ニ溶解シマシテ其中ニ適宜ノ半紙ヲ浸シ乾シテ又浸シ凡ソ三四回モ同一ノ手順ヲ經マスルキハ紙ハ全ク明礬ノ質ヲ吸ヒ込ミ遂ニ御覽ノ如キ不燃紙ト相成リマスル蓋シ明礬ハ紙ノ纖維ヲ極メテ緻密ニナス作用ヲ有スルモノデムリマス

○第三十三 玻璃鏡ノ製法并銀流ノ一

諸君ヨ今日ハ餘程便利ナル世ノ中ト相成リマシテ婦人方ノ朝夕欠クベカラザル鏡ノ様ナモノモ昔ハ皆銅ヲ以テ製シマシタガ故ニ持チ運ビニ甚ダ不便デムリマシタガ近時ハ大ニ理化ノ學問ガ進歩イタシマシテ硝子ヲ以テ容易ク製出スル様ニ相成リマシタ私ハ今諸君ノ目前ニ於テ一箇ノ玻璃鏡ヲ製出シテ御目ニ掛ケマセウ(ヒヤク)爰ニ一枚ノ二寸方形ノ硝子ガムリマス之ヲ能ク拭キ清クマシテ成丈油氣ノナキ様ニ致シ斯様ナル銀色ノ柔カキ餅ノ如キ者ヲ白紙ニ塗り付ケ之ヲ硝子ノ一面ニ貼リ付ケマヌルキハ忽チ立派ナル一個ノ玻璃鏡ト相成リマス(ヒヤク)

○第三十三 玻璃鏡ノ製法并銀流ノ一

(理由)斯ノ即席ニ一枚ノ玻璃鏡ヲ製リ得ルトハ豈簡易ナルコトデハムリマセヌカ此ノ銀色ノ塊ハ果シテ何デムリマス

カ是ツ即チ液体金屬ノ水銀デムリマス水銀ハ御承知ノ如ク其儘ニテハ宛モ芋葉ノ上ニ雨滴ノ轉々スルガ如ク決マテ自由ニ取扱フハ出来マセヌ其處デ先ツ錫ヲ二水銀一ノ割合ニテ溶解混合致シマスルキハあまるがむト申シマシテ極柔カキ金屬ト化シマス斯クあまるがむト相成リマシタ已上ハ丁度餅ノ如キ鹽梅デムリマセガ故ニ自在ニ使用スルコト出来マスル(成程々々)

序ニ申上マスルハ世上ニ銀流ト申シマシテ一種不思議ナル磨粉ヲ以テ眞鍮製ノモノチ即席ニ銀色ニ變セシメ頻リニ功能ヲ述ベ立テ、田舎漢チ欺クモノガムリマセガ彼ノ磨粉モ矢張り此ノあまるがむチ外見チ飾ランガ爲ニ砥粉ノ内ニ混和シタルモノデムリマセ水銀ハ極メテ有毒ノ者デムリマセガ故ニ銀流ノ眞鍮煙管ナドチ喜ンデ口

ニ咬ヘル徒ハ誠ニ憫然ノ至リデムリマス(ヒヤク)(謹啓々々)其他水銀ノ功用ハ或ハ殺虫劑ニ或ハ寒暑針ニ中々數ヘ盡サレヌ程ムリマセガ奇術外ニ至ルノ忍レガムリマセレバ此ニテ中止ト致シマセウ(賛成々々)

○第三十四 白雲ヲ起ス法



煙管ヲ二本持チ出シテ來テ私ハ今白雲ヲ起シテ御覽ニ供シマスト申シマシタナレバ諸君ハ何ソダ人チ馬鹿ニスルナ已ダツテ煙草ヲ吸ハバ白キ煙ハ起スゾト必ズ申サレマセウガ私ハ決シテ左様ナル拙劣ナルコトヲ致シマセウ私ガ持チ出シマ

シタル此ノ煙管ニハ決シテ煙草ガ入用デムリマセヌ火ハ
猶更ッバハモ置キマセヌ只此ノ二本ノ煙管ヲ斯様ニ重キ
口ニ咬ハサハ致シマズルキハ眞此ノ通り白雲簾々ト立チ
昇リ室内ニ滿チマズル(拍手喝采)



(理由)サテ今此ノ理ヲ御話致シマ
スルニ先ダチ此ノ二本ノ管ヲ打
碎キテ如何ナル仕掛ケガアルヤ
ラ一覽ニ備ヘマセウ諸君ヨ御覽
ノ如ク中ニハ綿ヲ滿タシテムリ
マズ外他ニ何モ見當リマセヌ去
レバ此ノ綿ニ何カ仕掛ガムリマ
スニ違ヒアリマセヌ(成程)勿
論此ノ綿ニハ鹽酸ト安母尼亞ト

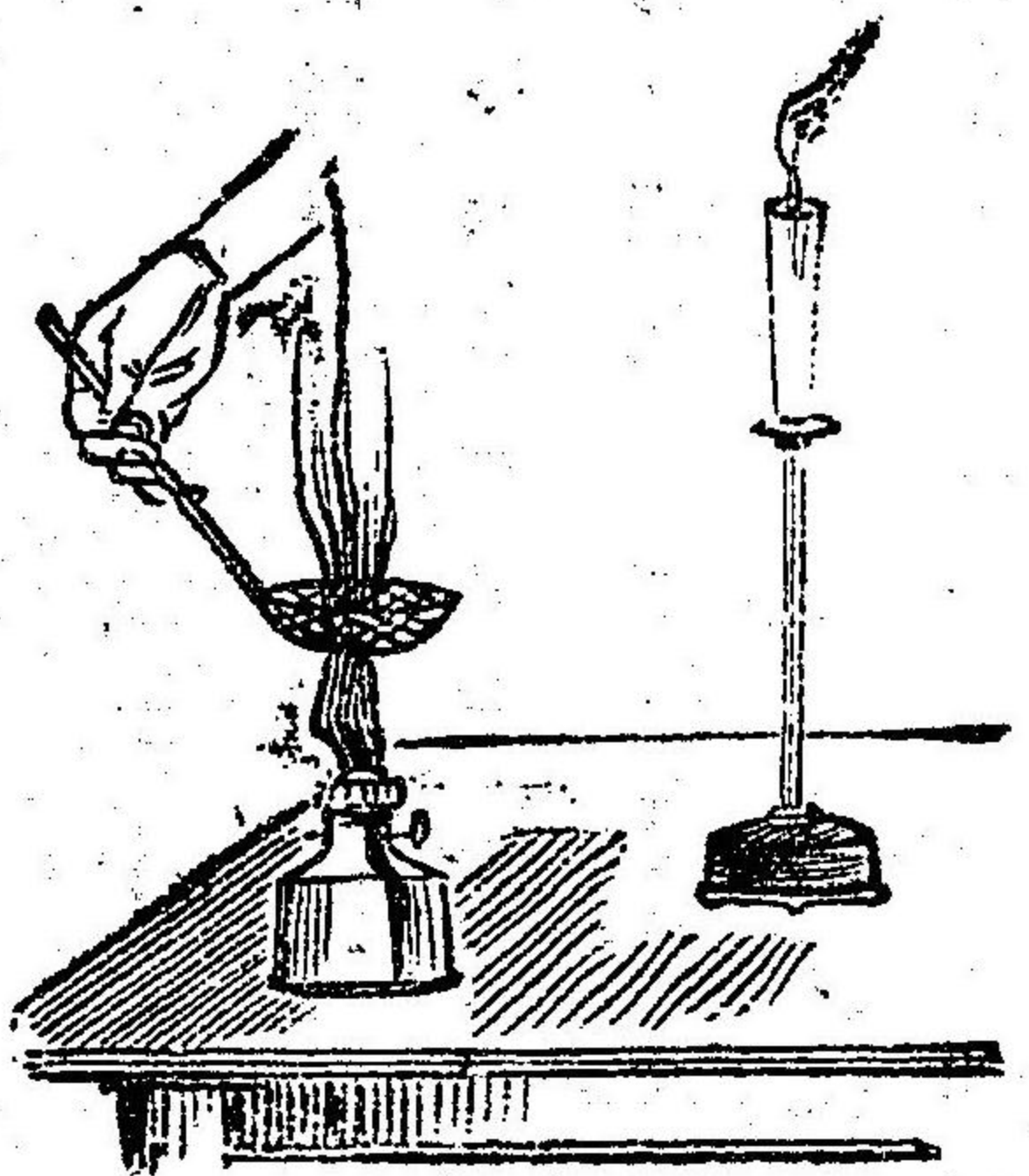
用シマズ水藥ヲ充分ニ含マセテムリマズガ一体此ノ鹽酸
ト安母尼亞トノ氣ガ相觸レマズルキハ忽チ白煙ヲ起スモ
ノテムリマズ其證據ヲ御目ニ掛ケンニ先ツ鹽酸ノ燻ト安
母尼亞ノ燻トチ並ベ置キ口ヨリ平ニ呼氣ヲ吹キ掛ケマス
ルキハ此ノ如ク同ク白雲ノ飛散スルヲ認メマス何ント
奇妙デハムリマセンカ(ヒヤ)

○第三十五 五色蠟燭ノ法

諸君ヨ今回諸君ノ御覽ニ供シマズルハ五色蠟燭ノ法ト申
シマズルモノデムリマズ五色蠟燭ト申シタトテ決シテ五
色ノ蠟燭ガアル譯デハムリマセヌ即チ一本ノ蠟燭ヲ點シ
テ燃ユルニ從ヒ其炎色ヲ變化サスルノテムリマズ諸君此處
ニ持チ出シマシタルハ通常ノ蠟燭デムリマズガ何處ニ種

○三十五 五色蠟燭ノ法

七十七



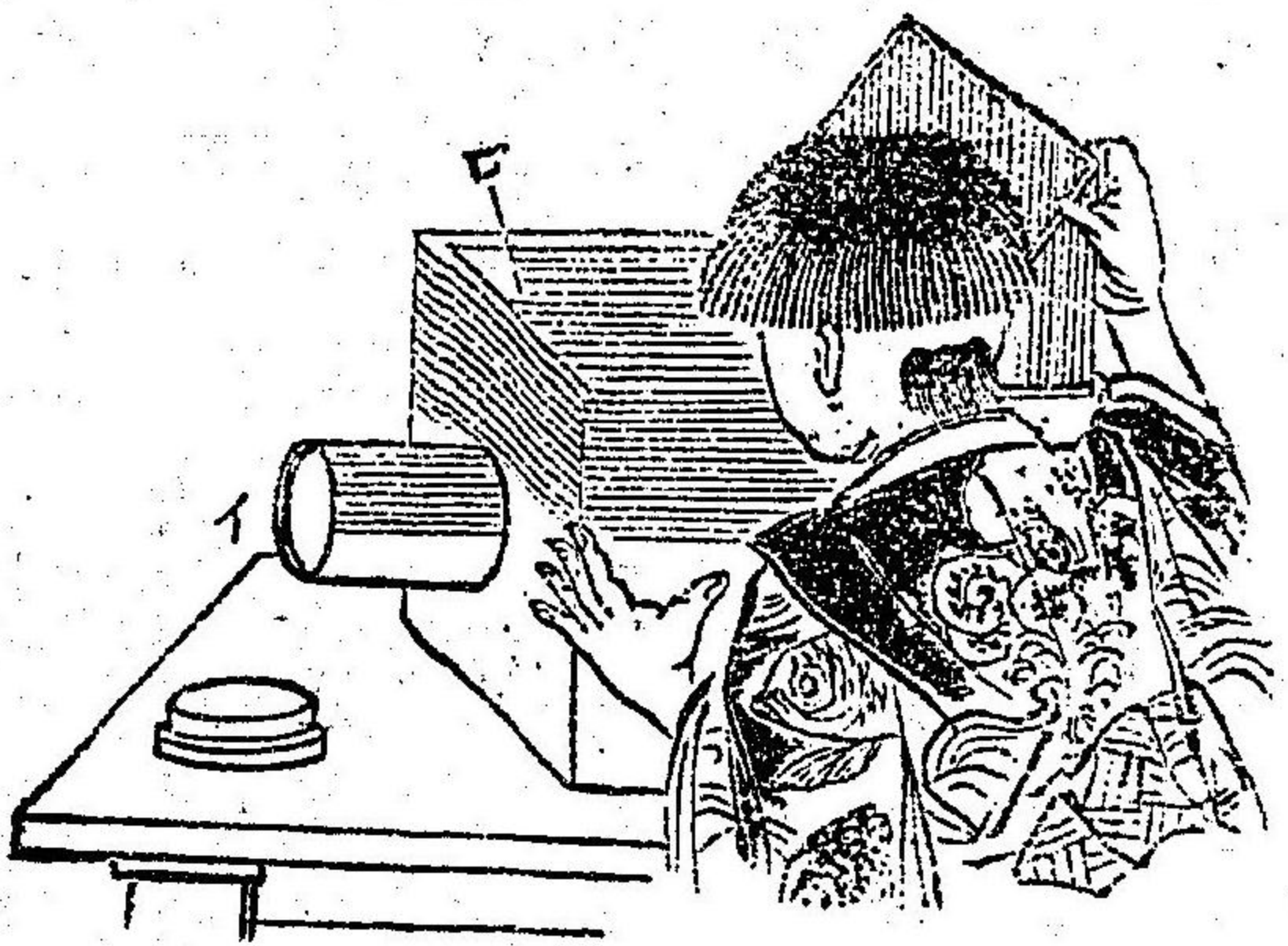
仕掛ノアル様ニハ見ヘマセヌ
 々御調査ヲ願ヒ升(成程アタ)リ(君御場ヲ碎)碎
 ハサレテハ大變デムリマス先ツ
 摺附木ヲ以テ點火致シマス最初
 ハ通常ノ火色デムリマスルガ漸
 次深紅色宛ガラ血ノ如ク相成リ
 マス(ハイヤコレ)

深紅色ガ相濟ミマスレバ次ハ黃色ニ變ズルデムリマセウ
(成程黃色)
 黃色ガ御目留マリマスレバ次ハ美麗ナル綠色ト變化致サ
 セマス(妙ダ)
 綠色ガ首尾克終リマスレバ次ハ無類飛切ノ深紫色ト相成
 リマス(拍手喝采)

是ニテ五色蠟燭ノ打留デムリマス(色足ラズ)否々左様デハ
 ムリマセヌ紅、黃、綠、紫(四色ダ)是ニ本來蠟燭ノ火色ヲ加
 ヘ取リモ直サズ五色デムリマス(アハ、ハ、ハ、)
(理由)五色蠟燭ノ理由ト申シマシテハ別段ムリマセヌガ只
 各種ノ炎色ヲ現ハシマスル藥品ヲ燭心ニツメ込ミタル斗
 リデムリマス即チ是ヲ有ノ儘ニ實驗致シマスルニハ酒精
 燈ノ炎上ニ金網ヲ以テ作レル小サキ匙ヲ充テ之ニ各種ノ
 藥品ヲ盛リテ燃ヤシマスルハ殊ニ美麗ニ見ルガ出來
 マスル其藥品トハ何カ曰ク深紅色ハ硝酸ス篤倫胃母、黃色
 ハ胃母鹽綠色ハ硝酸稜留、紫色ハ沃度デムリマス尤モ
 煙火術ニ使用致シマスルニハ尙少シク合藥ヲ要スル柄致
 シマシテ爰ニハ畧シ後ニ至リテ詳シク御傳授致スデムリ
 マセウ(ド、君ヨ)

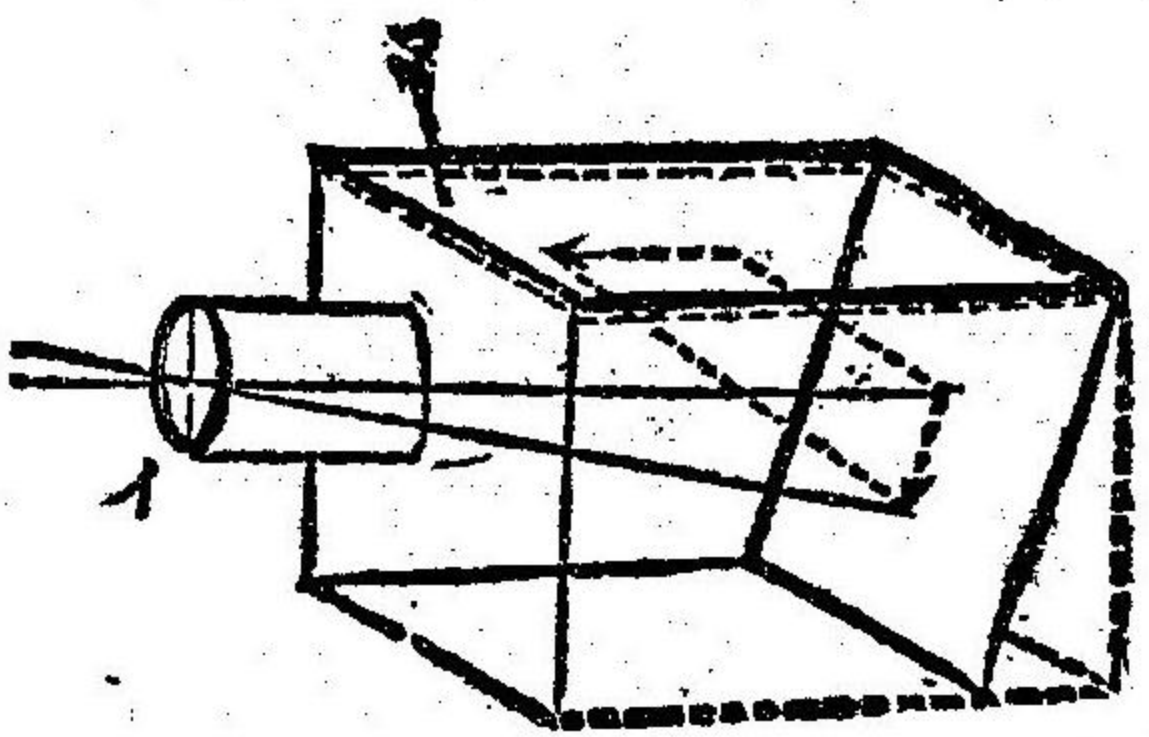
○第三十六 寫真箱ノ製法

私ハ愛ニ一個ノ箱ヲ持參致シマシタルガ此ハ蓋ヲ開ケマ
スヤ否ヤ天地間ニ存在スル萬物ハ隨意ニ何ナリトモ生寫



シニ現ハストガ出來ルト云フ一種
變挺ナル箱デムリマス即チ今諸君
ノ方へ此箱ヲ向ケテ試ニ開キテ見
マスニ忽チ諸君ノ結構ナル御面想
ガ其儘ニ映リ出マシタ(失敬チ)虚囁
ナレバ來テ御覽(イハ妙ダ) (今君ノ顔ヲ
見テ居ル所ダ)
(理由)是ヨリ悉ク此不可思議箱ヲ打
チ碎ワシ否分解シテ一々説明致セ

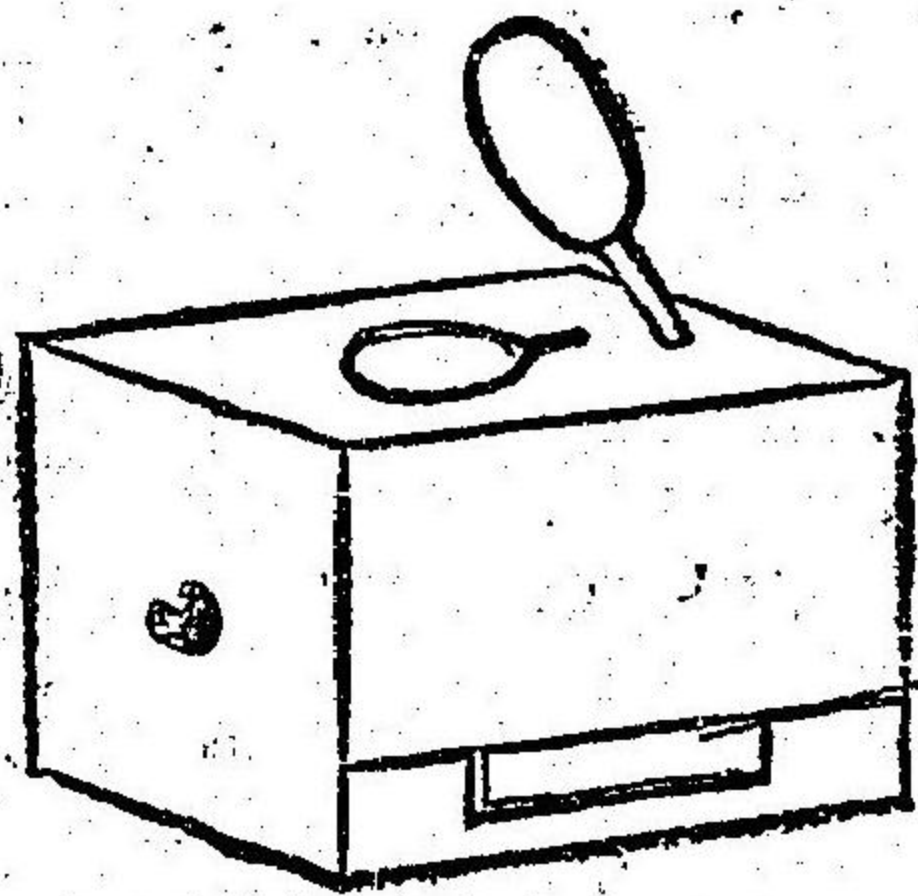
升ガ斯様ニ此箱ハ内面ニ玻璃鏡ヲ立テ掛ケマシテ(イ)ノ處
ニハ凸形れんすチ嵌メ以テ光線ノ入り來ルベキ通路ト致
シ(ロ)ノ處ニハ金剛砂ヲ以テ細カク磨
キタル硝子板ヲ以テ蓋ヒト致シテム
リマス備如何ナル物像ニテモ一度(イ)
ノ處ニアタリマスル時ハ直チニ屈折
シテ内部ノ鏡面ニ其像ヲ寫サント致
シマスルガ鏡ハ眞直ニ立ズシテ斜ニ
立掛テムリマスル柄シテ物像ハ反射
セラレテ(ロ)板ニ至リマスロ板ハすり
硝子デムリマスガ故ニ其光線ヲ留メテ決シテ他へハ送り
マセヌ其處デ物像ハ遂ニ其形ヲ現ハサナクテハ成リマセ
ヌ光線反射ノ理ヲ應用致シテ斯ル面白キガ出來マスル



○第三十六 寫真箱ノ製法

トハ豈奇態デハムリマセヌカ(ヒヤク)

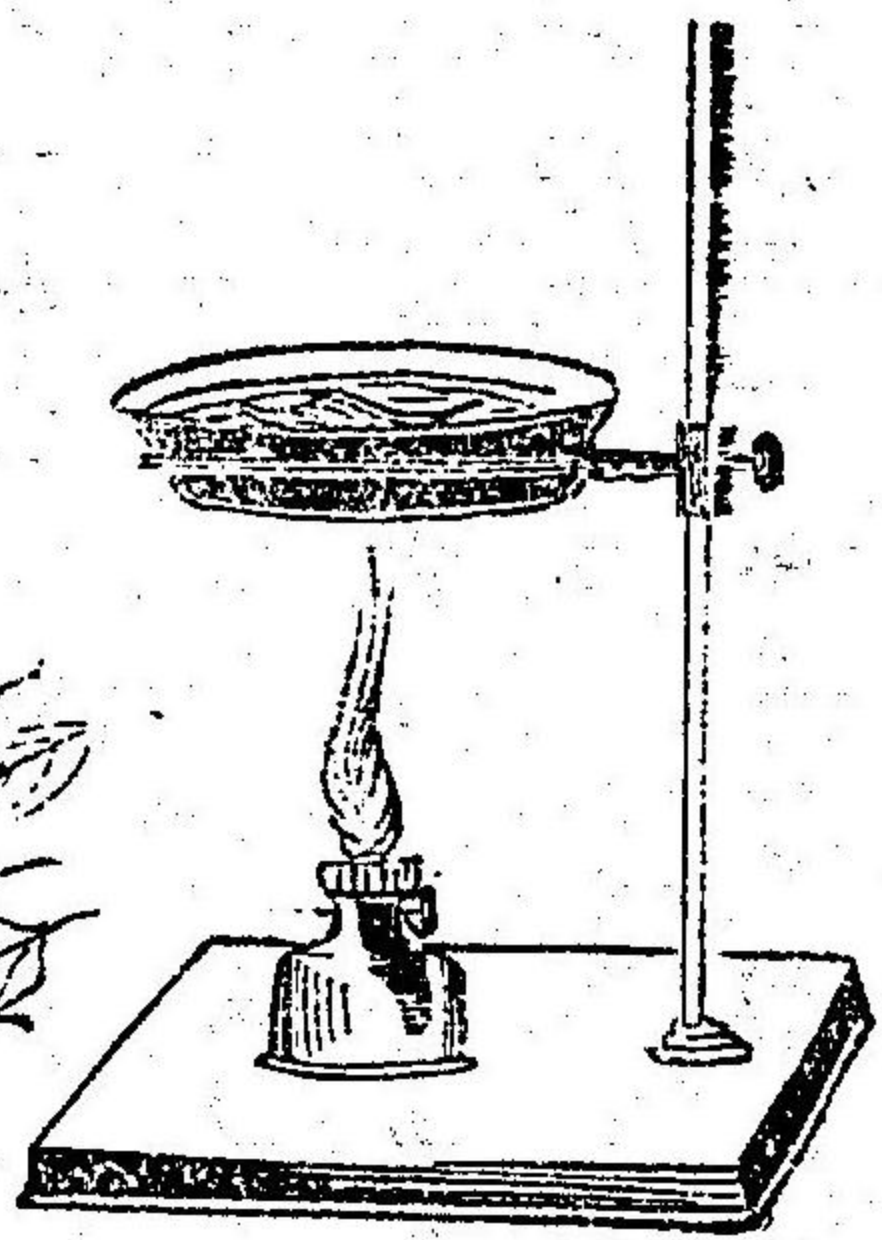
序ニ申上マスガ諸君ハ斯ル立派ナル構造デハ迎モ自分デ
 實驗スル譯ニハ行カスト殘念ガラレマ升柄シテ私ハ極メ
 テ手輕キ一法ヲ御傳授致シマセウ即チ白墨箱位ナル少サ
 キ箱ヲ拵ハマシテ蓋ヘ丁度持合セノ蟲鏡眼丈ノ丸キ孔ヲ
 アケ又一方ノ橫板ヲ底ヨリ凡ソ五分計リノ處ニテ兼テ底
 ニ敷キ置キマシタル西洋紙ヲ充分ニ見ル
 一ノ出來ル様ニ長方形ニ孔ヲ明ケマシテ
 措テ何ナリトモ寫サント思フ所ノモノガ
 ムリマシタルバ小形ノ鏡ヲ斜ニ箱ノ上ニ
 當合ヒマシテ丁度其光線ガ蓋ノ上ニ置キ
 タル虫眼鏡ニ中ル様ニ手加減ヲ致シマス
 ルトハ忽チ鮮明ニ物像ハ箱ノ中ナル紙上へ映リマスル



ハ決シテ前ノ寫眞箱ニ劣リマセヌ而シテ之ヲ仕舞ヒ置カ
 ント致シマスルトハ鏡モ眼鏡モ共ニ其箱中へ收ムルトガ
 出來マス何ント簡便デハムリマセヌカ

○第三十七 木葉ノ條ヲ取出ス法

理化ノ玄妙ナルコトハ今更申上ルニ及バヌ事デムリマヌル
 ガ一回ハ一回ト彌々奇異ナル術ヲ
 御覽ニ入レマヌル次第ト相成リマ
 シタ備此處ニ持チ出シタルハ種々
 ナル木葉デムリマヌルガ私ハ今是
 等ノ葉ヲ暫ク平ナル玻璃皿ニ於テ
 煮沸マシテ或一種ノ藥ヲ投シ斯様
 ニ能ク掻キ廻ハシマスルトハ木葉



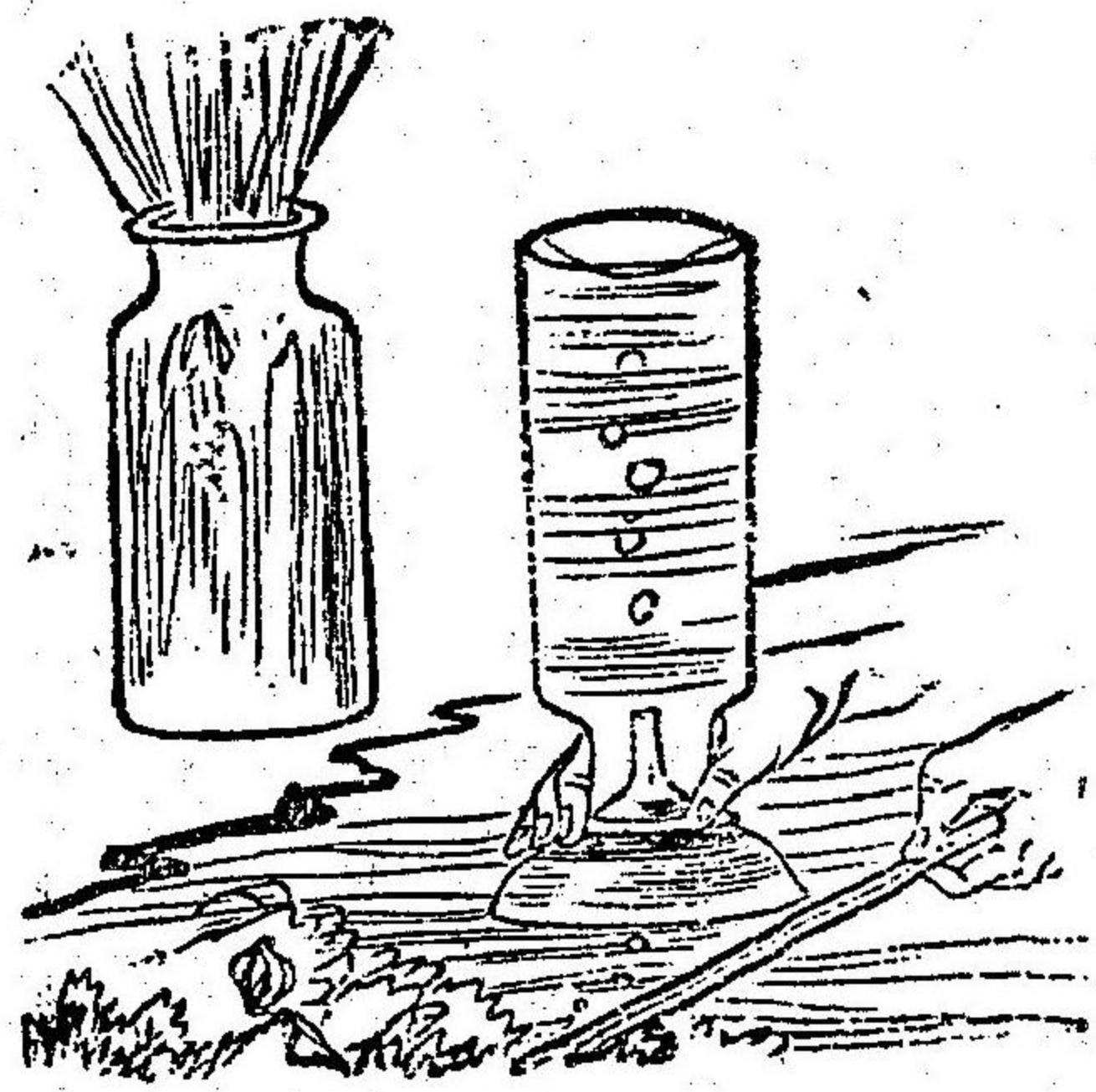
○第三十七 木葉ノ條ヲ取出ス法

ハ肉ヲ失ナヒ骨ノミトナリヲ見ハレマス(イタ是ハ)(木葉ノ骸骨ハ)
(理由)諸君ヨ此葉條ヲ若シモ吾々ガ小刀カ乃至ハ錐ノ先ニ
テ一々取り出サント致シマシタル中々容易ナルイデハ
ムリマセヌガ藥品ノ勢力ハ斯クマデニ恐ロシキ者デムリ
マス其藥品トハ何カ即チ奇性剝篤亞斯ヲ稀釋シタル溶液
デムリマス
剝篤亞斯ハ能ク物質ヲ柔軟溶解スルノ性ヲ有スルモノデ
ムリマスガ葉ノ肉ト條トハ自然其硬度ヲ異ニ致シマスカ
ラシテ葉ノ綿ノ如ク成リマスルキ取り上ケ板ナドノ上ニ
載セ齒磨用ノ極メテ柔カキ毛楊枝ヲ以テ靜カニ撫デマス
ルキニハ肉ハ悉ク落チ纖維ノミ誠ニ奇麗ニ殘リマス(成程)
是ハ實ニ昨今ノ發明デムリマス尤モ手馴レヌ内ハ成丈剛
キ丈夫ナル葉ヲ宜シト致シマス

○第三十八 自然ノ燃燒氣

諸君ヨ諸君ハ此迄幾回ノ奇術ニ置キマシテ全ク縁ノナキ
處ヨリ發火スルヲ御覽ニ相成リマシタルガ夫等ハ孰レ
モ皆多少價ヲ有スル藥品ノ作用ニ依ルヲデムリマスルガ
爰ニ私ガ持チ出シマシタルハ天然ニ即チ造物者ノ自製ニ
相成リマシタル(大笑)一種奇態ナル氣體デムリマス斯様ニ
諸君ノ目前ハ差出シマスモ誰トテ此體中ニ他物アルヲ
認ムルヲハ出來マセヌ蓋シ此氣ハ全ク透明無色ノ故デム
リマスル今私ハ摺附木ニ點火致シマシテ蓋ヲ去ルト同時
ニ體口ハ近ツケマスレバ斯ノ如ク淡青色ノ炎ヲ發シテ發
火致シマス(拍手喝采)
(理由)惜此不思議ナル燃燒氣ハ實ニ天然ニ發生致シマスル

ノミナラズ而モ水中ヨリ採リ集メルノデムリマヌ何ント
 信ズベカラザルヲデハムリマセンカ(ヒヤク)此瓦斯ハ俗
 ニ沼氣ト申シマシテ多量ノ水素ヲ含有致シマヌルガ素ト
 澤邊ニ叢生致マヌル千草ノ年ヲ經
 テ腐敗シ其中ニ生シタルモノデム
 リマヌガ故ニ是ヲ採集致シマヌル
 ニハ硝子罎一個ト大形ノ漏斗トヲ
 持マシテ水流ノ淺ク且ツ激タル沼
 カ或ハ田間ノ溝渠杯ハ參リ最初硝
 子罎ハ水ヲ滿盛致マシテ其儘水中
 ニ於テ倒ニ致シ脱ツカト左手ニテ持チ罎ノ口ヲ殆ソド
 水際ニオキ併シナガラ決シテ水面ヲ離レヌ様ニ致シマシ
 テ諸先キノ大漏斗ヲ罎口ヘ當合ヒ右手ニ棒ヲ持チテ成丈



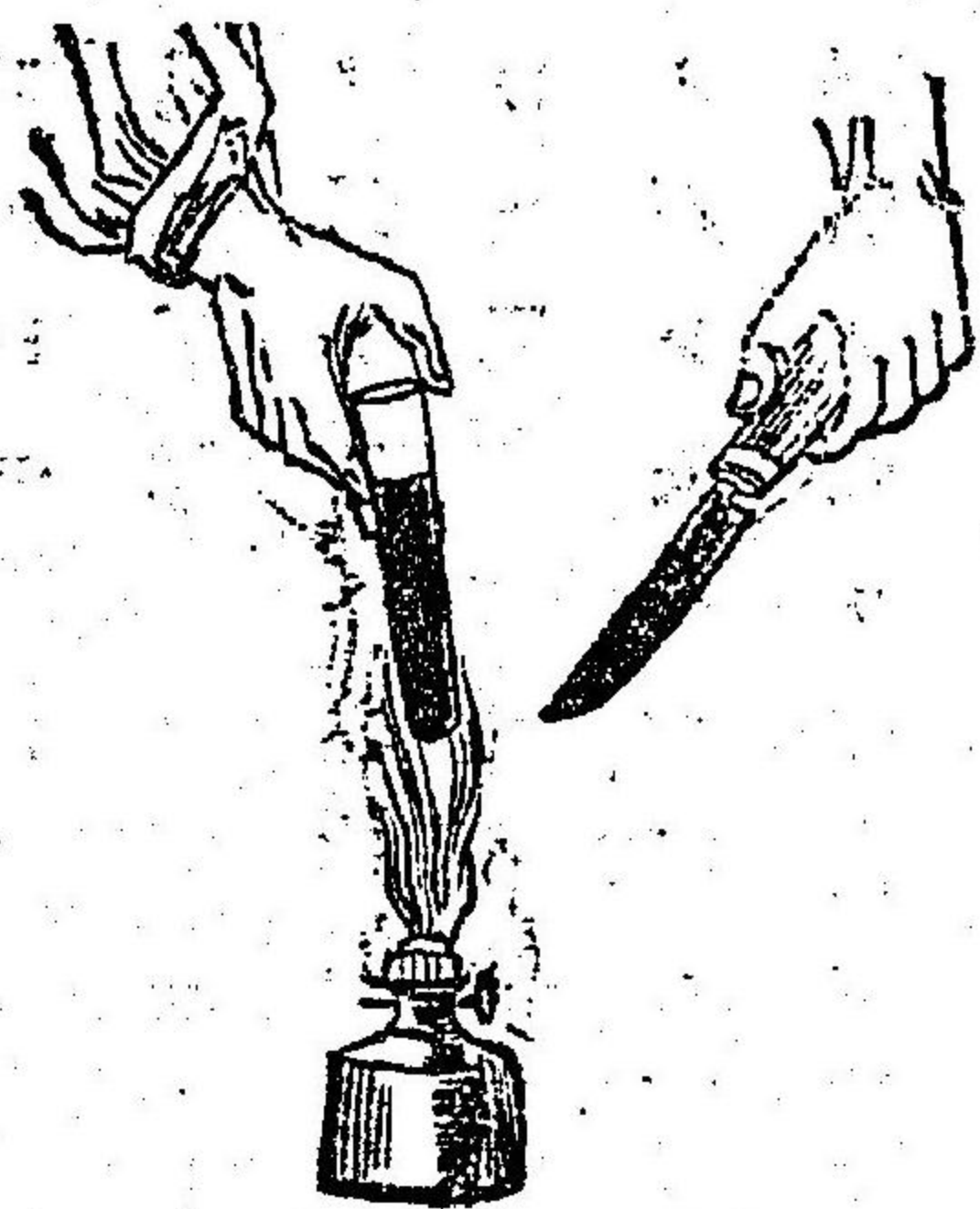
ケ水草ナドノ腐敗シ居ルナラント思ハルベキ箇所ヲ見ッ
 ケ出シ六茶丸茶ニ突キマヌルハぶくくト一種ノ氣泡
 ガ浮ビマス其處デ其氣泡ヲハ隙サス漏斗ニテ受ケ留メマ
 スルハ罎内ノ水ト氣泡トガ交換イタシ間モナク罎ハ無
 色ノ氣体ヲ以テ滿サレマス因テ手或ハ小サキ板ヲ以テ罎
 ノ口ヲ押ヘ水中ヨリ取り出シ摺附木ニテ點火致シマヌル
 片ハ只今御覽ノ如キ淡青色ノ炎ヲ發シテ燃ヘマヌル一文
 ノ錢ヲ失ハズ斯ル面白味アル奇術ヲナスヲ得ルノモ是レ
 亦私ノ否ナ學問ノ惠ミデムリ升(拍手喝采)ハハハ

○第三十九 土ヨリ金屬ヲ取出ス法

地中ヨリ金屬ヲ掘リ出スヲハ何モ奇術トスル程ノ價值ハ
 ナシト申サル、諸君モムリマセウガ私ハ決シテ鑛山事業

○第三十九 土ヨリ金屬ヲ取出ス法

ノ御話ヲ致スノデムリマセヌ柄シテ果シテ奇術トスルニ
 足ルヤ否ヤハ御覽ノ上ノ事ニ願ヒマス諸只今此處ニ並ヘ
 マシタルハ碧色白色赤色等ノ土塊ニムリマヌルガ先ツ手
 初メト致シマシテ碧色ノ土塊ヨリ
 如何ナル金屬ガ出デマスカヲ試ミ
 マセウ此土塊ノ二三粒ヲ斯様
 細キ硝子罎ニ入レ水ヲ注キマシテ
 酒精燈ニテ煮沸致サセマスル件ハ
 土塊ハ悉ク溶解シテ水ハ美麗ナル
 碧色液ト相成リマス
 其處デ兼テ磨キ澄シタル小刀ヲ此液中ニ浸シマヌル件忽
 ナ鋭利ナル白及ハ赤及ト變化致シマシタ諸君此ノ赤色ハ
 何デムリマセウ(クイフヤイ備タガ)



(理由)碧色ノ土塊ヲ煮沸シテ磨キタル小刀ヲ投シマヌル件
 ハ御察シノ如ク銅ヲ取り出ストガ出来マシタ是ノ土塊ハ
 硫酸銅又膽礬ト申シマシテ硫酸ト銅トニテ成立シタルモ
 ノデムリマヌガ一體銅ハ鐵ニ極メテ接合キ易キ性質ヲ有
 スルモノデアリマスガ故ニ斯ク雜作ナク小刀ニテ銅ヲ取
 リ出ストヲ得タルノデムリマヌ尤モ鐵ハ磨キ澄ストガ肝
 要デムリマヌ(感服々々)
 第二ニ御覽ニ供シマヌルハ白色ノ土塊デムリマヌガ是ハ
 前ノ硫酸銅ノ如ク小刀ノ尖ニテ用リ出スト云フ譯ニハ參
 リマセヌ併シ却テ雜作ナク取り出ス一法ガムリマヌ夫ハ
 此土塊ヲ少シ斗リ水香ノ内ニ入レマシテ水ヲ以テ能キ程
 ニ溶解致シ諸亞鉛ノ斯様ナル小サキ切端ヲ糸ニテ釣リ此
 水ノ中ニ沈メ暫時放棄シテ置キマヌル件ハ忽チちら

○第三十九 土ヨリ金屬ヲ取出ス法

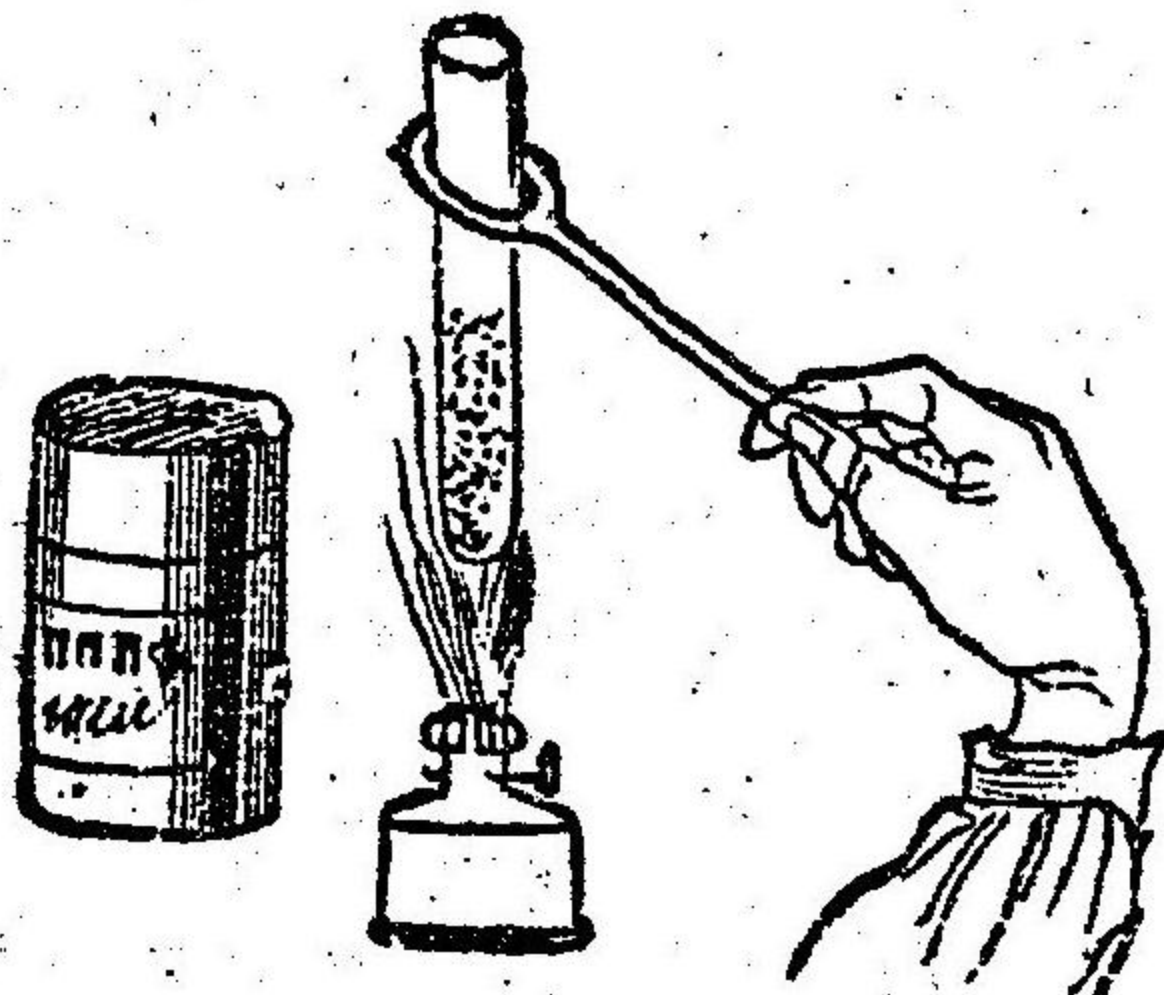
ト銀色ノ光ヲ發シマシテ亞鉛板ニ接合クモノガムリヤ
 見ル 美麗ナル銀白色ノ花ガ咲キマシタ(イヤ是ハ)
 (理由)右ノ白色土塊ハ醋酸鉛又ハ俗ニ
 鉛糖トモ申シマスルモノデアト醋ト
 鉛トガ合體シテ生シタル土塊デムリ
 マスガ御案内ノ如ク亞鉛ハ鉛ト同種
 ノ金属デムリマシテ如何ニモ仲ヨキ
 朋友デムリマスガ故ニ亞鉛ガ近ク來
 ルヲ知リマスルト忽チ醋ヲ離レテ
 接合マスルヲ此ノ通りデムリマス(拍手喝采)
 序ニ今一ツ爰ニ醋酸鉛ト殆ント同色ナル一種ノ土塊ガム
 リマスガ是ハ炭酸鉛ト申シマシテ極メテ有毒ナルモノデ
 ムリマスガ世ノ不開化ナル婦女子ハ之ニ白粉ト云フ名ヲ



付ケマシテト顔ハ塗り附ケテ美人チ氣取ルモノ
 ガムリマス(大笑)故ニ女生諸君ノ爲ニ白粉ニハ鉛ヲ含ミ居
 ルモノデアルト云フ事ヲ御覽ニ入レマセウ其法ハ木炭
 一切ヲ取りマシテ斯様ニ小サキ孔
 チ明ケ其中ハ白粉一撮ヲ入レマシ
 テ硝子管チ此ノ通りニ曲ゲ一方
 ノ尖キチ極メテ細ク宛モ針ノ如ク
 致シ酒精燈ノ炎中ニ差シ入レ呼氣
 チ吹キ込ムキニハ炎ハ細長キ圓錐
 形チナシ非常ノ高熱ヲ發シマスル是ニ於テ前ノ木炭ニ収
 メアル白粉ヘ丁度其火先ヘ當ルノデムリマス然ルキニハ
 順テ鉛ハ白粉ヨリ分解シテ小サキ球狀トナリテ流レ出
 マス手ニ取テ能々御調査チ願ヒマス(成程是ハ)

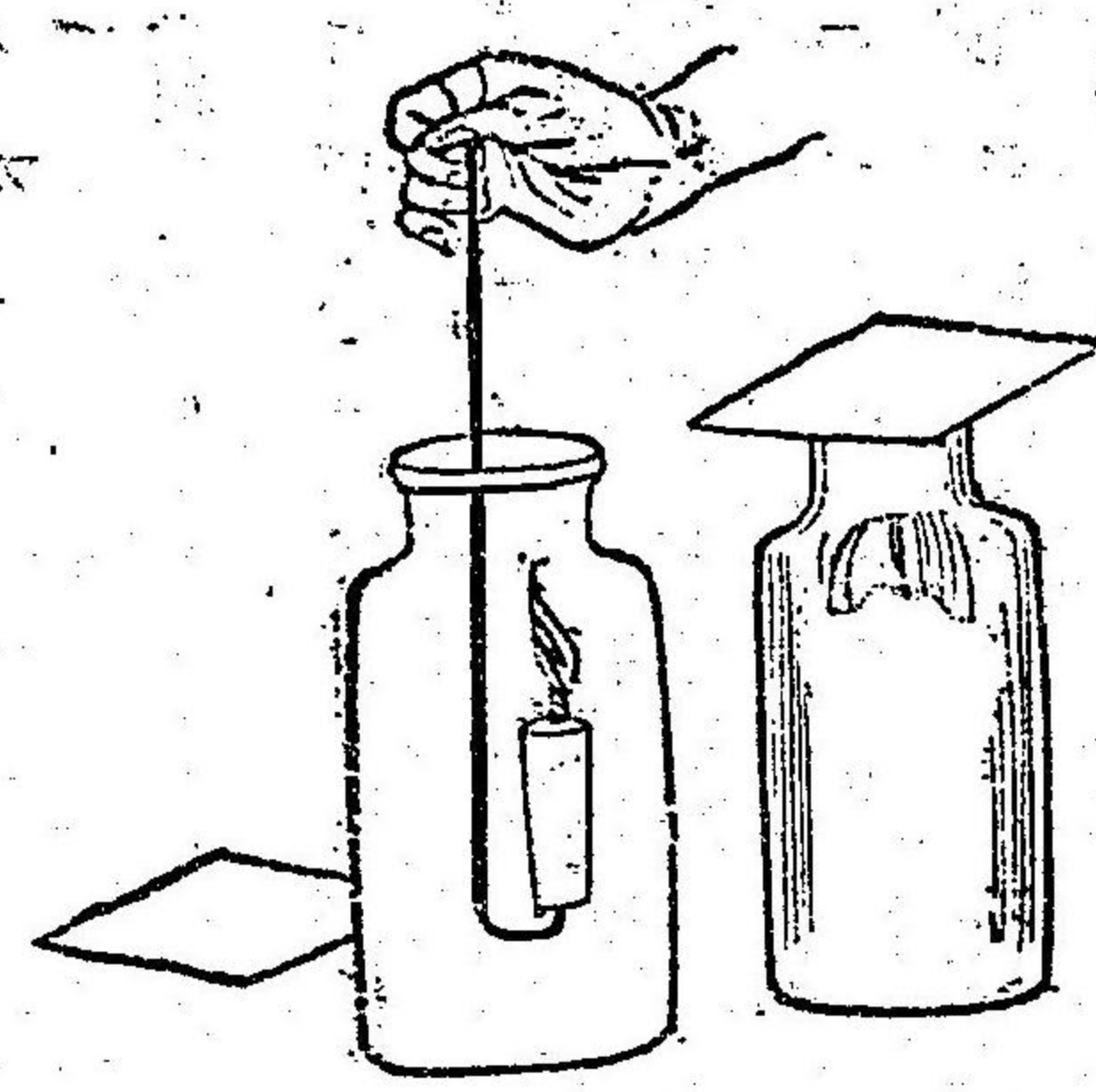


第三ニ御話申シマスルハ此赤色ノ土デムリマス是ハ諸君
 ノ日々御使用ニ相成リマスル朱墨ノ一種デ少シモ異ナル
 處ハムリマセンガ只是ハ酸素ト水銀トヨリナリ朱墨ハ水
 銀ト硫黄ヨリナリタルモノデムリマ
 スガ其處デ今此ノ朱墨モ矢張り土ノ
 如クニハ見ヘマヌルガ法ヲ以テ分解
 致シマヌルキハ容易ニ水銀ヲ取り離
 ストガ出来マスル其法ハ斯様ナル細
 キ硝子管即チ試験管ニ入レマシテ酒
 精燈デ熱スルノデムリマス即チ御覽
 ノ如ク管ノ冷處ハ悉ク銀色ヲ以テ輝
 ト美麗デハムリマセヌカ(ヒヤ〜)



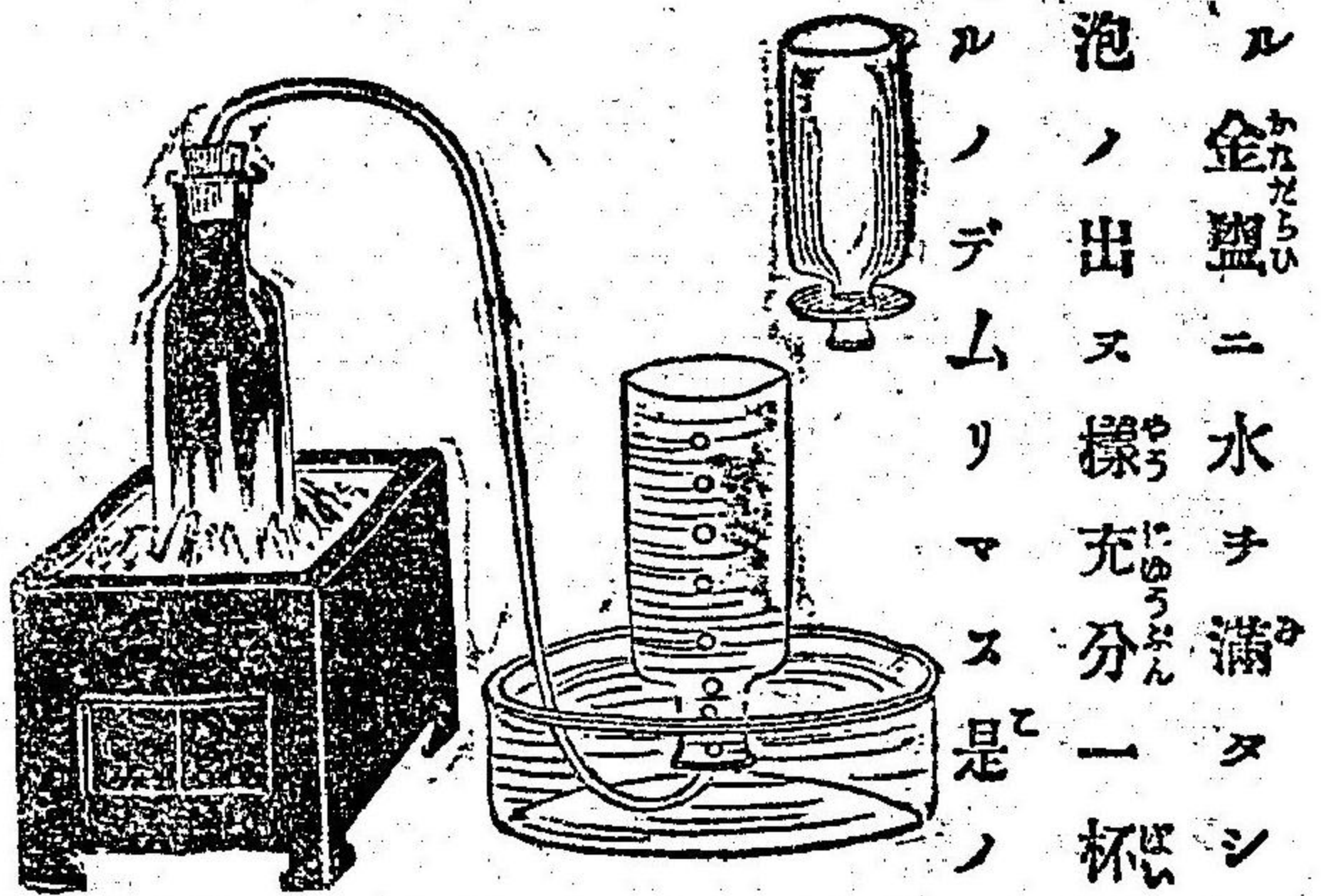
○第四十 不思議ナル二氣

理化の手妻ノ非常ニ奇異ニシテ且ツ愉快ナルトハ遠ク日
 本流手妻ノ及ブ處ニ非ザルトハ諸君ノ既ニ已ニ親シク目
 撃セラレタル處デムリマスガ爰ニ持出シタル二個ノ透明
 無色ノ燭ハ又一段ノ驚クベキ現象ヲ呈シマス先ツ斯様ニ
 蠟燭ニ火ヲ點シマシテ最初甲ナル燭ニ差入レマスルキハ
 忽チ口ヲ以テ吹キ消スガ如ク消滅致
 シマス因テ直ニ消ヘタル蠟燭ヲ以テ
 乙ナル燭ニ投入致シマスルキハば一
 ト一聲燭内ニ音ヲ發シ忽チ蠟燭ハ宛
 モ摺附木ヲ以テ點火スルカ如ク發炎
 致シマスル甲ニ入ルレバ消ヘ乙ニ投
 スレバ又發炎致シマスルト幾回試ミ



○第四十 不思議ナル二氣

マスモ同シ結果デムリマス實ニ奇態デハムリマセヌカ
 (理由)斯ル奇妙ナル現象ヲ呈出致シマスルハ誠ニ驚シベキ
 一デムリマスガ理由ヲ御話申シマスレバ何デモナキ一デ
 ムリマス即チ甲ナル體ニハ炭酸氣ト申シマシテ有毒ナル
 而モ燭火ヲ消滅セシムル一種無色ノ瓦斯ヲ貯ヘ乙ナル體
 ニハ正反對ナル酸素ト申シマシテ極メテ必要ナル瓦斯ヲ
 充タシテムリマス
 序ニ此二氣ノ製法ヲ簡單ニ説明致シマスガ先ツ酸素ハ如
 何ニシテ作ラレ得ベキカト申シマスルニ鹽酸加里ノ粉末
 シタルモノト二酸過滿俺ト申シマスル黑色ノ粉藥トチ鼠
 色位ニ相成リマスル程ノ割合ニテ混シマシテ儲之ヲ筒後
 德利ノ中ニ入レ兼テ管ヲ貫キマシタル木栓ヲ以テ嵌カ
 ト口ヲ致シ管ヨリ二尺斗リノむ管ヲ附ケ置キ先ツ大ナ



ル金鹽ニ水ヲ滿タシマシテ集メント欲スル體ニ少シモ氣
 泡ノ出ヌ様充分一杯ニ水ヲ入レ倒ニシテ之ヲ金鹽ニ立
 ルノデムリマス是ノ用意出來上リマシタルバ先キノ德利
 チひちりんノ上ニ載セ次第ニ火加減
 チ高ク致シマシテ凡ソ十分程モ經マ
 スルトキハむ管ノ口ヨリ烟ガ出デ
 參リマロズ其處デ摺附木ニ火ヲ點シ吹
 消シテ管ノ口ニ近ヅケマシテ再ビ燃
 ハマスレバ即チ此ノ酸素ノ充分發生
 シテ居ル證據デムリマスガ故ニ管ヲ
 左手ニ取り鹽ノ中ニ入レ右手ヲ以テ倒ノ壺ヲ持テ上ゲマ
 スルキハぶくくト氣泡ガ溜リマス殘テス充テマシタレ
 小皿ヲ以テ壺ノ口ニ當テ水中ヨリ取り出シ倒ノマ、使

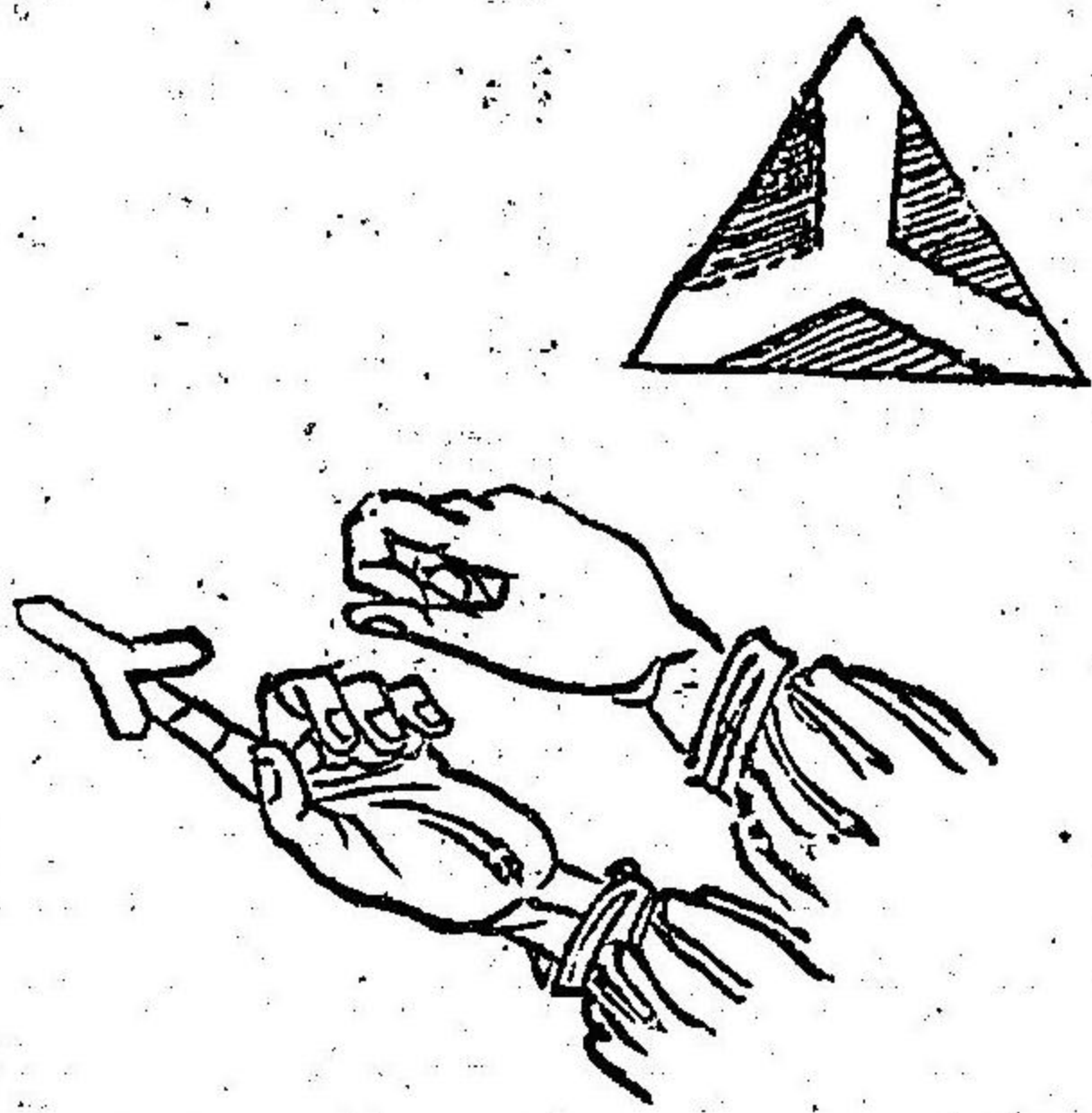
○第四十不燃識ナル二氣

用スルキマテ仕舞ヒ置クノデムリマス(了解々々)
次ギニ炭酸氣ノ御話デムリマスルガ餘リ長イハ御退屈デ
ムリマスガ故ニ後回ニ譲ルト致シマス(資成々々)

○第四十一 かむひーやトバつたーふらひ
ノ遊戯

諸君ヨ私ハ敢テ英語ヲ弄スル譯デハムリマセヌガ已ヲ得
ズ茲ニかむひーやノ語ヲ使用致シマシタ是ハ元ト洋兒ノ
玩弄物デムリマシテ御案内ノ如クかむひーやハ此
處ト譯シマスガ故ニ即チ此處へ來レト申シマス玩弄物デ
ムリマス是ハ正三角ノ厚紙ヲ三邊ヨリ三角ニ切り取ル
此ノ如ク致シマシテ諸君是ヲ左ノ人指ノ上ニ載セ右ノ指デ
空へ向ツテ彈キマスルキハ飄然トシテ飛ビ上リ再ビ手元

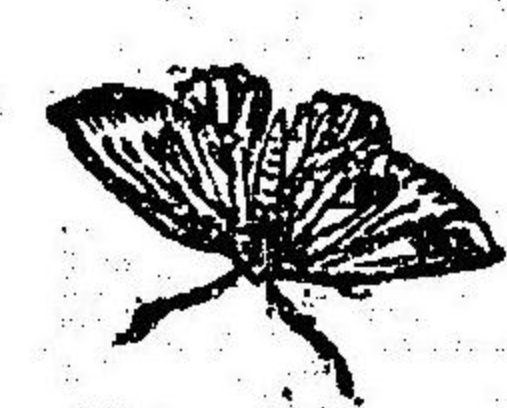
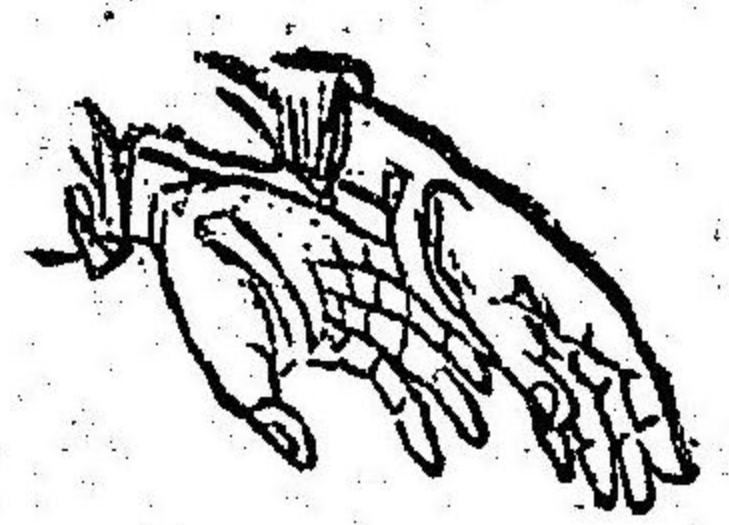
へ飛ビ歸リマス是レ即チかむひーやノ名ヲ得タル所以デ
ムリマス(ヒヤ〜)



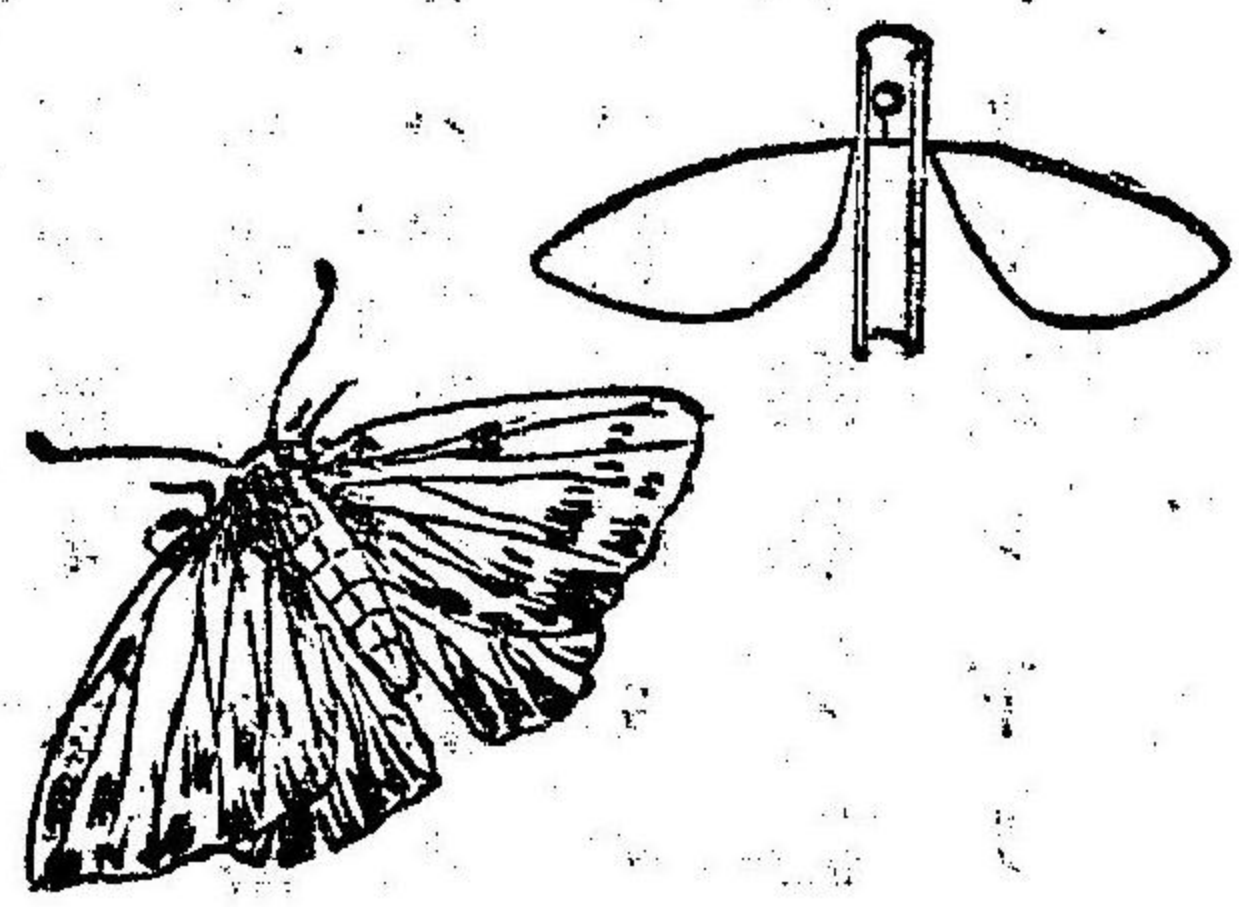
(理由)此不思議ナル紙ハ全ク空氣ノ
作用デムリマス即チ最初彈キ上マ
スルキハ斜ニ而モ平ニ彈キマス稱
シテ空氣ノ抵抗ナク二三間モ飛
テガ出來マスルガ最早力盡キテ落
チント致シマスルキハ忽チ空氣ノ
抵抗ノ爲メ一度其處ニ於テ翻リマ
ス翻ルト同時ニ平ニ落ツルヨリハ斜ニ落ツル方空氣ノ抵
抗ガ少シクムリマスガ故ニ遂ニ殆ント上リシ道ヲ下リ
來ル様ニナルノデムリマス
次ギニ御覽ニ入レマスルハバつたーふらひ即チ蝶々ノ玩

○第四十一 かむひーやトバつたーふらひノ遊戯

弄物デムリマス如何ニシテ製造シ如何ナル面白味ガアル
ト申シマスルニ最初先ツ細キ管チ一寸計
リニ切り之レヲ堅ニ割リマシテ溝ヲ明ケ
強キビムチ管ノ半ヨリ少シク下部ニアル
小サキ孔ハ通シ抜ケヌ様ニナシ又管ノ上
部ノ左右ヘ丸キ孔ヲ明ケ細キ竹ノ心棒ヲ
自由ニ轉ズル様横ニ貫キマシテ是ハ彼ノ
ビムノ一端チ結び付ケルヲ總テ甲ノ如クナ



シ諸心棒ノ兩端チ弓形ニ細キ
糸ニテ引キツケ強クシテ薄キ
雁皮ノ如キ紙ニテ張り左右ノ
羽翼ト致シ管上ヨリ程ヨク紙
ヲ張りテ体トナシ又細キ針金

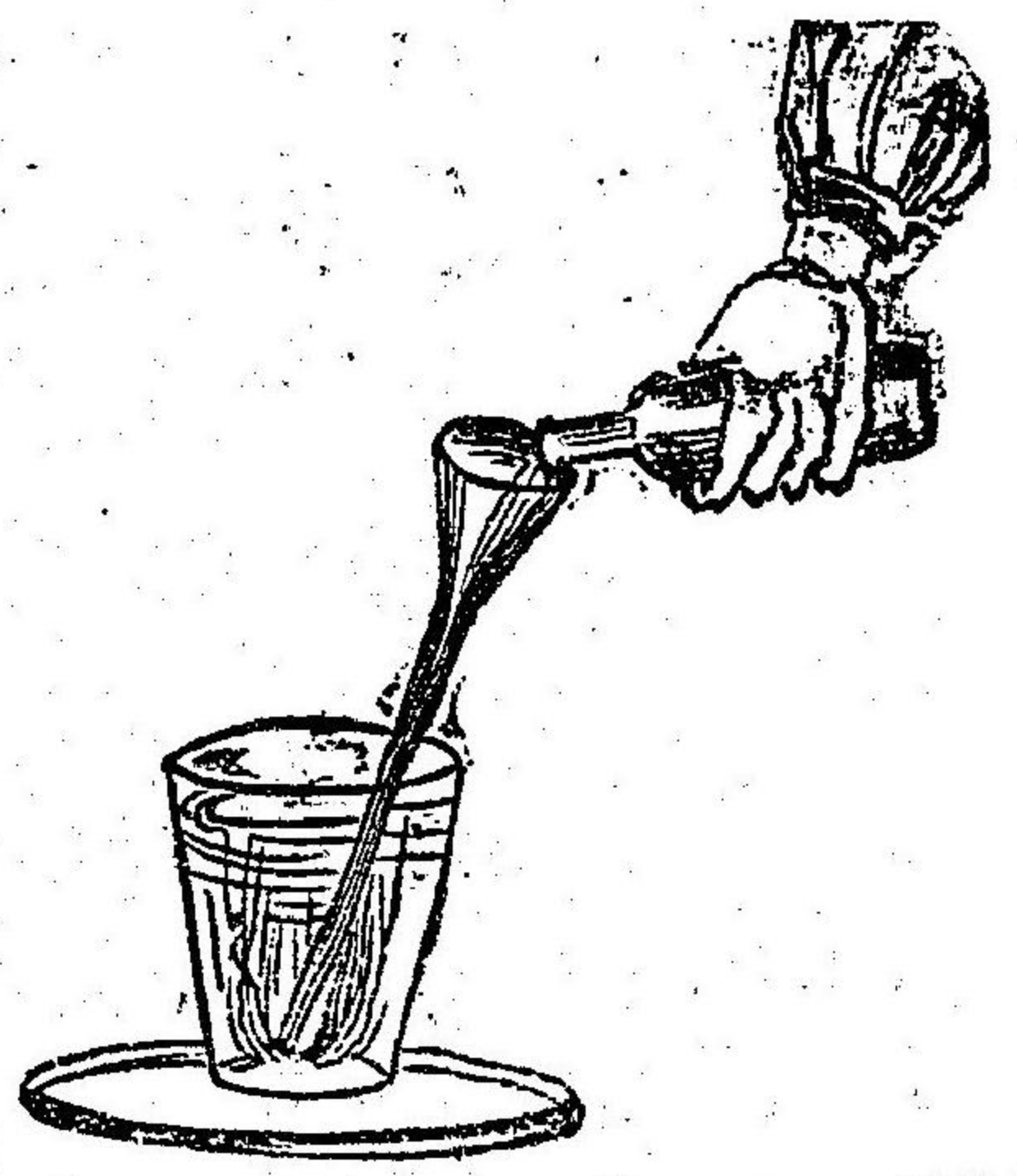


チ曲ゲテ髯ヲ作ルナド總テ乙ノ如クナスノデムリマス斯
ク出来上リマシタレバ即チ羽ヲ指ニテ充分ニ巻キ切レル
丈ハ巻キ手ヨリ放チマスル時ハ翾々トシテ高ク空際ニ上
リマスルヲハ活キタル蝶々モ決シテ劣リマセヌ
(理由)是ハ別段六ヶ敷理由ノアル譯チハナク至クビムノ働
キニテ羽ヲ廻轉セシメマスルガ故ニ空氣ノ反働作用ニヨ
リ飛ビ上ルノデムリマス(了解々々)

○第四十二 水中ニ雷鳴ヲ起ス法

諸學理ヲ應用スルノ極メテ愉快ナルハ諸君ノ既ニ前數
回ノ手妻否試驗ニ於テ御案内ニ相成リマシタロウト考ヘ
マスガ茲ニ今又御覽ニ入レントスル處ノ奇術ハ水中ノ雷
鳴ト申シマス不可思議ノ秘法デムリマス是ナルハ鐵葉製
ノ漏斗テ其管チ極メテ細長ク作りタルモノデムリマス諸

○第四十二 水中ニ雷鳴ヲ起ス法



最初私ハ硝子ノ水香へ凡ソ八分斗
 リ水ヲ注ギ入レマシテ白色ノ細石
 數個ヲ投シ又斯様ナル蠟ノ如キモ
 ノ、細片二三ヲ入レ右ノ漏斗ニヨ
 リテ一種ノ水藥ヲ徐々ト注ギ込
 マスト忽チ水香ノ内ニハどろく
 遠雷ノ響クガ如キ音ヲ發シマス(イ
 コイツ奇妙タ)同時ニびかりびかり
 シ散ラスト先ッ此ノ通りデムリマス(拍手喝采)
 (理由)諸君ヨ諸君ハ第一回ニ於テ私ガ水上ニ猛火ヲ起シ諸
 君ノ喝采ヲ受ケマシタト御記憶ナサレマセウガ今回ハ
 水上ニアラズ全ッ火ノ燃ユベキ理由ナキ水中ニ於テ斯ク
 美麗ナル電光モ洗足デ逃グルト云フ火花ヲ發スルコトハ實

ニ奇々怪々ノ至リテハムリマセヌカ(イエス)然レモ是レ決シ
 テ驚クニ足ラヌコデムリマス乞フ其理由ヲ御話致シマセ
 ウ前ニ水中ニ投タル蠟色ノ藥品ハ是ゾ常ニ水中ニ保存シ
 置クベキ種ノテ發熱シ易キ黃燐デムリマス諸又白石ノ如
 キ小粒ハ其實石ニアラズ鹽酸加里トテ燐程ニハナケレモ
 中々危険ナル發熱性ノ藥品デムリマス加之ナラズ漏斗ヨ
 リ注ギ込ミマシタルハ強キ硫酸デムリマスレバ此奇術コ
 シ危険ナル三藥品ヨリ成立チ升ガ故ニ水中ト雖モ斯ク烈
 シク發火スル所以デムリマス(感服々々)

○第四十三 青竹ノ色ヲ拔キ去ル法

並ニ洗ノ

茲ニ持チ出シマシタルハ只今庭ノ藪カラ切取りタル青竹

○第四十三 青竹ノ色ヲ拔キ去ル法并ニ洗ノ

ニムリマスルガ一體竹ハ御案内ノ如ク極メテ有益ナル植
 物デアリマシテ日用欠クベカラザルモノデムリマスガ今
 是チ少シク上等ノ細工ニ用キント致シマスルニ斯様ナル
 青々トシタ生竹ニテハ出來榮ガムリマセヌ去リトテ全ク
 枯ル迄待チマスルト細工モ困難ニ相成リマスルノミナ
 ラズ時間モ徒ニ費ヤスノ惡レガムリマス其處テ私ハ一工
 夫ヲ致シ學理ヲ應用シテ立ロニ青竹ノ色ヲ抜キ去リ同時
 ニ久シク使用シタルモノ、如ク黄色ノ光澤ヲ發シ諸君ノ
 一覽ニ供セント欲シマス即チ其法ハ某水藥ヲ以テ濕シマ
 シタル綿ヲ斯様ニ箆ニテ挾ミナガラ擦リマスルハ先此
 ノ通り今迄青々トシタル生竹ハ艶ヤ、カナル枯竹ト變シ
 マシタ何ソト諸君重寶ナル妙術デハムリマセヌカ(ヒヤク見
 (理由)斯ク即席ニ生竹ヲ古ク乾カシタルモノ、如ク變色セ

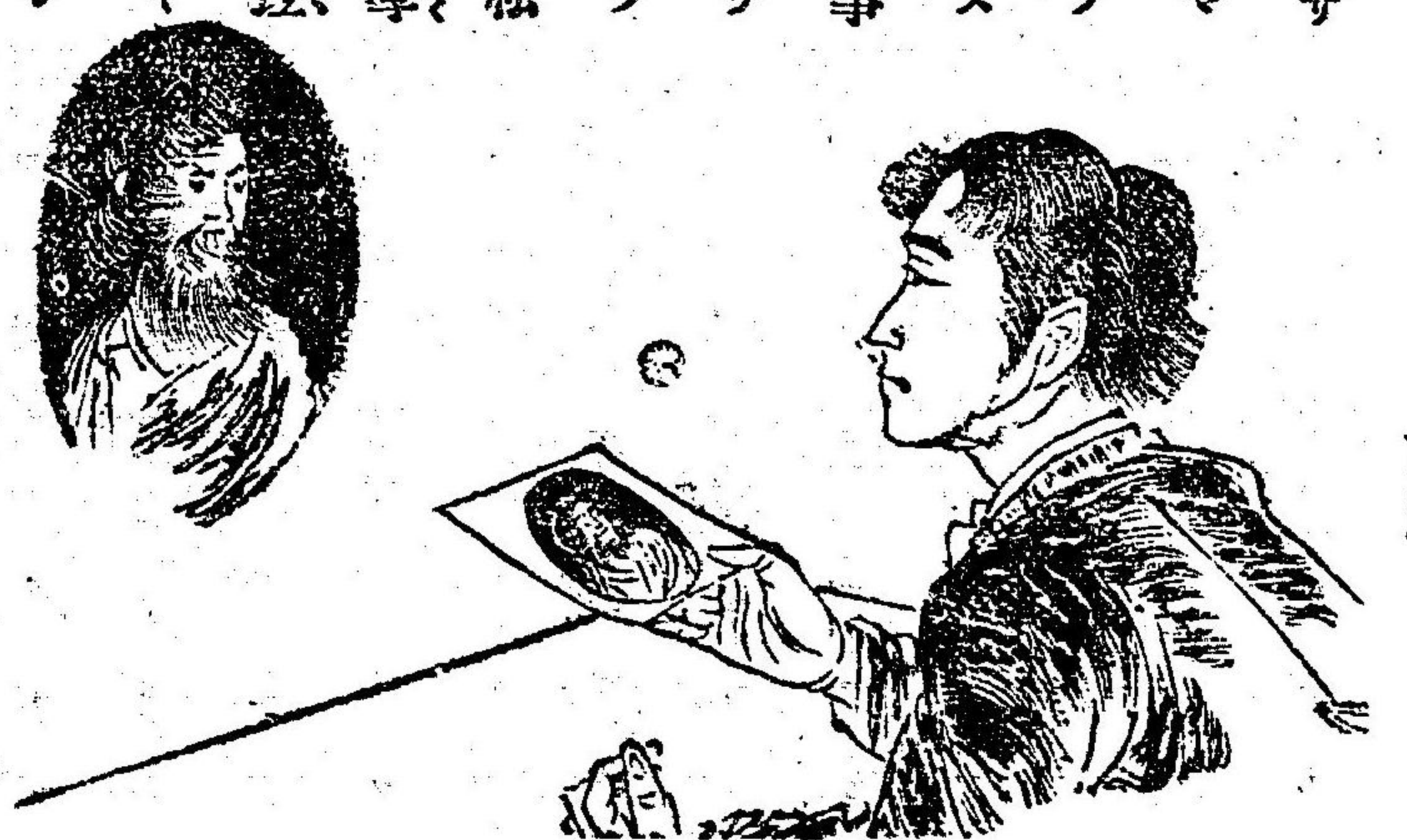
シムル奇藥ハ如何ナル物カト申シマスニ是ハ硝酸ト申シ
 マシテ硝石硫酸ト同量トチ蒸餾シテ得タル劇藥デムリマ
 ス此物人体ニ觸レマスルハ忽チ肌ヲ黄色ニ染メマスノ
 ミナラズ如何ナル有機物ト申シテモ大概硝酸ノ作用ヲ受
 ケヌ者トテハムリマセヌ只今竹ヲ此ノ通り變色セシメタ
 ルモ一ニ其理由デムリマス(了解々々)
 序ニ申上マスルガ硝酸ハ斯ル腐蝕性ヲ有シマスル劇藥デ
 ムリマセヌ由リ彼ノ疣ノ如キモ稀硝酸水ヲ以テ度々疣ノ
 頭ニ塗り付テマスルハ遂ニ疣ハ奇麗ニ消ヘ失セマス勿
 論疣ノ圍ニ硝酸ノ飛散ラヌ様用心セナクバ成リマセヌ

○第四十四 白晝妖怪ヲ見ル法

私ハ諸君ニ開卷演舌中ニ置キマシテ當奇術ハ世上ニアリ

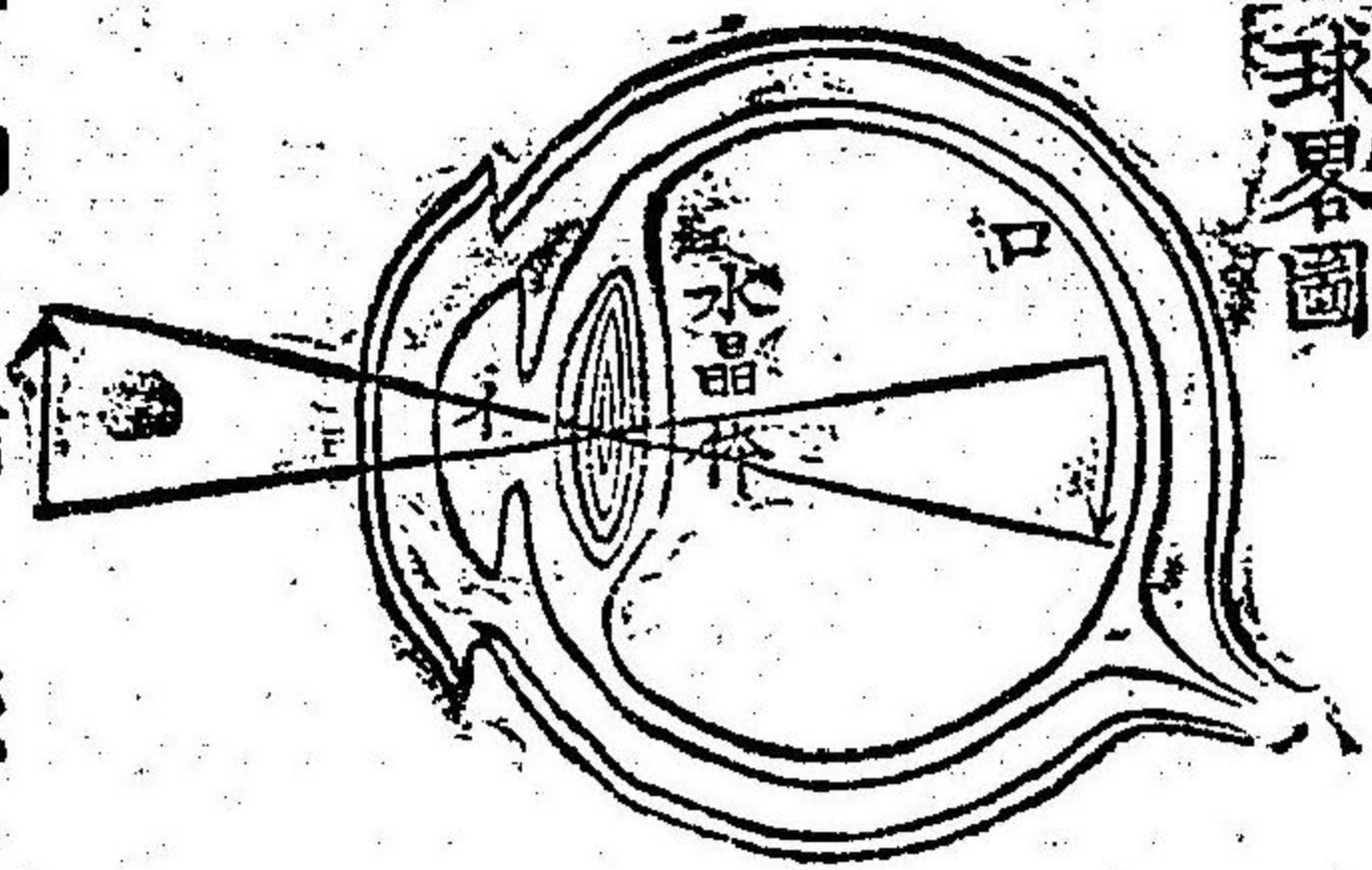
フレタル如キ架空ナル信ズベカラザ
 ル笑フベキ戻理ノ手妻ハ一切致シマ
 セヌ約束デムリマシタルハ諸君ノ
 今猶御記憶ナサレマスフト存シマス
 然ルニ爰ニ極メテ奇々怪々ナル一事
 ガムリマスレバ充分諸君ノ御試験チ
 願ヒマス即チ白晝妖怪ヲ見ルト云フ
 怪訝ノ一法デムリマス勿論コレハ私
 ノ工夫シタルモノデナク佛國ノ某學
 士ノ考ニ出デタル者デムリマス諸君
 ハ妖怪ヲ畫キマシタル數葉ノ小サキ
 紙片ガムリマスレバ是ヲ諸君ニ獻シ
 マスガ故ニ諸君自ラ御實驗チ願ヒマス

(オイロレニモ一枚クレ玉ヘ) (描イテアルゾ)



之ヲ試ミマスルニハ先ヅ圖中ノ一朱點ニ
 テ眼ヲ動スフナク四五分時熟視メテ其儘
 矢張り眼ヲ轉セズシテ靜ニ顔ヲ持チ上
 ゲ少シク薄暗キ壁或ハ板戸ナドヲ
 注視マサルキハ四五分時程ヲ經テ忽チ
 妖怪ノ幻像ヲ見ル
 一ガ出來マス(或程ハヤツテ) (出タ) (消ユク) (靜ニシロウ)
 (理由)此ノ理由ヲ説明致シマスル前ニ此紙ヲ製スル法チ一
 言致シマスガ是ハ別段六ヶ敷骨ノ折レマスル事デハナク
 只諸君ガ西洋紙ノ切端ハ各自欲スル所ノ妖怪ナリ山水ナ
 リ文字ナリ書キマシテ程ヨキ處ニ一朱點ヲ打チサハスレ
 バ宜シクムリマス朱點ヲ打チマスルハ眼ノ付ク處ヲ示シ
 且ツ眼ヲ動カサシメントノ爲デムリマス
 彌々此ノ不思議ナル理屈ノアル所ヲ詮索セメント存マ
 ガ是ヲ爲スニハ少シク興味索然タルノ恐レガムリマス

レヒ一休吾人ノ眼球ハ如何ナル鹽梅ニ構造サレテ居ルヤ
 ナ御承知ナクテハナリマセヌ因テ私ハ爰ニ極メテ簡單ナ
 ル眼球ノ圖ヲ示シテ御覽ニ入レマセウ即チ此圖中(イ)ノ處
 ハ瞳孔ト申シマシテ外來ノ光線ガ入り込ムベキ場所デム
 リマシテ夫ニ續キテ凸形れんすノ
 様ナルモノハ水晶体ト申シマスガ
 文字ノ如ク透明無色テ瞳孔ヨリ來
 ル所ノ光線ヲ屈折シテ遂ニハ(ロ)ノ
 處ニ於テ物像ガ倒マニ寫リマス是
 ナ網膜ト名ツケマシテ宛モ幻燈ノ
 寫シ幕ノ様ナル工合デムリマシテ
 コレゾ即チ右ノ怪シキ現象ヲ起ス所ノ本源デムリマス何
 故ト申スニ一體此ノ膜ハ一度寫リマシタル所ノ物象ハ直



眼球界圖

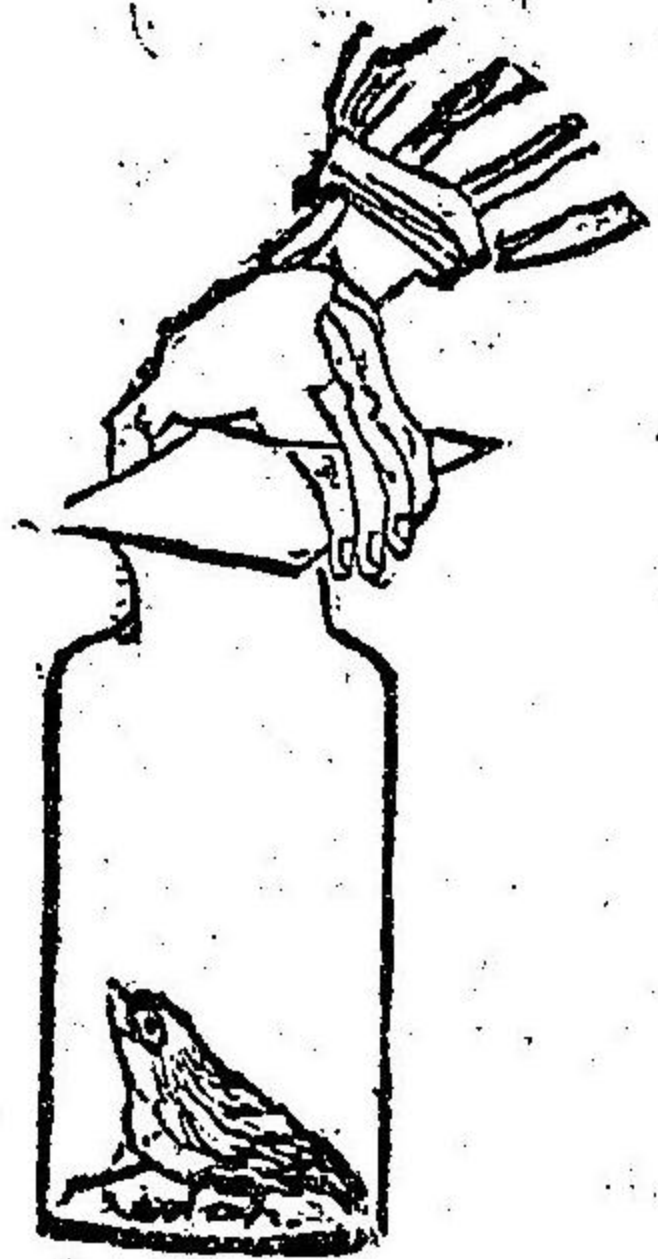
チニ掻キ消ス譯ニハ參リマセノデ幾分カ其像ヲ留メ置カ
 シトスル傾キガアリマス夫ノミナラズ能ク注意シテ視タ
 リ或ハ痛ク恐ロシキトカ甚ダシク嬉シキトノ如キモノ
 ハ殊ニ能ク留メ置クモノデムリマス是レ即チ世ノ臆病者
 乃至ハ嘗テ惡事ヲ爲シタル者ガ心身衰ヘテ先非チ悔ユル
 片杯ニ恐ロシキ有モセヌ妖怪ヲ目撃シタト申ス所以デム
 リマス而シテ此膜ガ(ハ)ナル視神經ハ通路ヲ有シテ居リマ
 ス視神經ト申シマスルモノハ即チ網膜ニ斯様ナル物体ガ
 只今寫リマシテムルト精神ノ本局ハ傳ヘマヌル役目ヲス
 ルモノデ言ハゞ電信線ノ様ナモノデムリマス(大笑(ヒヤ))

○第四十五 小動物ヲ殺シ再ビ生ス法

諸君ヨ動物ヲ生殺スルト申シマス事ハ法律ト云フ藥品ヲ

○第四十五 小動物ヲ殺シ再ビ生ス法

以テバ爲シ得ルヲデムリマセウガ一度殺シタル動物ヲ再
生セシムルト云フコトハ連モ人ノ及テ所テハムリマセヌ
併シ私ハ學理ヲ應用致シマシテ此奇法ヲ御覽ニ入レマセ



ウ茲ニ持チ出マシタルハ透明無
色ノ清キ玻璃罎デムリマヌルガ此
内ヘコレナル雀ヲ投ケ込ミマヌル
キハ暫テラク苦シゲニ驅ケ回リ遂ニ
ハ口ヲ開テ斃レマヌルコト此ノ如ク
デムリマヌ(殘酷々々)
斯ク死シタル雀ハ罎中ヨリ取リ出
シマヌルハ決シテ動ク筈ハムリマ
セヌ併シ斯様ニ水ヲ以テ口ノ邊ヨリ頭ヲ充分濕シマシテ
風通リヨキ處ニ放置シマヌルキハ二三分時間ニシテ再ビ

蘇生シ飛ビ去リマス(拍手喝采)

(理由)サテ例ニ從ヒ是ヨリ其理ヲ説明致シマヌルガ一體此
罎中ニハ何如ナル仕掛ガアリテ雀ヲ忽チ殺シタルカト申
シマヌニ別段仕掛ト云フ程ノコトハムリマセヌ只炭酸氣ト
申シマヌ有毒ナル氣ヲ滿タシ置キタルマデトムリマヌ此
瓦斯ノ燭火ヲ消スコトハ諸君ノ既ニ御承知ノコトデムリマヌ
ルガ燭火ノミナラス動物サハモ殺ス方ヲ持チテ居リマヌ
ルコト今ノ雀ヲ見テ察スルコトガ出來マセウ併シ炭酸氣ニシ
テ死シタル動物ハ暫時ノ間ハ麻酔シタル鹽梅デムリマヌ
未ダ全ク死ニキツタルモノデハ有リマセヌ故ニ頭ハ冷水
ヲ注ギカケマヌルキハ其麻酔ヲ喚ビ醒スコトガ出來ルコト
ムリマヌ

○第四十五 小動物ヲ殺シ再ビ生ス法

序ニ申上マスガ世間ニハ往々古井廢洞ナドハ無暗ニ遣入

リ込ミ遂ニ其儘ニ死シテ歸ラヌトガムリマスルハ皆此炭酸氣ニ中ラレタモノデムリマスガ故ニ諸君ガ若シモ是等ノ人ニ出逢ハレタルキニハ只今私ガ雀ヲ扱ヒシ如ク急速ニ其人ヲ風通リヨキ處ニ擔キ出タシ少シク兩肩ヲ高クマテ頭ヨリ面部ヘカケ冷水ヲ注ギカケ彼等ノ假死ヲ救ハレ度モノデムリマス(ヒヤ)

又炭酸氣ハ吸ヒ込ムキニハ毒デムリマスガ炭酸ヲ含ミタルモノヲ飲食致シマスハ却テ胃ノ働キヲ活潑ニ致スモノテムリマス彼ノらむね又ハ麥酒等ノ沸騰致シマスルハ即チ炭酸ノ劇ニ逃ゲ出デントスル故デムリマス

多人數集リマスルキハ必ズ此炭酸氣ガ澤山ニ生出致シマス動物ノ呼氣ハ總テ炭酸氣デムリマスガ故デアリマス火ノ燃ユルキニモ亦炭酸氣ヲ出ダシマス其證據ニハ冬ナト

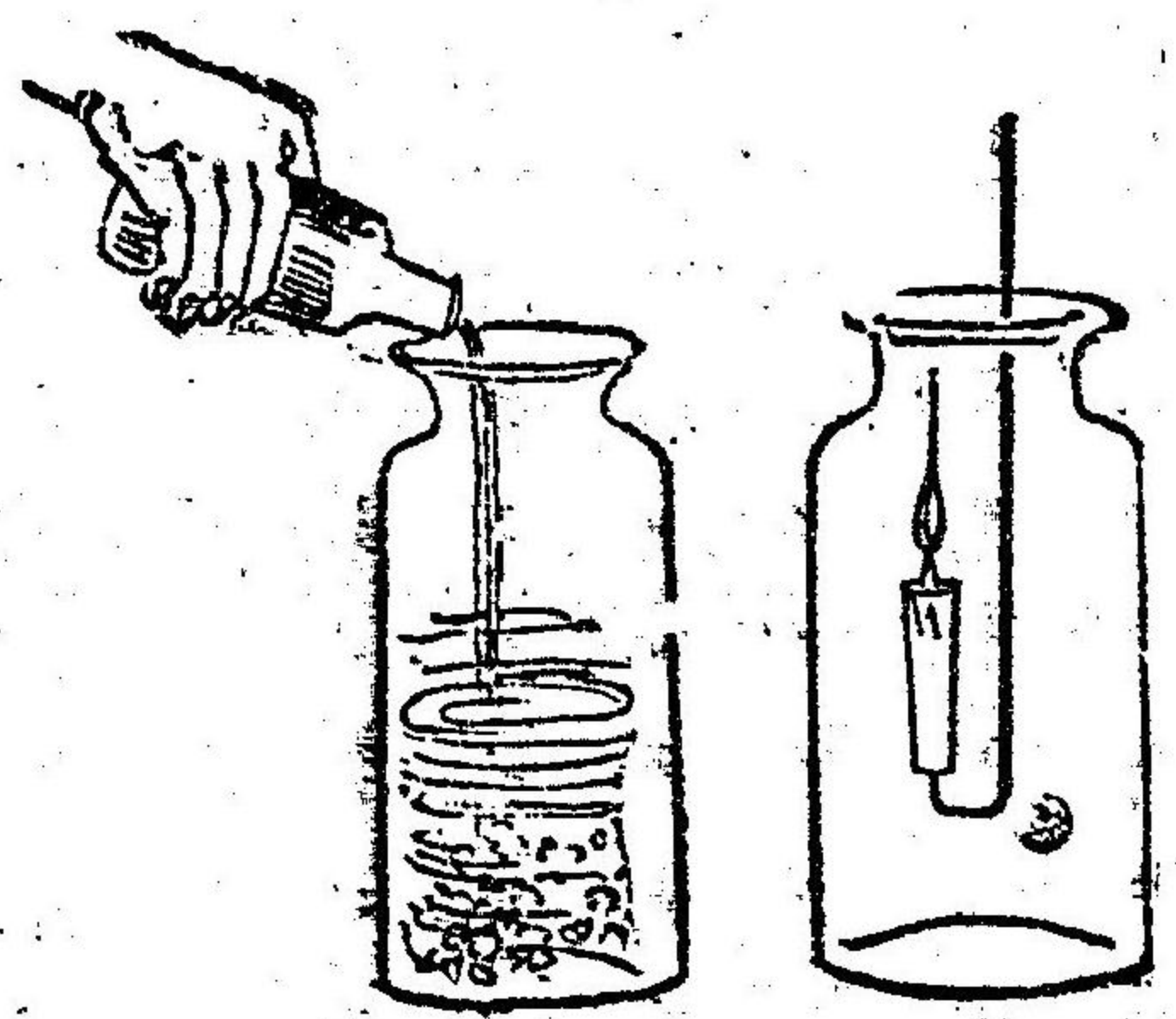
一室ハ大勢集マリマシテ火鉢ノ周リニ寄りタカリ夢中ニ成ツテ談話ヲ致シテ居リマスキニハ頭痛ヲシタリ眩暈ガ



シタリシマスルハ至ク此炭酸氣ノ爲ス業デムリマス(謹聽々々)

今私ハ動物ノ呼氣并ニ火ノ燃ユルト云フ譯チ御覽ニ入レマス先ツ水香ニ清キ石灰水ト申シマシテ石灰チ水ニ混シテ其上澄ヲ取りマシタルモノヲ注入レマシテ斯様ニ管チ口ニ咬ヘテ呼氣ヲ吹キ込マサルキハ忽チ水ハ白色ト變ヨマス是ハ石灰ノ成分ト炭酸トヨリ生出タル炭酸カルシウムト云フ者デムリマス又蠟燭ヘ火ヲ點シ此ノ如キ細口ノ罎ヘ下ゲマサルキハ暫

時ニシテ消滅致シマス因テ前ノ石灰水ヲ入レテ強ク振リ
 マスルキニハ忽チ白キ濁チ生スルヲ呼氣ヲ吹キ込ミタル
 時ト同様デムリマス是レ即チ燭火モ矢張り炭酸氣ヲ生ズ
 ル所以テムリマス
 斯ル恐ルベキ瓦斯デムリマスレバ一
 通り其製出ノ仕方ヲ知ルヲモ肝要ト
 考ヘマスルガ故ニ今私ハ極メテ簡便
 ノ法ヲ御話致シマセウ其法ハ硝子儺
 二個ヲ取り出シマシテ其一箇へきし
 やびチ一握リ入レ水ヲ少シ和シタル
 硝酸ヲ注ギ込ミマスルキニハ忽チ儺
 内沸騰致シマシテ一種ノ瓦斯ヲ發生致シマス因テ其儺ヲ
 持チ他ノ一儺ニ丁度水カ何ヲ注ギ込ム様ニ徐カニ移シ



マスルキハ瓦斯ハ容易ニ彼へ移リ行キマス勿論無色ノ瓦
 斯デムリマスガ故ニ移リシヤ否ハ燭火ヲ下ケテ試ムルヨ
 リ外ニ仕方ハムリマセヌ(謹聽を々)

○第四十六 藍地木綿ノ色ヲ抜き取ル法

諸君ヨ諸君ハ是迄幾度モ手拭ヲ御買ヒ求メニ相成リマシ
 タデムリマセウガ一体如何ナル手拭デムリマシテモ素ト
 他人ノ製作致シタルモノデムリマスガ故ニ決シテ自分ノ
 氣ニ入ツタモノ、ミハ得ラレマセヌ其處テ私ハ諸君ニ如
 何ナル模様ニテモ好次第ニ染メ出ス一奇法ヲ御傳授致シ
 ント考ヘマス(夫ハ是非共)其處テ今此處へ持チ出シマシタル
 ハ無地ノ藍地木綿ノ布切デムリマスルガ斯様ナル無地デ
 ハ手拭ト致シマスニモ將タ他ノ物ニ使用スルニモ随分不

○第四十六 藍地木綿ノ色ヲ抜き取ル法

都合デ面白味ガムリマセシ故ニ此ハ竹ニ雀ノ模様ヲ染メ
 出サント考ヘマス即チ斯様ナル一種糊ノ如キモノヲ持チ
 マシテびたト竹ニ雀ノ圖ヲ描
 キマシタ其處デ是チ少シク火鉢ノ
 上ニテ乾カシマシテ半乾ノ時直チ
 ニ清水ニテ洗ヒマスレバ眞此ノ通
 リ仙臺様ガ顯ハレテムリマス此模
 様ハ千年經テモ決シテ消ルハム
 リマセヌ何ト奇々妙々デアアリマ
 セスカ(拍手喝采)



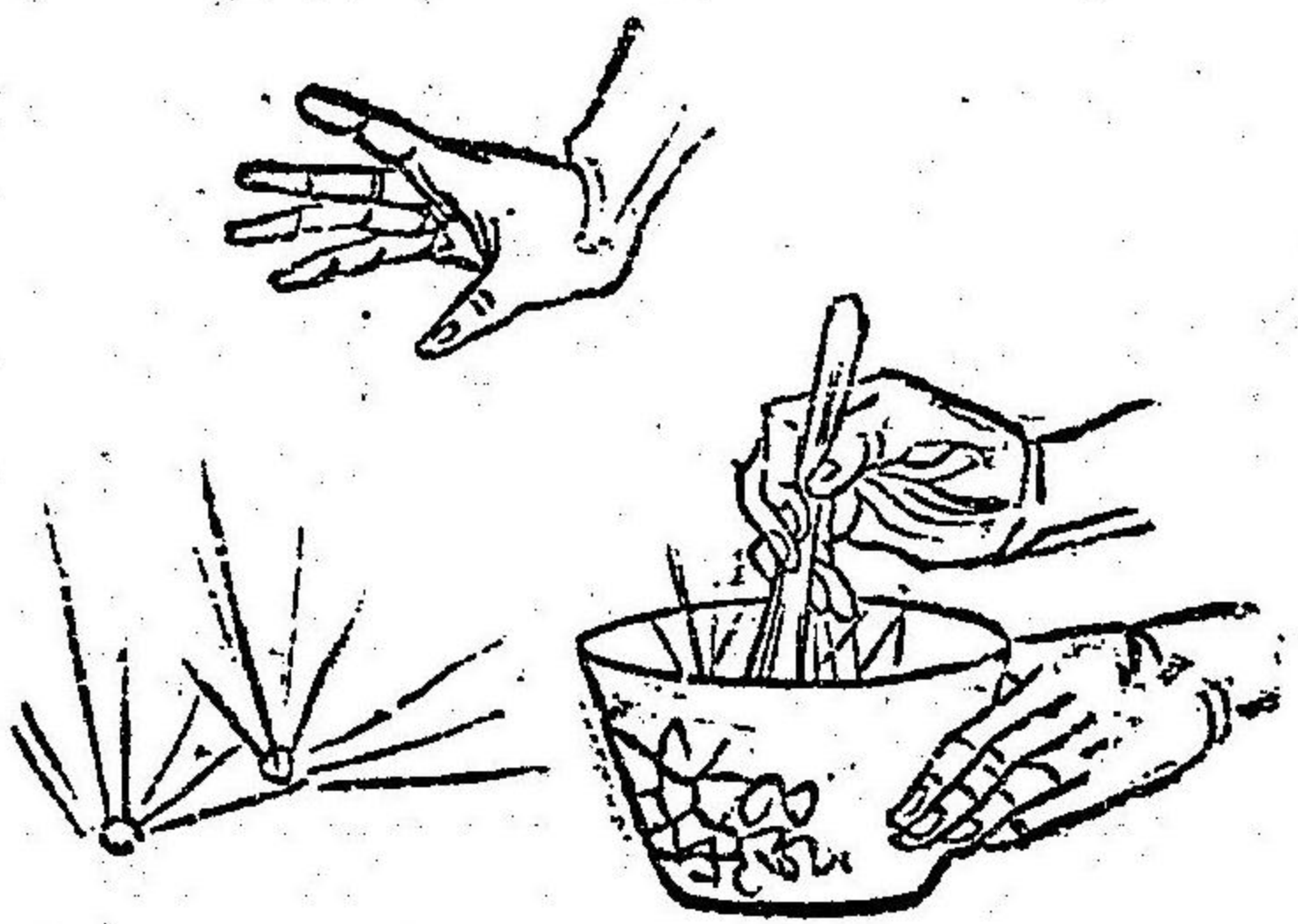
(理由) 倍新ル重寶ナル奇術ヲ明サマ
 ニ御傳授申上ハ少シク惜シキ心持ガ致シマス以テ諸君
 ハ既ニ數回ノ奇術ヲ厭カス倦マス御研究ナサレタル御方

々々ムリマスルニ因リ其忍耐カニ免シ御話申上マセウガ
 是ハ彼ノ劇藝トシ曾テ御話致シタル硝酸ト申シマスル水
 藥ヲ倍位ニ稀釋マシテ倍其内ハ澱粉ヲ適度ニ加ハマスル
 所ハ忽チ糊ノ如キモノト相成リマス之ヲ筆或ハ刷毛ニツ
 ケ好ミノ書畫ヲ描クノデムリマス

○第四十七 癩癩玉ノ製法并ニ雷粉ノ一

雷ヲクハ他ノ奇妙ナル手妻ノ爲ニ爆烈ノ聲ヲ耳ニ致シマ
 セヌ柄シテ諸君ノ内或ハ今一ツトノ御所望モムリマセウ
 ト存シマスヲ以テ茲ニ私ハ極メテ簡單ニシテ且ツ左程危
 険ナラザル爆烈ノ法ヲ御傳授致シマセウ是ハ雷粉ト申シ
 マシテ鹽酸加里ト硫酸トヲ以テ作りタル粉デムリマスガ
 是チ極メテ少量ヲ取り斯様ニ石ノ上ニ載セ鐵錘ヲ以テ叩

○第四十七 癩癩玉ノ製法并ニ雷粉ノ一



キマスルキハばちト爆烈致シマス
 又同シ程ノ少量ヲ乳鉢ノ中ニ入レテ
 徐ニ搗リ廻ハシマスルキハ斯様ニば
 ちト小爆鳴ガ連続シテ發シマス
 何ント愉快デハムリマセヌカ(ヒヤク)
 次ギニ御傳授申シマスルハ痾瘻玉ノ
 製法デムリマサガ是ハ矢張り鹽酸加
 里ヲ主ト致シマスルガ雷粉ノ製法デ
 ハ地ニ投ゲテモ決シテ爆烈致シマセヌニ因テ鶏冠石ト申
 シマスルモノヲ混シテ製スルノデムリマス其法先ヅ斯様
 ニ鹽酸加里ト鶏冠石トヲ極メテ少シク混シマシテ砂石ヲ
 少シク入レ紙ヲ以テ包ミ眠カリト糸ニテ結ビマシテ俵此
 チ地上ニ投ゲマスルキハ忽チばちト爆鳴致シマス併シ

二者共分量ヲ過シテハ大變デムリマサガ故ニ御注意ヲ願
 ヒマス(拍手喝采)

○第四十八 花火線香ノ製法并ニ
 花火ノ數種

爰ニ御傳授申シ上ゲント致シマスルハ花火線香ノ一デム
 リマサガ一体花火線香ト申シマスルモノハ火藥ヲ以テ其
 原藥品ト致シマスルガ故ニ私ハ先ヅ火藥ノ製造ヨリ御話
 セント存シマス俵火藥ハ戰時用ノモノト花火用ノモノト
 ハ自ラ各種藥品ノ配合ヲ異ニ致シマスルガ茲ニハ戰時用
 ノ火藥ヲ説明致シマスル必要ハムリマセヌニ因リ專ラ花
 火用ノモノヲ御話申シマス
 總テノ火藥ハ硝石木炭及ビ硫黃ノ三品ヲ種々ニ配合シテ

製作スルモノデムリマシテ花火ニ通常用ヒマスルモノハ
 十二一。十三一。或ハ九、二、一、等ノ稱ガムリマシテ十、二、一トハ
 硝石十匁ニ木炭二匁ト硫黄一匁ヲ混和スルト云フ意味デ
 ムリマス十三一或ハ九二一ト云フモ同シ比例ヲ示シタル
 一デムリマス(成程分ツタ)

硝石ト硫黄ニハ別段異種ノモノモムリマセヌガ木炭ニハ
 色々ト種類ガムリマシテ一様デアアリマセヌ併シ花火用
 下致シマシテハ桐ノ燒キタルモノヲ以テ最上ト致シマス
 借本題ニ歸リマシテ花火線香ノ下チ御話致シマスルガ是
 ハ硝石九匁木炭二匁硫黄一匁ノ割合即チ九二一ノ火藥中
 ハ極メテ細粉ニ致シマシタル鍋鐵ノ鏽ビザルモノヲ凡ソ
 重量四匁斗リヲ入レ紙索ニシタルモノデムリマス
 花火線香ノ種類ニ櫻火ト申マモノ甚タ壯快デ且ツ危險ナ



ラザル庭花火ノ一種ガムリマスカテ御話申上マセウ此法
 ハ先ツ口經七八分位ノ一方ニ節アル竹ヲ凡ソ五寸斗リニ
 切り取りマシテ是ハ十二一ノ内ハ線香花火ニ使用致シタ
 ル鐵粉ノ少ク大ナルモノヲ重
 量凡ソ六匁斗リヲ混シタルモノ
 ヲ成ルベク丈固シツメ込ミ紙ニ
 テ口火ヲナシ片手ニテ握リナガ
 ラ發火サセマスルハ名ノ如ク
 時ナラヌ櫻花ノ飛散スルガ如ク

實ニ壯狀デムリマス
 此他鼠花火、螢火、或ハ花輪車、いたち等庭花火ノミニテモ無
 量數十チ下テヌ程澤山ムリマシテ迎モ爰ニハ書キ盡スベ
 キ隙ガムリマセヌニ因リ他日御話申スト致シマセウ

〇第四十八 花火線香ノ製法并ニ花火ノ數種

花火ハ如何ナルモノニテモ炎色ノ工合ガ肝要デムリマス
 ガ故ニ私ハ序ニ大花火ノ各種炎色ヲ顯ハスベキ藥品ノ配
 合ヲ御話致シマセウ
 大花火ニ置キマシテハ鹽酸加里七十九分ト硫黃二十一
 トチ以テ資粉ト稱ヘマシテ如何ナル花火ニテモ之ヲ用ヒ
 ザルモノ逆ハムリマセヌ

白色花火

紅色花火

綠色花火

- 硝石 六四、〇 硝酸ストロンシユム 五六、〇 硝酸バリユム 六〇、〇
- 硫黃 二一、〇 硫黃 二四、〇 硫黃 二二、〇
- 火藥 一五、〇 鹽酸加里 二〇、〇 鹽酸加里 一八、〇
- 薔薇色花火
- 硝石 三二、〇 鹽酸加里 二七、〇 硫黃 二〇、〇
- 炭酸カルシユム二〇、二 炭末 一、〇

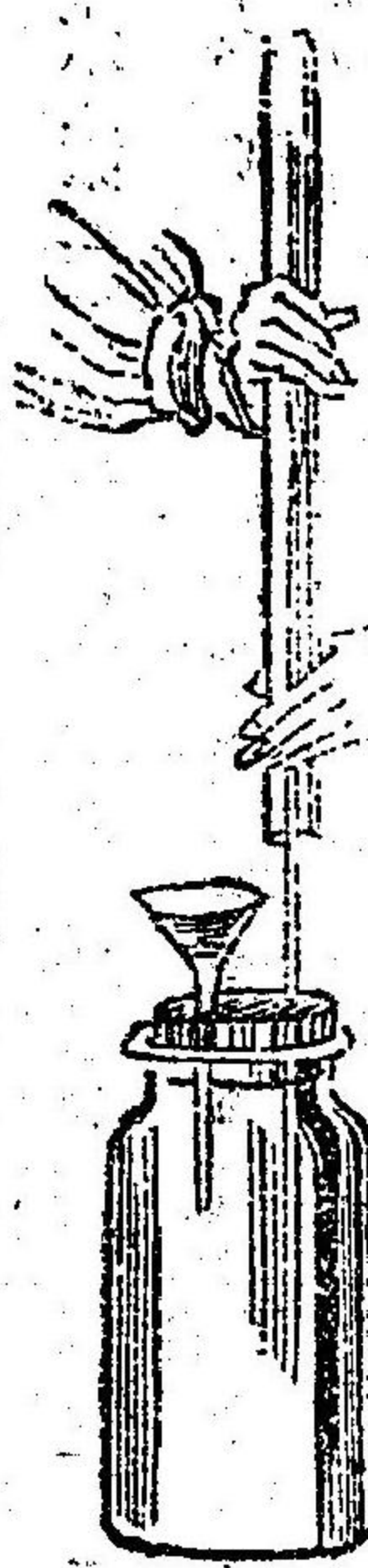
右ハ單ニ或ル一種ノ配合法ヲ示シタルマデバムリマシテ
 花火師ニ因リテハ大同小異決シテ一様ニハ參リマセヌ
 (了解々々)

○第四十九 水素ノ手遊ビ

水素氣ノ吾等ニ愉快ヲ與ヘマスルハ實ニ驚クベキヲ
 ムリマシテ既ニ諸君モ御覽ノ如ク竹筒鐵砲ヤ石鹼玉ノ爆
 烈ノ如キ皆是レ水素ノ爲ス有質デムリマスガ猶數種ノ珍
 奇ナルトモムリマスルガ故ニ重複チ厭ハス爰ニ御話ヲ致
 シマセウ
 先ツ最初ニ亞鉛ノ二三片ヲ硝子燻ニ入レ次ニ稀硫酸(水
 九分)ヲ投シマスルキハ忽チ燻内沸騰シテ水素ヲ發シマスル
 其處テ一端ヲ極メテ細ク致シマシテ硝子管ヲ貫キタル

○第四十九 水素ノ手遊ビ

樽ノ木栓ヲ持チマシテ固ク口ヲ閉サスルニハ水素ハ管口ヨリ盛ンニ飛ビ出シマスル因テ凡ソ五分間モ經マシタル

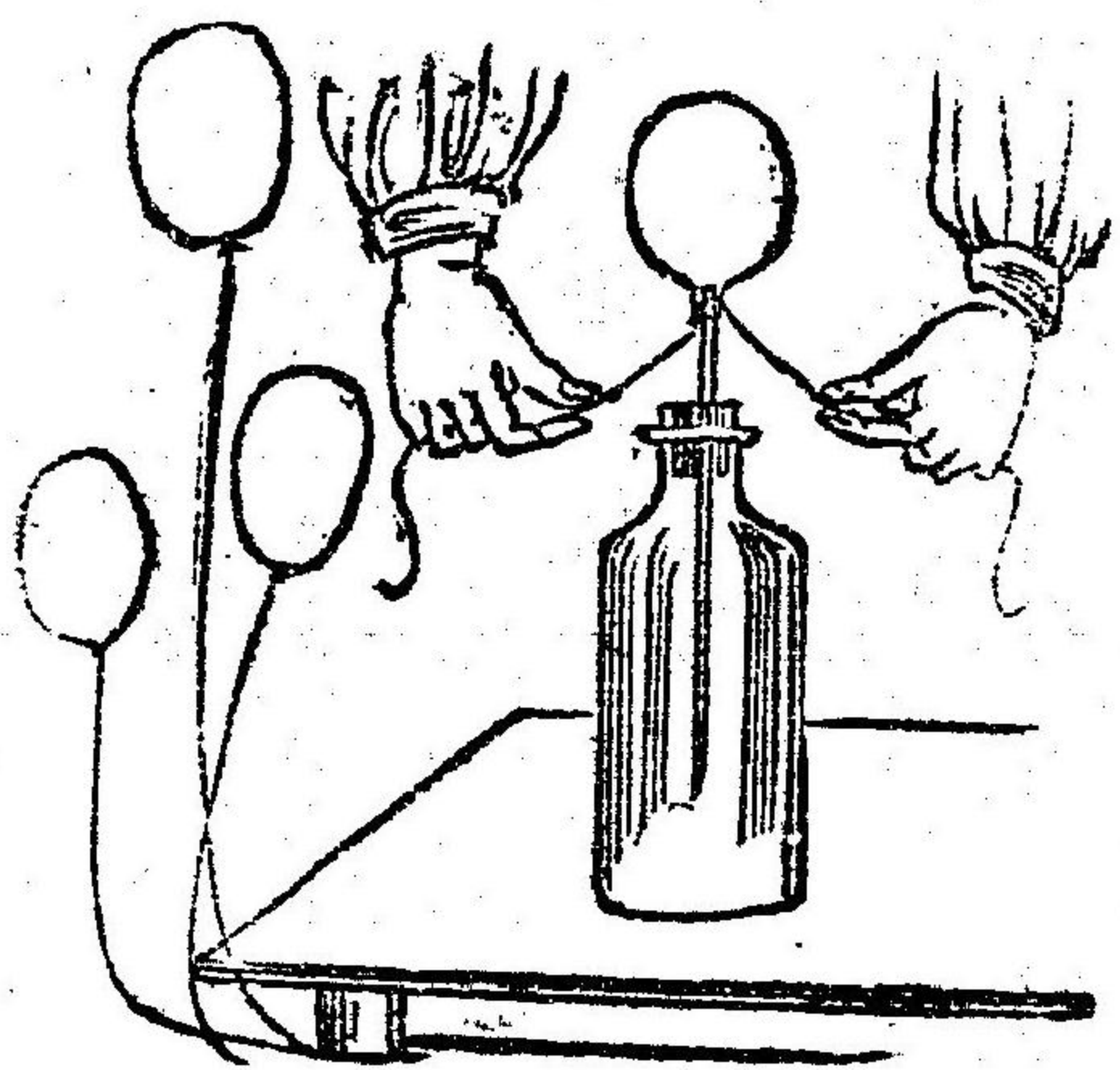


管口ハ近クマズルハ此ノ如ク淡青ノ炎ヲ放チテ然ハマスル是ニ於テ斯様ナル長キ太キ硝子管ヲ持チマシテ水素炎ヲ蓋ヒマ

スルトハ宛モ明笛ヲ吹クガ如ク極メテ愉快ナル美音ヲ發シマスル之ヲ水素ノ吹笛ト申シマス(拍手喝采)

疾キニ御目ニ掛ケマスルハ斯様ナル薄キビ袋デムリマヌガ今此袋ヲ持チマシテ水素發生ノ硝子管ノ口ハ當合ヒマズルトハ暫時ニシテビ袋ハ充分圓ク膨脹マヌ其時糸

デ袋ノ口ヲ嚴シク結ビ水素ヲ逃ケ去ラヌ様ニ致シ手ヨリ放シマスルトハ眞此ノ通りふらりと空中ハ飛ビ上リマス是ア眞誠風船ノ玉子デムリマス尤モ此風船玉ヲ作ルルノ水素氣ハ硫酸ノ代リニ鹽酸ヲ用キタル方が宜シクムリマス

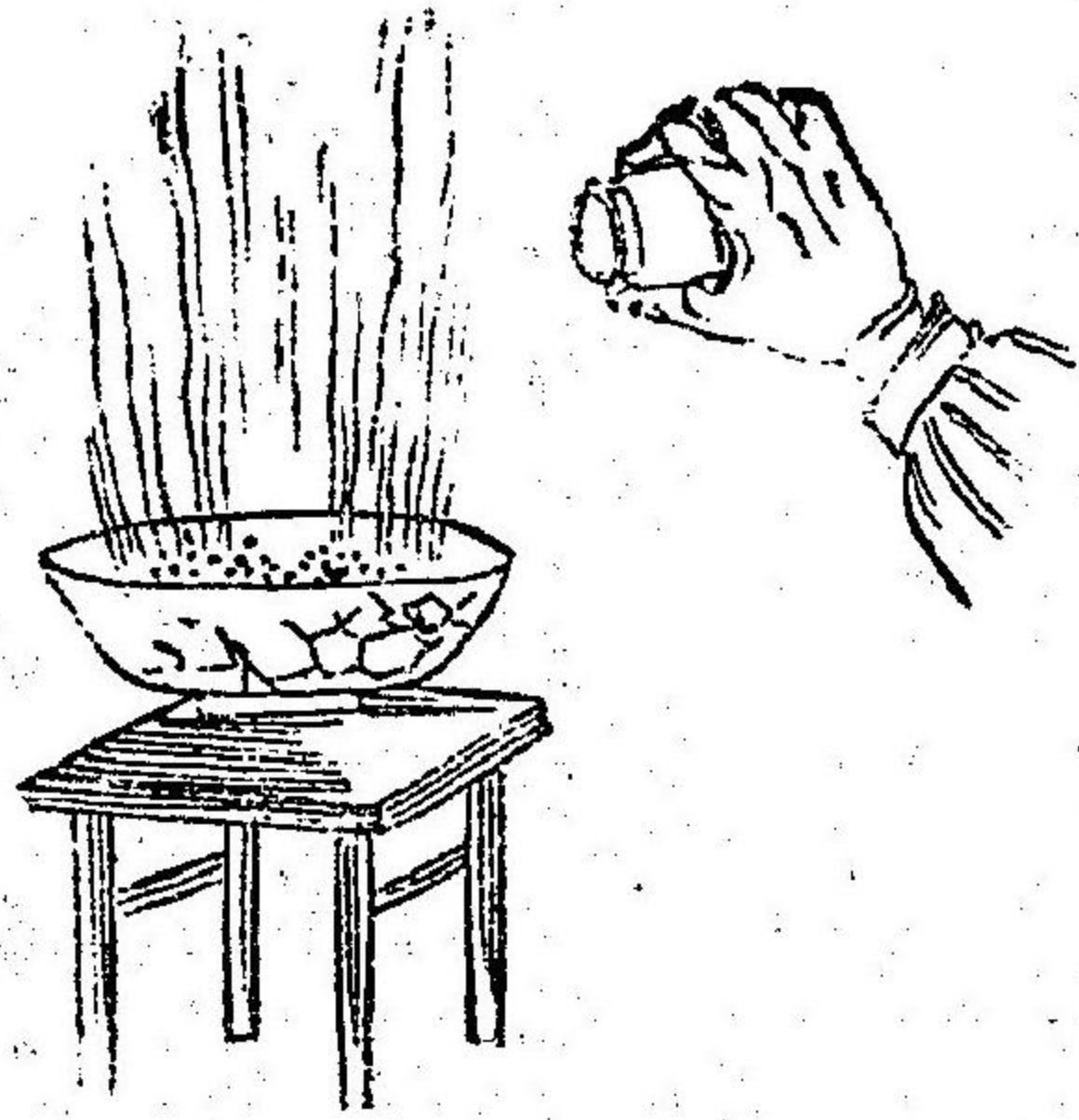


○第五十 砂糖ヨリ大炎火ヲ發スル法

親愛ナル學生諸君ヨリ諸君ハ理化學應用奇術ノ研究ニ從事セテレマシテヨリ茲ニ回チ重スルノ既ニ數十デムリマスレバ理化ノ如何ニ玄妙不思議ナル働キヲ有スル者ナルヤハ零御承知ナリマシタト信シマスガ故ニ私ハ爰ニ今一ツ

○第五十 砂糖ヨリ大炎火ヲ發スル法

勇壯ナル而モ極メテ簡易ナル奇術ヲ御覽ニ入レ是ヲ以テ
當理化學研究ノ一先ツ終結ト致シマス積リテムリマス(モ
少シ顯ヒタイ)



備是ナルハ三盆ノ砂糖ヲムリマス
ガ私ハ此ハ同ク白色ノ粉末ニシ
タル藥品ヲ投シ能ク混和致シマシ
テ平皿ニ盛り用意ノ水藥ヲ小サキ
杯ノ凡ソ半分程ヲ注ギマスル時ハ
皿ハ忽チ一面ノ大火炎ヲ吐キ其恐
ロシサ其愉快サハ先ツ此ノ如クデ

ムリマス(拍手喝采)

(理由)砂糖ヨリ斯ル大火炎ヲ發シマスルハ恐ラク諸君ノ御
考及バレヌ所デムリマセウガ一體砂糖ハ植物ノ汁ヨリ製

造致シマシタル者デアリマシテ充分ニ燃ユベキ性質ヲ有
スルモノデムリマスガ夫ノミナラズ猶其加勢ト致シマシ
テ同ク白色ノ粉ヲ混シマシタルガ是ク既ニ御案内ノ極
テ熱ハ易キ鹽酸加里デムリマスガ故ニ此混合物ニ少シデ
モ熱ヲ與フルモノガアリマスレバ忽チ炎ヲ發スルハ理
ノ當然タル所ニムリマス其處デ私ハ一種強烈ノ水藥タル
彼ノ硫酸ヲ注ギカケマシタルガ硫酸ハ一度鹽酸加里ニ觸
レテハ非常ニ熱ヲ起シテ酸素ヲ發生セシメ砂糖ニ觸レマ
シテハ水分ヲ殘テス吸ヒ取りテ純粹ノ炭ト致スノ力ヲ有
スルモノデムリマスガ故ニ斯クモ咄嗟ノ間ニ恐ルベキ大
火炎ヲ發シタル譯デムリマス(ヒヤ)

理化獨案內終

明治二十七年二月二十日印刷
明治二十七年二月二十五日發行

定價拾錢

東京市日本橋區新大坂町十番地

發行者 小林喜右衛門

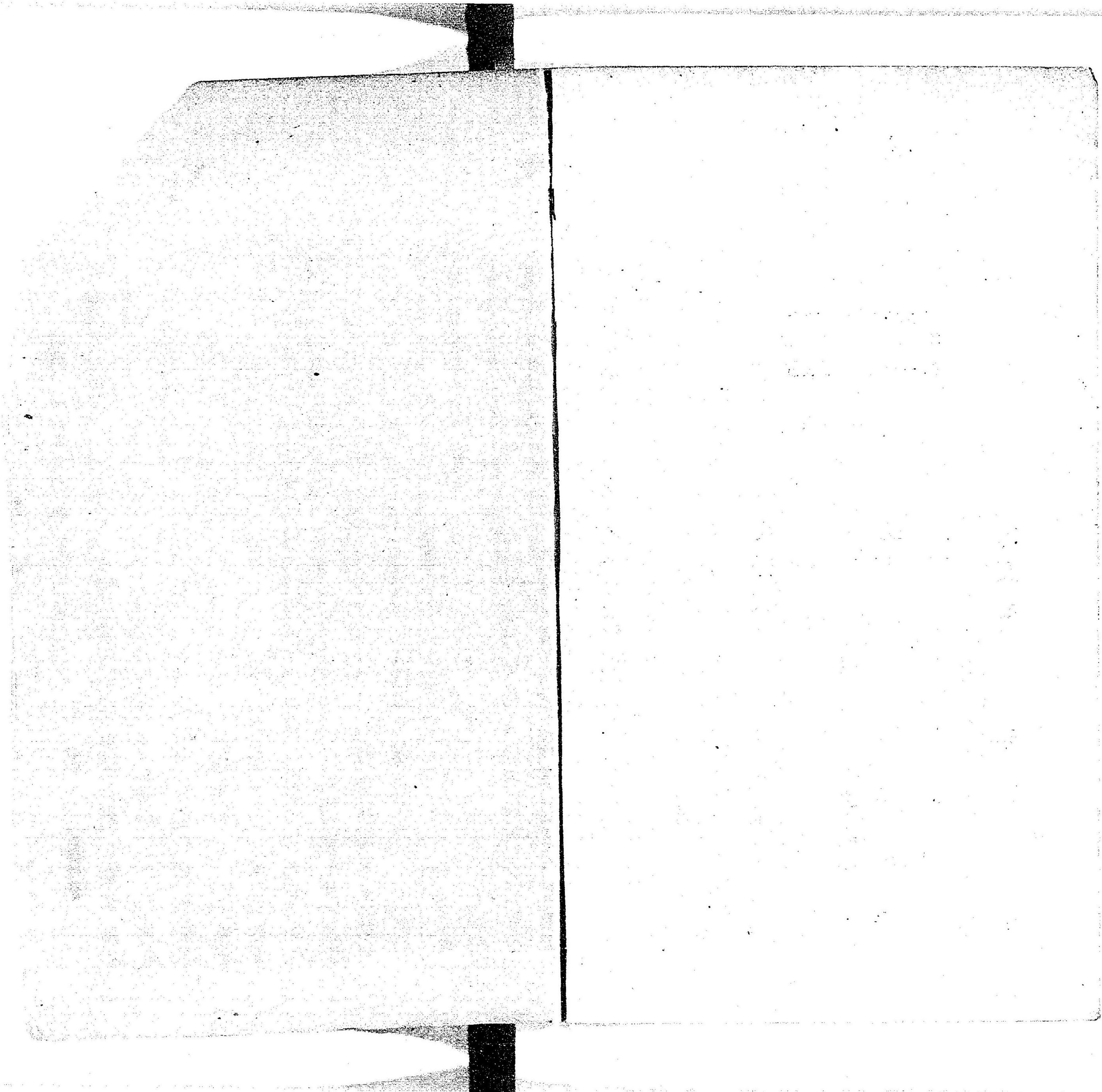
全區若松町二十一番地

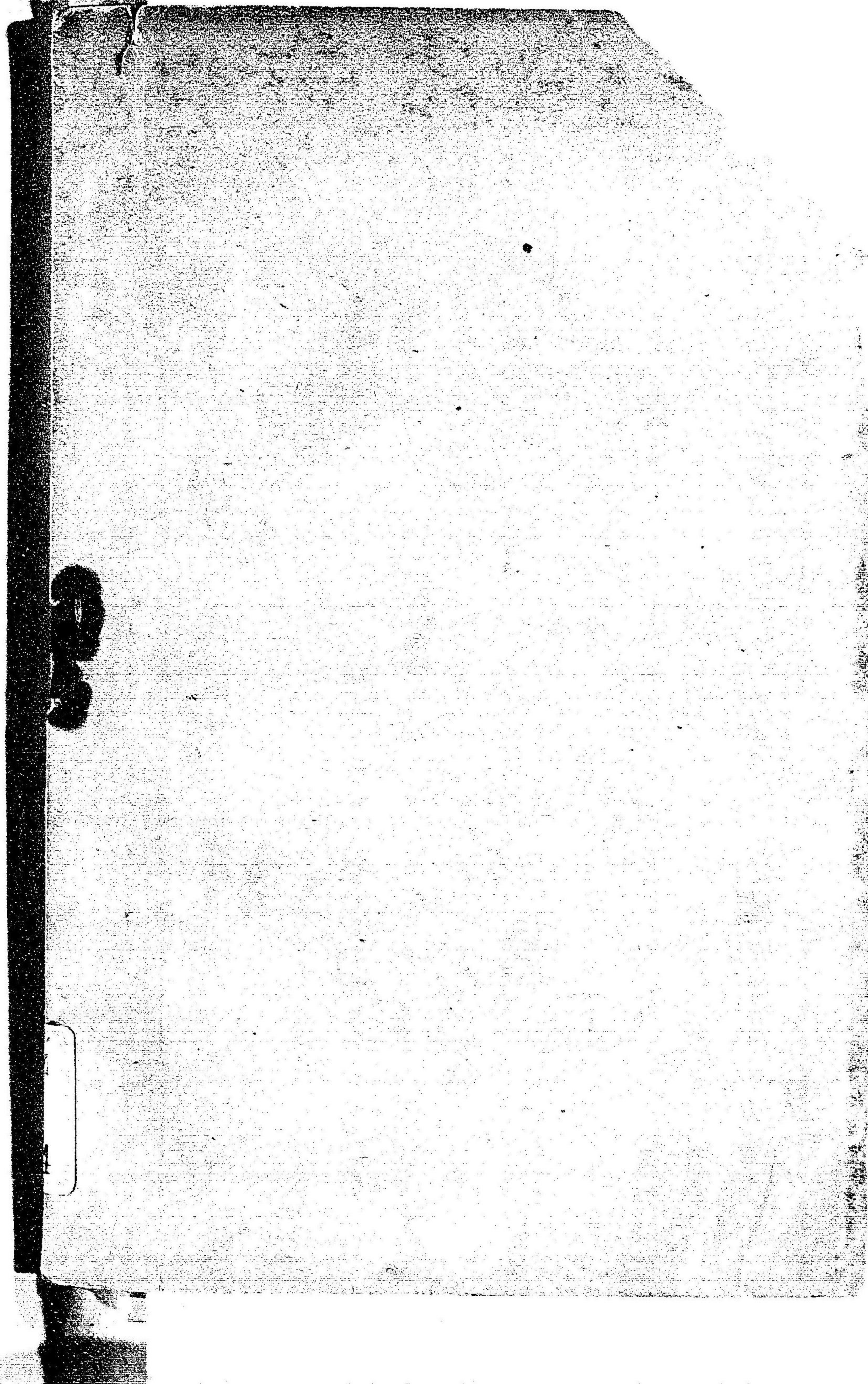
全 榑原友吉

版權所有

東京市本鄉區湯島壹丁目拾三番地

印刷者 松本秋齋





764
374

理化 独案内



特
45

052985-000-0

特24-454

理化独案内

中村 外吉/著

M27

CAA-0419

